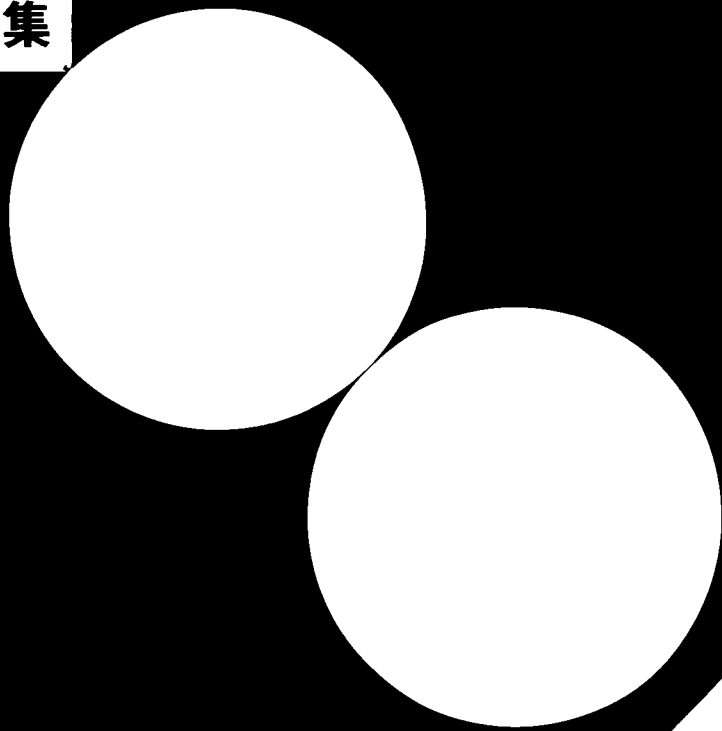


**J.LEAGUE
HANDBOOK
1997**

Jリーグ規約・規程集



J. LEAGUE HANDBOOK

■ 社団法人 日本プロサッカーリーグ・規約規程集 ■

1997年版

社団法人 日本プロサッカーリーグ

〒105 東京都港区虎ノ門2丁目10番1号 新日鉱ビル19階

電話 03 (3505) 5101

FAX 03 (3505) 5310

Jリーグ [社団法人 日本プロサッカーリーグ]

■ 理事会

- | | | | | | | | | | |
|--------------------------|----------------|---------|--------------------------|-----|---------|--|--|--|--|
| <input type="checkbox"/> | 理事長
(チェアマン) | 川 淵 三 郎 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 専務理事 | 森 健 児 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 常務理事 | 木之本 興 三 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 理事 | 岡 野 俊一郎 | <input type="checkbox"/> | 理事 | 森 下 源 基 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 理事 | 小 倉 純 二 | <input type="checkbox"/> | 理事 | 高 坂 弘 典 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 理事 | 浅 見 俊 雄 | <input type="checkbox"/> | 理事 | 荒 田 忠 健 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 理事 | 大 石 仁 邦 | <input type="checkbox"/> | 理事 | 鬼 武 健 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 理事 | 三 井 幹 子 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 理事 | ツ 谷 洋 子 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 理事 | 鈴 木 昌 平 | <input type="checkbox"/> | 監 事 | 桐 竹 賢 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 理事 | 福 田 浩 平 | <input type="checkbox"/> | 監 事 | 佐 藤 健 一 | | | | |

■ 裁定委員会

- | | | | | | | | | | |
|--------------------------|-----|----------------|--|--|--|--|--|--|--|
| <input type="checkbox"/> | 委員長 | 筧 榮 一 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 委員 | 下河辺 淳 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 委員 | 本 林 徹 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 委員 | クリストファー マクドナルド | | | | | | | |

Jクラブ [正会員]

■ 鹿島アントラーズ

- | | | |
|--------------------------|-------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> | 法人名 | 株式会社 鹿島アントラーズ・エフ・シー |
| <input type="checkbox"/> | 代表取締役 | 鈴 木 昌 |
| <input type="checkbox"/> | 実行委員 | 鈴 木 昌 |
| <input type="checkbox"/> | 所在地 | 〒314 茨城県鹿嶋市粟生東山 2887 |
| <input type="checkbox"/> | 電 話 | 0299 (84) 6800 |
| <input type="checkbox"/> | F A X | 0299 (84) 6825 |

■ ジェフユナイテッド市原

- | | | |
|--------------------------|-------|-------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 法人名 | 株式会社 東日本ジェイアール古河サッカークラブ |
| <input type="checkbox"/> | 代表取締役 | 福 田 浩 平 |
| <input type="checkbox"/> | 実行委員 | 福 田 浩 平 |
| <input type="checkbox"/> | 所在地 | 〒279 千葉県浦安市舞浜 26 |

- 電 話 0473 (54) 9069
 F A X 0473 (54) 9297
-

■ 柏レイソル

- 法人名 株式会社 日立スポーツ
 代表取締役 柏 樹 隆
 実行委員 柏 樹 隆
 所在地 〒277 千葉県柏市日立台1-2-50
 電 話 0471 (67) 0717
 F A X 0471 (67) 6166
-

■ 浦和レッドダイヤモンドズ

- 法人名 株式会社 三菱自動車フットボールクラブ
 代表取締役 清 水 泰 男
 実行委員 清 水 泰 男
 所在地 〒336 埼玉県浦和市仲町2-4-1
 電 話 048 (832) 3240
 F A X 048 (832) 6688
-

■ ヴェルディ川崎

- 法人名 株式会社 読売日本サッカークラブ
 代表取締役 森 下 源 基
 実行委員 森 下 源 基
 所在地 〒206 東京都稲城市矢野口 3294
 電 話 044 (946) 3030
 F A X 044 (946) 3040
-

■ 横浜マリノス

- 法人名 日産フットボールクラブ 株式会社
 代表取締役 高 坂 弘 巳
 実行委員 高 坂 弘 巳
 所在地 〒221 神奈川県横浜市神奈川区新子安1-37-1
 電 話 045 (434) 2331
 F A X 045 (402) 4822
-

■ 横浜フリューゲルス

- 法人名 全日空スポーツ 株式会社
 代表取締役 長谷川 章
 実行委員 長谷川 章
 所在地 〒222 神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜WNビル3階
 電 話 045 (476) 2600
 F A X 045 (476) 2629
-

■ ベルマーレ平塚

- 法人名 株式会社 湘南ベルマーレ平塚
 代表取締役 高 島 勇
 実行委員 高 島 勇
 所在地 〒254 神奈川県平塚市大神 3489-1
 電 話 0463 (54) 0275

F A X 0463 (54) 4440

■ 清水エスパルス

法人名 株式会社 エスラップ・コミュニケーションズ
 代表取締役 横田 正毅
 実行委員 横田 正毅
 所在地 〒424 静岡県清水市港町2-10-1 浪漫館1F
 電話 054 (353) 6666
 F A X 054 (353) 6655

■ ジュビロ磐田

法人名 株式会社 ヤマハフットボールクラブ
 代表取締役 荒田 忠典
 実行委員 荒田 忠典
 所在地 〒438 静岡県磐田市新貝2500
 電話 0538 (36) 2000
 F A X 0538 (37) 4464

■ 名古屋グランパスエイト

法人名 株式会社 名古屋グランパスエイト
 代表取締役 岩崎 正視
 実行委員 佐藤 健一
 所在地 〒460 愛知県名古屋市中区栄5-1-32 久屋ワイエスビル6階
 電話 052 (242) 9180
 F A X 052 (242) 9194

■ 京都パープルサンガ

法人名 株式会社 京都パープルサンガ
 代表取締役 西村 勝美
 実行委員 西村 勝美
 所在地 〒600 京都府京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町87
 電話 075 (212) 0635
 F A X 075 (212) 0628

■ ガンバ大阪

法人名 株式会社 ガンバ大阪
 代表取締役 八木 勝吉
 実行委員 八木 勝吉
 所在地 〒532 大阪府大阪市淀川区宮原4-6-18 新大阪和幸ビル1階
 電話 06 (396) 2121
 F A X 06 (396) 2020

■ セレッソ大阪

法人名 大阪サッカークラブ 株式会社
 代表取締役 鬼武 健二
 実行委員 鬼武 健二
 所在地 〒558 大阪府大阪市住吉区长居東2-2-19
 電話 06 (609) 3700
 F A X 06 (609) 3760

■ ヴィッセル神戸

- 法人名 株式会社 ヴィッセル神戸
 - 代表取締役 濱崎 安弘
 - 実行委員 濱崎 安弘
 - 所在地 〒651 兵庫県神戸市中央区琴ノ緒町1-5-9 琴ノ緒ビル4階
 - 電話 078 (222) 6661
 - F A X 078 (222) 6835
-

■ サンフレッチェ広島

- 法人名 株式会社 サンフレッチェ広島
 - 代表取締役 信藤 整
 - 実行委員 信藤 整
 - 所在地 〒730 広島県広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ4F
 - 電話 082 (247) 3255
 - F A X 082 (247) 3115
-

■ アビスパ福岡

- 法人名 福岡ブルックス株式会社
 - 代表取締役 末安 剛明
 - 実行委員 末安 剛明
 - 所在地 〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前1-4-1 博多駅前第一生命ビル
 - 電話 092 (413) 4455
 - F A X 092 (474) 2255
-

Jクラブ〔準会員〕

■ ブランメル仙台

- 法人名 株式会社 東北ハンドレッド
 - 代表取締役 佐々木 茂
 - 所在地 〒980 宮城県仙台市青葉区中央2-11-19 仙南ビル1階
 - 電話 022 (214) 1111
 - F A X 022 (214) 1616
-

■ コンサドーレ札幌

- 法人名 株式会社 北海道フットボールクラブ
 - 代表取締役 金井 英明
 - 所在地 〒060 北海道札幌市中央区大通西1-16-14 4F
 - 電話 011(218)3999
 - F A X 011(233)6000
-

社団法人日本プロサッカーリーグ 定 款

第 1 章 総 則

■ 第 1 条	〔名 称〕	P. 1
■ 第 2 条	〔事務所〕	P. 1
■ 第 3 条	〔支 部〕	P. 1

第 2 章 目的及び事業

■ 第 4 条	〔目 的〕	P. 1
■ 第 5 条	〔事 業〕	P. 1

第 3 章 会 員

■ 第 6 条	〔種 別〕	P. 2
■ 第 7 条	〔入 会〕	P. 2
■ 第 8 条	〔入会金及び会費〕	P. 2
■ 第 9 条	〔資格の喪失〕	P. 2
■ 第 10 条	〔退 会〕	P. 2
■ 第 11 条	〔除 名〕	P. 3
■ 第 12 条	〔会費等の不返還〕	P. 3

第 4 章 役員及び職員

■ 第 13 条	〔役 員〕	P. 3
■ 第 14 条	〔役員を選任〕	P. 3
■ 第 15 条	〔理事の職務〕	P. 3
■ 第 16 条	〔監事の職務〕	P. 4
■ 第 17 条	〔役員任期〕	P. 4
■ 第 18 条	〔役員解任〕	P. 4
■ 第 19 条	〔役員報酬〕	P. 4
■ 第 20 条	〔顧 問〕	P. 4
■ 第 21 条	〔事務局〕	P. 4

第 5 章 総 会

■ 第 22 条	〔構 成〕	P. 5
■ 第 23 条	〔開 催〕	P. 5
■ 第 24 条	〔招 集〕	P. 5
■ 第 25 条	〔議 長〕	P. 5
■ 第 26 条	〔議決事項〕	P. 5
■ 第 27 条	〔定足数等〕	P. 5
■ 第 28 条	〔会員への通知〕	P. 5
■ 第 29 条	〔議事録〕	P. 6

第 6 章 理 事 会

■ 第 30 条	〔構成〕	P. 6
■ 第 31 条	〔理事会の開催〕	P. 6
■ 第 32 条	〔招集〕	P. 6
■ 第 33 条	〔議長〕	P. 6
■ 第 34 条	〔定足数等〕	P. 6
■ 第 35 条	〔議事録〕	P. 7

第 7 章 実行委員会

■ 第 36 条	〔実行委員会〕	P. 7
----------	---------	-------	------

第 8 章 資産及び会計

■ 第 37 条	〔資産の構成〕	P. 7
■ 第 38 条	〔資産の種別〕	P. 7
■ 第 39 条	〔資産の管理〕	P. 7
■ 第 40 条	〔基本財産の処分の制限〕	P. 8
■ 第 41 条	〔経費の支弁〕	P. 8
■ 第 42 条	〔事業計画及び収支予算〕	P. 8
■ 第 43 条	〔収支決算〕	P. 8
■ 第 44 条	〔特別会計〕	P. 8
■ 第 45 条	〔長期借入金〕	P. 8
■ 第 46 条	〔新たな義務の負担等〕	P. 8
■ 第 47 条	〔会計年度〕	P. 8

第 9 章 定款の変更及び解散

■ 第 48 条	〔定款の変更〕	P. 9
■ 第 49 条	〔解散〕	P. 9
■ 第 50 条	〔残余財産の処分〕	P. 9

第 10 章 雑 則

■ 第 51 条	〔書類及び帳簿の備置等〕	P. 9
■ 第 52 条	〔細 則〕	P. 9

J リーグ 規 約

■ 社団法人 日本プロサッカーリーグ 規約 ■

第 1 章 総 則

■ 第 1 条	〔Jリーグの目的〕	P. 11
■ 第 2 条	〔本規約の趣旨〕	P. 11
■ 第 3 条	〔遵守義務〕	P. 11

第 2 章 組 織

第 1 節 理 事 会

■ 第 4 条	〔理事会〕	P. 11
■ 第 5 条	〔理事会の権限〕	P. 12

第2節 チェアマン	
■ 第6条〔チェアマン〕	P.12
■ 第7条〔チェアマンの権限〕	P.12

第3節 実行委員会	
■ 第8条〔構成〕	P.12
■ 第9条〔招集〕	P.12
■ 第10条〔招集権者および議長〕	P.12
■ 第11条〔権限〕	P.13
■ 第12条〔定足数および決議要件〕	P.13
■ 第13条〔代理出席〕	P.13
■ 第14条〔議事録〕	P.13
■ 第15条〔事務局〕	P.13

第4節 その他の委員会	
■ 第16条〔専門委員会〕	P.13

第5節 事務局	
■ 第17条〔事務局の設置〕	P.14
■ 第18条〔事務局の運営〕	P.14

第3章 Jクラブ

■ 第19条〔Jクラブの資格要件〕	P.14
■ 第20条〔入会金および会費〕	P.15
■ 第21条〔Jクラブのホームタウン(本拠地)〕	P.15
■ 第22条〔Jクラブの権益〕	P.15
■ 第23条〔財務内容の開示〕	P.16
■ 第24条〔株主の変更等〕	P.16
■ 第25条〔役員等禁止事項〕	P.16
■ 第26条〔名称および活動区域等〕	P.16
■ 第27条〔準会員〕	P.18
■ 第27条の2〔準会員が正会員となるための手続き〕	P.18

第4章 競技

第1節 競技場	
■ 第28条〔競技場の確保と維持〕	P.19
■ 第29条〔競技場〕	P.19
■ 第30条〔競技場付帯設備〕	P.20
■ 第31条〔照明装置〕	P.20
■ 第32条〔ベンチ〕	P.20
■ 第33条〔医療施設〕	P.20
■ 第34条〔ビジタークラブのための観客席の確保〕	P.20
■ 第35条〔広告看板の設置〕	P.21
■ 第36条〔競技場における告知等〕	P.21
■ 第37条〔公式試合開催指定競技場〕	P.21
■ 第38条〔競技場の視察〕	P.21
■ 第39条〔悪天候の場合のピッチ整備の義務〕	P.21

第2節 公式試合	
■ 第40条〔公式試合〕	P.22
■ 第41条〔参加義務等〕	P.22
■ 第42条〔最強のチームによる試合参加〕	P.22
■ 第43条〔不正行為への関与の禁止〕	P.22

■ 第 44 条	〔公式試合の主催等〕	P. 22
■ 第 45 条	〔主管権の譲渡〕	P. 22
■ 第 46 条	〔競技規則〕	P. 23
■ 第 47 条	〔届出義務〕	P. 23
■ 第 48 条	〔出場資格〕	P. 23
■ 第 49 条	〔ユニホーム〕	P. 23
■ 第 50 条	〔試合球〕	P. 23
■ 第 51 条	〔Jクラブの責任〕	P. 23
■ 第 52 条	〔選手の健康管理およびドクター〕	P. 24
■ 第 53 条	〔負傷した選手の活動再開の制限〕	P. 24

第 3 節 試合の運営

■ 第 54 条	〔リーグ戦・リーグカップ戦の開催期間〕	P. 24
■ 第 55 条	〔公式試合の開催〕	P. 24
■ 第 56 条	〔試合日程の遵守〕	P. 24
■ 第 57 条	〔試合の日時または場所の変更〕	P. 25
■ 第 58 条	〔特別の事情による変更〕	P. 25
■ 第 59 条	〔同日開催の制限〕	P. 25
■ 第 60 条	〔抱き合わせ開催の禁止〕	P. 25
■ 第 61 条	〔マッチコミッサー〕	P. 25
■ 第 62 条	〔試合の中止の決定〕	P. 26
■ 第 63 条	〔不可抗力による開催不能または中止〕	P. 26
■ 第 64 条	〔敗戦とみなされる場合〕	P. 26
■ 第 65 条	〔試合結果の報告〕	P. 26
■ 第 66 条	〔試合実施要項〕	P. 26
■ 第 67 条	〔規律委員会による処分〕	P. 26

第 4 節 非公式試合

■ 第 68 条	〔有料試合の開催〕	P. 27
■ 第 69 条	〔外国チームとの試合等〕	P. 27
■ 第 70 条	〔興行等への参加禁止〕	P. 27
■ 第 71 条	〔救済試合〕	P. 27
■ 第 72 条	〔引退試合〕	P. 27
■ 第 73 条	〔救済試合および引退試合の開催手続等〕	P. 27
■ 第 74 条	〔慈善試合〕	P. 27

第 5 節 試合の収支

■ 第 75 条	〔公式試合の費用負担〕	P. 28
■ 第 76 条	〔Jリーグ主管試合の収入の配分〕	P. 28
■ 第 77 条	〔救済試合、引退試合および慈善試合の損益の配分〕	P. 28
■ 第 78 条	〔不可抗力による試合中止等の場合の費用の負担〕	P. 28
■ 第 79 条	〔帰責事由あるクラブの費用の負担〕	P. 28
■ 第 80 条	〔納付金〕	P. 28
■ 第 81 条	〔収支報告〕	P. 29
■ 第 82 条	〔遠征費用〕	P. 29

第 6 節 表 彰

■ 第 83 条	〔リーグ表彰〕	P. 29
■ 第 84 条	〔功労者表彰〕	P. 29
■ 第 85 条	〔表彰規程〕	P. 29
■ 第 86 条	〔特別表彰〕	P. 29

第 5 章 選 手

■ 第 87 条	〔誠実義務〕	P. 30
----------	--------	-------

■ 第 88 条〔履行義務〕	P. 30
■ 第 88 条の 2〔ドーピングの禁止〕	P. 30
■ 第 89 条〔禁止事項〕	P. 30
■ 第 90 条〔費用の負担および用具の使用〕	P. 31
■ 第 91 条〔疾病および傷害〕	P. 31
■ 第 92 条〔選手契約〕	P. 31
■ 第 93 条〔選手の報酬等〕	P. 31
■ 第 94 条〔支度金〕	P. 31
■ 第 95 条〔代理人等〕	P. 31
■ 第 96 条〔未成年者〕	P. 32
■ 第 97 条〔選手の肖像等の使用〕	P. 32
■ 第 98 条〔契約に関する紛争の解決〕	P. 32

第 6 章 登録および移籍

第 1 節 登 録

■ 第 99 条〔協会の登録規程の遵守〕	P. 32
■ 第 100 条〔未登録の選手〕	P. 33

第 2 節 移 籍

■ 第 101 条〔協会の移籍規程の遵守〕	P. 33
■ 第 102 条〔契約更新の通知〕	P. 33
■ 第 103 条〔専属交渉期間〕	P. 33
■ 第 104 条〔通知の効果〕	P. 33
■ 第 105 条〔移籍リストへの登録〕	P. 33
■ 第 106 条〔他のクラブとの自由交渉権〕	P. 33
■ 第 107 条〔元のクラブとの交渉権の喪失〕	P. 34
■ 第 108 条〔優先契約権の行使〕	P. 34
■ 第 109 条〔更新を希望しない場合〕	P. 34
■ 第 110 条〔最終提示額証明書〕	P. 34
■ 第 111 条〔移籍リストの運用〕	P. 34
■ 第 112 条〔移籍承諾書発行依頼書〕	P. 34

第 7 章 監督およびコーチ

■ 第 113 条〔トップチームの監督〕	P. 35
■ 第 114 条〔トップチーム以外の監督またはコーチ〕	P. 35
■ 第 115 条〔例 外〕	P. 35
■ 第 116 条〔研修への参加義務〕	P. 35
■ 第 117 条〔選手兼務の禁止〕	P. 35
■ 第 118 条〔契約等〕	P. 35
■ 第 119 条〔守秘義務〕	P. 35

第 8 章 審 判

■ 第 120 条〔資格要件〕	P. 36
■ 第 121 条〔指 名〕	P. 36
■ 第 122 条〔審判の服装および用具〕	P. 36
■ 第 123 条〔身分証〕	P. 36
■ 第 124 条〔手当等〕	P. 36
■ 第 125 条〔保 険〕	P. 36

第 9 章 収 益 事 業

第 1 節 各種の事業

■ 第126条〔収益事業〕	P.37
■ 第127条〔テレビ・ラジオ放送権〕	P.37
■ 第128条〔その他の事業〕	P.37
■ 第129条〔Jリーグ・スポンサー〕	P.37
■ 第130条〔収入の配分〕	P.37

第2節 商品化に関する基本原則

■ 第131条〔定義〕	P.37
■ 第132条〔商品化権の帰属〕	P.38
■ 第133条〔商品化権の実際上の運用基準〕	P.38
■ 第134条〔事前の通知と承認〕	P.38
■ 第135条〔業務運営委員会による審議〕	P.38
■ 第136条〔肖像等〕	P.38
■ 第137条〔収入の配分〕	P.38

第10章 紛争解決

第1節 裁定委員会

■ 第138条〔設置〕	P.39
■ 第139条〔組織および委員〕	P.39
■ 第140条〔委員の任期〕	P.39
■ 第141条〔委員長〕	P.39
■ 第142条〔事務局〕	P.39
■ 第143条〔裁定委員会規程〕	P.39

第2節 チェアマンの決定

■ 第144条〔チェアマンの決定を求める申立〕	P.40
■ 第145条〔裁定委員会の答申〕	P.40
■ 第146条〔チェアマンの決定〕	P.40
■ 第147条〔和解〕	P.40

第11章 制裁

第1節 総則

■ 第148条〔チェアマンによる制裁および調査〕	P.40
■ 第149条〔制裁金の併科〕	P.41
■ 第150条〔裁定委員会への諮問〕	P.41
■ 第151条〔制裁金の納付〕	P.41
■ 第152条〔制裁金の合算〕	P.41
■ 第153条〔他者を利用した違反行為〕	P.41
■ 第154条〔両罰規定〕	P.41
■ 第155条〔違反行為の重複による加重〕	P.42
■ 第156条〔酌量軽減〕	P.42

第2節 Jクラブに対する制裁金

■ 第157条〔届出等に関する規約違反〕	P.42
■ 第158条〔競技の運営等に関する規約違反〕	P.42
■ 第159条〔契約更新手続に関する規約違反〕	P.42
■ 第160条〔Jクラブの義務等に関する規約違反(1)〕	P.43
■ 第161条〔Jクラブの義務等に関する規約違反(2)〕	P.43
■ 第162条〔Jクラブの義務等に関する規約違反(3)〕	P.43

第3節 反則金

■ 第163条〔アンフェアなプレイに対する反則金〕	P.44
■ 第164条〔反則ポイントの計算方法〕	P.44

第 12 章 最終的拘束力

- 第 165 条〔最終的拘束力〕 P.44

第 13 章 改 正

- 第 166 条〔改 正〕 P.45

第 14 章 附 則

- 第 1 条〔施行期日〕 P.45

実行委員会規程

- 第 1 条〔目的〕 P.46
- 第 2 条〔構成〕 P.46
- 第 3 条〔資格要件〕 P.46
- 第 4 条〔任期〕 P.46
- 第 5 条〔招集〕 P.46
- 第 6 条〔招集権者および議長〕 P.46
- 第 7 条〔権 限〕 P.46
- 第 8 条〔定足数および決議要件〕 P.47
- 第 9 条〔代理出席〕 P.47
- 第 10 条〔関係者の出席〕 P.47
- 第 11 条〔議事録〕 P.47
- 第 12 条〔事務局〕 P.47
- 第 13 条〔改 正〕 P.47
- 第 14 条〔施 行〕 P.47

専門委員会規程

- 第 1 条〔趣 旨〕 P.49
- 第 2 条〔組織・運営〕 P.49
- 第 3 条〔委員の登録〕 P.49
- 第 4 条〔任期〕 P.49
- 第 5 条〔各専門委員会の所管事項〕 P.49
- 第 6 条〔各専門委員会の職務〕 P.49
- 第 7 条〔議事録〕 P.50
- 第 8 条〔事務局〕 P.50
- 第 9 条〔細 則〕 P.50
- 第 10 条〔施 行〕 P.50
- 別表 1〔所管事項〕 P.51

主管権譲渡規程

■ 第 1 条〔趣 旨〕	P .55
■ 第 2 条〔主管権の譲渡〕	P .55
■ 第 3 条〔後援・協力〕	P .55
■ 第 4 条〔譲渡の手続き〕	P .55
■ 第 5 条〔譲渡金および純益の配分〕	P .55
■ 第 6 条〔テレビ・ラジオ放送権〕	P .56
■ 第 7 条〔試合の運営〕	P .56
■ 第 8 条〔施 行〕	P .56
■ 主管権譲渡承認申請書〔様式 1〕	P .57
■ 主管権譲渡承認申請書〔様式 2〕	P .59

公式試合出場料規程

■ 第 1 条〔目 的〕	P .61
■ 第 2 条〔出場料の計算方法〕	P .61
■ 第 3 条〔出場料の計算年度〕	P .61
■ 第 4 条〔出場料の支給方法〕	P .61
■ 第 5 条〔付 則〕	P .61

旅 費 規 程

■ 第 1 条〔目 的〕	P .62
■ 第 2 条〔公式試合の交通費および宿泊費〕	P .62
■ 第 3 条〔Jサテライトリーグ戦〕	P .62
■ 第 4 条〔審判員の交通費および宿泊費〕	P .63
■ 第 5 条〔監督・コーチ等の行事参加〕	P .63
■ 第 6 条〔選手の行事参加〕	P .63
■ 第 7 条〔協会の規程の準用〕	P .63
■ 第 8 条〔施 行〕	P .63

表 彰 規 程

■ 第 1 条〔趣 旨〕	P .65
■ 第 2 条〔各ステージ表彰〕	P .65
■ 第 3 条〔年間総合表彰〕	P .65
■ 第 4 条〔フェアプレイ賞(高円宮杯)〕	P .65
■ 第 5 条〔個人表彰〕	P .65
■ 第 6 条〔リーグカップ表彰〕	P .66
■ 第 7 条〔功労者表彰〕	P .66
■ 第 8 条〔Jリーグ・アウォーズ〕	P .66
■ 第 9 条〔施 行〕	P .67

ドーピング禁止規程

■ 第 1 条〔趣 旨〕	P . 68
■ 第 2 条〔ドーピングの定義〕	P . 68
■ 第 3 条〔ドーピングテストの手続き〕	P . 68
■ 第 4 条〔関与等の禁止〕	P . 68
■ 第 5 条〔罰 則〕	P . 68
■ 第 6 条〔弁明の機会の付与〕	P . 69
■ 別表 I	P . 69

支度金支給基準規程

■ 支度金支給基準	P . 72
-----------	-------	--------

裁定委員会規程

■ 第 1 条〔趣 旨〕	P . 74
■ 第 2 条〔会議および議決〕	P . 74
■ 第 3 条〔審理の非公開〕	P . 74
■ 第 4 条〔申立手続き〕	P . 74
■ 第 5 条〔申立の受理および通知〕	P . 74
■ 第 6 条〔答 弁〕	P . 75
■ 第 7 条〔提出書類の部数〕	P . 75
■ 第 8 条〔申立内容の変更〕	P . 75
■ 第 9 条〔訳文の添付〕	P . 75
■ 第 10 条〔代理人〕	P . 75
■ 第 11 条〔審理または調査のための権限等〕	P . 75
■ 第 12 条〔費用の負担〕	P . 75
■ 第 13 条〔裁 定〕	P . 76
■ 第 14 条〔和 解〕	P . 76
■ 第 15 条〔裁定委員会の運営細則〕	P . 76
■ 第 16 条〔施 行〕	P . 76

'97 Jリーグ試合実施要項

第 I 節 競 技 場

■ 第 1 条〔競技場の確保と維持〕	P . 77
■ 第 2 条〔競技場〕	P . 77
■ 第 3 条〔競技場付帯設備および旗の掲揚〕	P . 77
■ 第 4 条〔照明装置〕	P . 78
■ 第 5 条〔ベンチ〕	P . 78
■ 第 6 条〔医事運営〕	P . 79
■ 第 7 条〔ビジタークラブのための観客席の確保〕	P . 79
■ 第 8 条〔広告看板の設置〕	P . 79
■ 第 9 条〔競技場における告知等〕	P . 80
■ 第 10 条〔公式試合開催指定競技場の指定〕	P . 80
■ 第 11 条〔競技場の視察〕	P . 80

■ 第 12 条	〔悪天候の場合のピッチ整備の義務〕	P.81
----------	-------------------	-------	------

第 2 節 試 合

■ 第 13 条	〔大会形式〕	P.81
■ 第 14 条	〔試合の主催等〕	P.81
■ 第 15 条	〔主管権の譲渡〕	P.81
■ 第 16 条	〔競技規則〕	P.81
■ 第 17 条	〔届出義務〕	P.81
■ 第 18 条	〔出場資格〕	P.82
■ 第 19 条	〔出場資格を得るための追加登録期限〕	P.82
■ 第 20 条	〔出場可能日〕	P.82
■ 第 21 条	〔メディカルチェック〕	P.82
■ 第 22 条	〔試合エントリー選手の人数〕	P.82
■ 第 23 条	〔外国籍選手〕	P.82
■ 第 24 条	〔ユニフォーム〕	P.82
■ 第 25 条	〔フィールド内のチーム要員〕	P.82
■ 第 26 条	〔試合の勝敗の決定〕	P.83
■ 第 27 条	〔各ステージの順位の決定〕	P.83
■ 第 28 条	〔1997 年総合順位の決定〕	P.83
■ 第 29 条	〔審判員〕	P.84
■ 第 30 条	〔通行証〕	P.84
■ 第 31 条	〔入場料〕	P.84
■ 第 32 条	〔試合球〕	P.85
■ 第 33 条	〔Jクラブの責任〕	P.85

第 3 節 運 営

■ 第 34 条	〔日 程〕	P.85
■ 第 35 条	〔試合の日時または場所の変更〕	P.85
■ 第 36 条	〔特別の事情による変更〕	P.85
■ 第 37 条	〔運営責任〕	P.85
■ 第 38 条	〔抱き合わせ開催の禁止〕	P.86
■ 第 39 条	〔マッチコミッサリー〕	P.86
■ 第 40 条	〔試合中止および中断の決定〕	P.86
■ 第 41 条	〔競技場への到着〕	P.87
■ 第 42 条	〔キックオフ時刻の厳守〕	P.87
■ 第 43 条	〔敗戦とみなされる場合〕	P.87
■ 第 44 条	〔前条の場合の記録〕	P.87
■ 第 45 条	〔メンバー提出〕	P.87
■ 第 46 条	〔主審の確認事項〕	P.87
■ 第 47 条	〔選手の交代〕	P.87
■ 第 48 条	〔不可抗力による開催不能または中止〕	P.88
■ 第 49 条	〔試合続行不可能となった場合の入場料金の払い戻し〕	P.88
■ 第 50 条	〔係 員〕	P.88
■ 第 51 条	〔マスコミ対応〕	P.88
■ 第 52 条	〔公式記録〕	P.88
■ 第 53 条	〔試合運営報告〕	P.89
■ 第 54 条	〔退場処分〕	P.89
■ 第 55 条	〔警告による出場停止処分〕	P.89

第 4 節 試合の収支

■ 第 56 条	〔試合の費用負担等〕	P.89
■ 第 57 条	〔不可抗力による試合中止等の場合の費用の補償〕	P.89
■ 第 58 条	〔帰責事由あるクラブの費用の負担〕	P.89
■ 第 59 条	〔テレビ放送権〕	P.90
■ 第 60 条	〔収支報告〕	P.90

■ 第 61 条〔納付金〕	P.90
■ 第 62 条〔納付期限〕	P.90
■ 第 63 条〔遠征費用〕	P.90

ユニフォーム要項

■ 第 1 条〔趣旨〕	P.91
■ 第 2 条〔使用義務〕	P.91
■ 第 3 条〔選手番号〕	P.91
■ 第 4 条〔Jリーグマークおよびチャンピオンマーク等〕	P.91
■ 第 5 条〔チームエンブレム〕	P.91
■ 第 6 条〔メーカー名の表示〕	P.91
■ 第 7 条〔広告の表示〕	P.92
■ 第 8 条〔選手名の表示〕	P.92
■ 別表 1〔Jリーグ関連スポンサー広告看板設置位置〕	P.93

関係資料

■ 別紙 1〔救急用機器・医薬品〕	P.94
■ 別紙 2〔広告掲出申請書〕	P.95
■ 別紙 3〔選手データ票〕	P.97
■ 別紙 4〔役員・チームスタッフデータ票〕	P.98
■ 別紙 5〔メンバー提出用紙〕	P.99
■ 別紙 6〔入場券報告書〕	P.100
■ 別紙 7〔試合開催に関する変更申請書〕	P.101
■ 別紙 8〔Jリーグ マッチコミッサリー報告書〕	P.102
■ 別紙 9〔Jリーグ マッチコミッサリー緊急報告書〕	P.106
■ 別紙 10〔試合メンバー表〕	P.107
■ 別紙 11〔公式記録用紙〕	P.108
■ 別紙 12〔試合運営報告書〕	P.109
■ 別紙 13〔試合収支決算書〕	P.110

日本サッカー協会 関連諸規程

選手登録規程

■ 第 1 条	[総 則]	P.111
■ 第 2 条	[登録区分]	P.111
■ 第 3 条	[アマチュア規程]	P.111
■ 第 4 条	[アマチュア以外の選手]	P.111
■ 第 5 条	[規約, 規程等の遵守義務]	P.111
■ 第 6 条	[選手登録の方法]	P.111
■ 第 7 条	[登録有効期間]	P.112
■ 第 8 条	[登録区分変更]	P.112
■ 第 9 条	[資格認定等の原則]	P.112
■ 第 10 条	[外国籍の選手]	P.112
■ 第 11 条	[外国籍扱いしない選手]	P.112
■ 第 12 条	[公式試合への出場]	P.112
■ 第 13 条	[代表チームへの参加]	P.112
■ 第 14 条	[規程違反]	P.113
■ 第 15 条	[改 正]	P.113

選手移籍規程

■ 第 1 条	[総 則]	P.114
■ 第 2 条	[目 的]	P.114
■ 第 3 条	[移籍の定義]	P.114
■ 第 4 条	[移籍の手続き]	P.114
■ 第 5 条	[アマチュア選手がアマチュア選手として移籍する場合]	P.114
■ 第 6 条	[アマチュア以外の選手がアマチュア選手として移籍する場合]	P.115
■ 第 7 条	[アマチュア選手として移籍する場合の特例]	P.115
■ 第 8 条	[アマチュア選手がアマチュア以外の選手として移籍する場合]	P.115
■ 第 9 条	[アマチュア以外の選手がアマチュア以外の選手として移籍する場合]	P.115
■ 第 10 条	[外国籍選手等の移籍]	P.115
■ 第 11 条	[公式試合への出場資格]	P.116
■ 第 12 条	[外国への移籍]	P.116
■ 第 13 条	[代理人等]	P.116
■ 第 14 条	[規程違反]	P.116
■ 第 15 条	[移籍に関する異議等]	P.117
■ 第 16 条	[改正等]	P.117

附 則

■ 第 1 条	[施行期日]	P.117
---------	--------	-------	-------

日本サッカー協会選手契約書

〔プロ選手統一契約書〕

■ 第 1 条〔誠実義務〕	P.118
■ 第 2 条〔履行義務〕	P.118
■ 第 3 条〔禁止事項〕	P.118
■ 第 4 条〔報酬〕	P.119
■ 第 5 条〔報酬の算定基準〕	P.120
■ 第 6 条〔費用の負担および用具の使用〕	P.120
■ 第 7 条〔休暇〕	P.120
■ 第 8 条〔疾病および傷害〕	P.120
■ 第 9 条〔選手の肖像等の使用〕	P.120
■ 第 10 条〔クラブによる契約解除〕	P.121
■ 第 11 条〔選手による契約解除〕	P.121
■ 第 12 条〔制裁〕	P.121
■ 第 13 条〔有効期間および更新手続き〕	P.121
■ 第 14 条〔修正〕	P.122
■ 第 15 条〔準拠法〕	P.122
■ 第 16 条〔紛争の解決〕	P.122
■ 第 17 条〔保管〕	P.122
■ 別紙 1〔特別給の支給基準〕	P.124
■ 別紙 2〔その他の報酬〕	P.126

移籍金算出基準

■ 第 1 条〔趣旨〕	P.127
■ 第 2 条〔適用〕	P.127
■ 第 3 条〔算出方法〕	P.127
■ 第 4 条〔端数の処理〕	P.128
■ 第 5 条〔税金の取扱い〕	P.128
■ 第 6 条〔支払方法〕	P.128
■ 第 7 条〔実施〕	P.128

トレーニング費用請求基準

■ 第 1 条〔趣旨〕	P.129
■ 第 2 条〔トレーニング費用の金額〕	P.129
■ 第 3 条〔支払方法〕	P.129
■ 第 4 条〔実施〕	P.129

懲罰規程・懲罰基準

■ 懲罰規程	P.130
■ 懲罰基準	P.131

関 係 資 料

■ 書式 A 契約更新に関する通知書	P.135
■ 書式 B 移籍リスト登録申請書	P.136
■ 書式 C 最終提示額証明書	P.137
■ 書式 D 移籍承諾書発行依頼書	P.138
* 契約更新と移籍交渉に関する手続き	P.139

社団法人 日本プロサッカーリーグ 定 款

第 1 章 総 則

第 1 条〔名 称〕

この法人は、社団法人日本プロサッカーリーグといい、英文では Japan Professional Football League (略称 JPFL) と表示する。

第 2 条〔事務所〕

この法人は、事務所を東京都港区虎ノ門 2 丁目 10 番 1 号に置く。

第 3 条〔支 部〕

この法人は、理事会の議決を経て、支部を置くことができる。

第 2 章 目的及び事業

第 4 条〔目 的〕

この法人は、財団法人日本サッカー協会の傘下団体として、プロサッカー（この法人の正会員となった団体に所属するサッカーチームが業務として行うサッカーをいう。以下同じ。）を通じて日本のサッカーの水準の向上及びサッカーの普及を図ることに、豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達に寄与するとともに、国際社会における交流及び親善に貢献することを目的とする。

第 5 条〔事 業〕

この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) プロサッカーの試合の主催及び公式記録の作成
- (2) プロサッカーに関する諸規約の制定
- (3) プロサッカーの選手、監督及び審判等の養成、資格認定及び登録
- (4) プロサッカーの試合の施設の検定及び用具の認定
- (5) 放送等を通じたプロサッカーの試合の広報普及
- (6) サッカー及びサッカー技術に関する調査、研究及び指導
- (7) プロサッカーの選手、監督及び関係者の福利厚生事業の実施
- (8) サッカーに関する国際的な交流及び事業の実施
- (9) サッカーをはじめとするスポーツの振興及び援助

- (10) 機関紙の発行等を通じたプロサッカーに関する広報普及
- (11) その他目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会 員

第 6 条〔種 別〕

この法人の会員は、次のとおりとする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人または法人
- (2) 準会員 この法人の目的に賛同して入会した法人で、正会員に準ずる者
- (3) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人または法人
- (4) 名誉会員 この法人に特に功労のあった者で総会の議決をもって推薦された者

第 7 条〔入 会〕

会員になろうとする者は、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。

第 8 条〔入会金及び会費〕

- ① 正会員、準会員または賛助会員になろうとする者は、総会において別に定める入会金を納入しなければならない。
- ② 正会員、準会員または賛助会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。
- ③ 個人である正会員または名誉会員は、入会金及び会費を納めることを要しない。
- ④ 特別の費用を必要とするときは、理事会の議決を経て臨時会費を徴収することができる。

第 9 条〔資格の喪失〕

会員は、次の事由によって資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。
- (2) 禁治産もしくは準禁治産または破産の宣告を受けたとき。
- (3) 死亡し、もしくは失踪宣告を受け、または法人である会員が解散したとき。
- (4) 除名されたとき。

第 10 条〔退 会〕

会員が退会しようとするときは、正会員及び準会員については退会希望日の 12 か月前までに、その他の会員については退会希望日の 2 か月前までに、それぞれ理由を付した退会届を理事長に提出しなければならない。

第11条〔除名〕

- ① 会員が次の各号の一に該当するときは、総会において正会員現在数の4分の3以上の多数による議決を経て、理事長が除名することができる。
 - (1) この法人の名誉を傷つけ、またはこの法人の目的に違反する行為があったとき。
 - (2) この法人の会員としての義務に違反したとき。
 - (3) 会費または臨時会費を6か月以上滞納したとき。
- ② 前項第1号及び第2号の規定により会員を除名しようとするときは、除名の議決を行う総会において、その会員に弁明の機会を与えなければならない。

第12条〔会費等の不返還〕

退会し、または除名された会員が既に納入した入会金、会費その他の拠出金品は、いかなる事由があっても、これを返還しない。

第4章 役員及び職員

第13条〔役員〕

この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 10名以上15名以内（うち理事長1名、専務理事及び常務理事若干名）
- (2) 監事 2名

第14条〔役員を選任〕

- ① 理事及び監事は、総会において選任する。
- ② 理事長、専務理事及び常務理事は、理事の互選とする。
- ③ 理事長及び監事は、相互に兼ねることができない。
- ④ 理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特別の関係ある者の合計数が、理事現在数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- ⑤ 監事には、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特別の関係があってはならない。

第15条〔理事の職務〕

- ① 理事長は、この法人を代表し、この法人の業務を統括する。
- ② 専務理事は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき、または理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序で、その職務を代行する。
- ③ 常務理事は、理事長及び専務理事を補佐し、日常の業務を処理する。
- ④ 理事は、理事会を構成し、この定款に定めるもののほか、この法人の総会の権限に属する事項以外の事項を議決し、執行する。

第16条〔監事の職務〕

監事は、この法人の業務及び財産に関し、次の各号に規定する職務を行う。

- (1) 法人の財産の状況を監査すること。
- (2) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (3) 財産の状況または業務の執行について不整の事実を発見したときは、これを理事会及び総会または文部大臣に報告すること。
- (4) 前号の報告をするため必要があるときは、理事会または総会を招集すること。

第17条〔役員任期〕

- ① この法人の役員任期は2年とし、再任を妨げない。
- ② 補欠または増員により選任された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。
- ③ 役員は、任期満了の場合においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

第18条〔役員解任〕

- ① 役員が次の各号のいずれかに該当するときは、理事会において理事現在数の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、総会において正会員現在数の4分の3以上の多数による議決を経て、理事長がこれを解任することができる。
 - (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
- ② 前項の規定により役員を解任しようとするときは、解任の議決を行う理事会及び総会において、その役員に弁明の機会を与えなければならない。

第19条〔役員報酬〕

- ① 役員は、有給とすることができる。
- ② 役員報酬は、理事会の議決を経て理事長が定める。

第20条〔顧問〕

- ① この法人に、顧問を若干名置くことができる。
- ② 顧問は、この法人の理事であった者の中から総会の推薦により理事長が委嘱する。
- ③ 顧問は、重要事項について理事長または理事会の諮問に応じる。

第21条〔事務局〕

- ① この法人の事務を処理するため、事務局を置く。
- ② 事務局には、事務局長及び職員を置く。
- ③ 事務局長の任免は、理事会の同意を得て理事長が行う。
- ④ 事務局長は、理事をもって充てることができる。
- ⑤ 前各項に定めるもののほか、事務局に関する事項は別に定める。

第 5 章 総 会

第 22 条〔構成〕

総会は、正会員をもって構成される。

第 23 条〔開催〕

- ① 通常総会は、毎年 2 月及び 6 月に開催する。
- ② 臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、または正会員現在数の 5 分の 1 以上もしくは監事から附議すべき事項を示して請求があったときに開催する。

第 24 条〔招集〕

- ① 総会は、理事長が招集する。
- ② 総会を招集するには、正会員に対し、附議すべき事項及びその内容並びに日時及び場所を記載した書面をもって、開催の日の 14 日前までに通知しなければならない。

第 25 条〔議長〕

通常総会の議長は理事長とし、臨時総会の議長は、その総会において理事長及び出席正会員の中から選任する。

第 26 条〔議決事項〕

総会は、この定款に別に規定するもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算に関する事項
- (2) 事業報告及び収支決算に関する事項
- (3) 財産目録及び貸借対照表に関する事項
- (4) その他この法人の業務に関する重要事項

第 27 条〔定足数等〕

- ① 総会は、正会員現在数の 2 分の 1 以上の者が出席しなければ、その議事を開き議決することができない。ただし、当該事項につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者及びあらかじめ理事会に届け出て承認を得た者を代理人として表決を委任した者は、出席者とみなす。
- ② 総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第 28 条〔会員への通知〕

総会において議決した事項は、全会員に通知する。

第 29 条〔議事録〕

- ① 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
 - (1) 総会の日時及び場所
 - (2) 正会員の現在数
 - (3) 出席正会員の数
 - (4) 議決事項
 - (5) 議事の経過の概要及びその結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- ② 議事録には、議長のほか、出席正会員のうちからその総会において選出された議事録署名人 2 人以上が署名押印しなければならない。

第 6 章 理 事 会

第 30 条〔構 成〕

理事会は、第 13 条第 1 号の理事をもって構成する。

第 31 条〔理事会の開催〕

理事会は、年 4 回以上開催する。ただし、理事長が必要と認めたとき、または理事現在数の 3 分の 1 以上から附議すべき事項を示して請求があったときにも開催することができる。

第 32 条〔招 集〕

- ① 理事会は、理事長が招集する。
- ② 理事会を招集するには、理事に対し、附議すべき事項及びその内容並びに日数及び場所を示して、開催の日の 10 日前までに書面をもって通知しなければならない。ただし、緊急の必要があるときは、各理事の同意を得て、この期間を短縮することができる。

第 33 条〔議 長〕

理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

第 34 条〔定足数等〕

- ① 理事会は、理事現在数の 3 分の 2 以上の者が出席しなければ議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- ② 理事会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第 35 条〔議事録〕

第 29 条の規定は、理事会の議事録に準用する。この場合において、同条中「総会」とあるのは「理事会」と、「正会員」とあるのは「理事」と、「出席正会員」とあるのは「出席理事」と、「出席正会員のうち」とあるのは「出席理事のうち」と、それぞれ読み替えるものとする。

第 7 章 実行委員会

第 36 条〔実行委員会〕

- ① この法人の事業遂行のため、理事会の議決に基づき実行委員会を置く。
- ② 実行委員会の組織、権限及び運営に関する規定は、理事会が定める。

第 8 章 資産及び会計

第 37 条〔資産の構成〕

この法人の資産は、次のとおりとする。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された財産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 資産から生ずる収入
- (4) 事業に伴う収入
- (5) 寄付金品
- (6) その他の収入

第 38 条〔資産の種別〕

- ① この法人の資産を分けて、基本財産と運用財産の 2 種とする。
- ② 基本財産は、次に掲げるものをいう。
 - (1) 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産
 - (2) 基本財産とすることを指定して寄付された財産
 - (3) 理事会の議決により運用財産から基本財産に繰り入れられた財産
- ③ 運用財産は、基本財産以外の資産とする。

第 39 条〔資産の管理〕

この法人の資産は、理事長が管理し、基本財産のうち現金は、理事会の議決を経て郵便官署もしくは確実な金融機関に預け入れ、信託会社に信託し、また国債、公債その他確実な有価証券にかえて、理事長が保管する。

第 40 条〔基本財産の処分の制限〕

基本財産は、譲渡し、交換し、担保に供し、または運用財産に繰り入れてはならない。ただし、この法人の事業遂行上止むを得ない理由があるときは、理事会及び総会において、理事現在数及び正会員現在数各々の 3 分の 2 以上の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けて、その一部に限り、これらの処分をすることができる。

第 41 条〔経費の支弁〕

この法人の事業遂行に要する経費は、運用財産をもって支弁する。

第 42 条〔事業計画及び収支予算〕

この法人の事業計画及びこれにともなう収支予算は、理事長が編成し、理事会及び総会の議決を経て、毎会計年度開始前に、文部大臣に届け出なければならない。事業計画及び収支予算を変更しようとする場合も同様とする。

第 43 条〔収支決算〕

- ① この法人の収支決算は、理事長が作成し、財産目録、貸借対照表、事業報告書及び財産増減理由書並びに社員異動状況届とともに、監事の意見を付け、理事会及び総会の承認を受けて、毎会計年度終了後 3 か月以内に文部大臣に報告しなければならない。
- ② この法人の収支決算に剰余金があるときは、理事会の議決及び総会の承認を受けて、その一部もしくは全部を基本財産に編入し、または翌年度に繰り越すものとする。

第 44 条〔特別会計〕

- ① この法人は、事業の遂行上必要があるときは、理事会の議決を経て特別会計を設けることができる。
- ② 前項の特別会計は、第 42 条の収支予算及び第 43 条の収支決算に計上しなければならない。

第 45 条〔長期借入金〕

この法人が借入をしようとするときは、その会計年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事会及び総会において、理事現在数及び正会員現在数各々の 3 分の 2 以上の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けなければならない。

第 46 条〔新たな義務の負担等〕

この法人は、第 40 条ただし書及び前条の規定に該当する場合、並びに収支予算で定めるものを除くほか、新たな義務の負担または権利の放棄のうち重要なものを行うとしようとするときは、理事会及び総会の議決を経なければならない。

第 47 条〔会計年度〕

この法人の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第 9 章 定款の変更及び解散

第 48 条〔定款の変更〕

この定款は、理事会及び総会において、理事現在数及び正会員現在数各々の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、文部大臣の許可を受けなければ変更することができない。

第 49 条〔解 散〕

この法人の解散は、理事会及び総会において、理事現在数及び正会員現在数各々の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、文部大臣の許可を受けなければならない。

第 50 条〔残余財産の処分〕

この法人の解散にともなう残余財産は、理事会及び総会において、理事現在数及び正会員現在数各々の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、文部大臣の許可を受けて、財団法人日本サッカー協会に寄付するものとする。

第 10 章 雑 則

第 51 条〔書類及び帳簿の備置等〕

- ① この法人の事務所に、次の書類及び帳簿を備えなければならない。ただし、他の法令により、これらに代わる書類及び帳簿を備えたときは、この限りでない。
- (1) 定款
 - (2) 会員の名簿
 - (3) 役員及びその他の職員の名簿及び履歴書
 - (4) 財産目録
 - (5) 財産台帳及び負債台帳
 - (6) 収入支出に関する帳簿及び証拠書類
 - (7) 総会及び理事会の議事に関する書類
 - (8) 処務日誌
 - (9) 官公署往復書類
 - (10) その他必要な帳簿及び書類
- ② 前項第 1 号ないし第 5 号及び第 7 号の書類は永年、同項第 6 号の帳簿及び書類は 10 年以上、同項第 8 号ないし第 10 号の書類及び帳簿は 1 年以上保存しなければならない。

第 52 条〔細 則〕

この定款の施行についての細則は、理事会及び総会の議決を経て、別に定める。

〔改 正〕 平成 4 年 12 月 14 日

Jリーグ規約

第1章 総則

第1条〔Jリーグの目的〕

社団法人日本プロサッカーリーグ（以下「Jリーグ」という）は、日本のサッカーの水準の向上およびサッカーの普及を図ることにより、豊かなスポーツ文化の振興および国民の心身の健全な発達に寄与するとともに、国際社会における交流および親善に貢献することを目的とする。

第2条〔本規約の趣旨〕

本規約は、「社団法人日本プロサッカーリーグ定款」（以下「定款」という）に基づき、Jリーグの組織および運営に関する基本原則を定めることにより、Jリーグの安定的発展を図ることを目的とする。

第3条〔遵守義務〕

Jリーグの会員およびその役職員ならびにJリーグに所属する選手、監督、コーチ、審判その他の関係者は、Jリーグの構成員として、本規約および財団法人日本サッカー協会（以下「協会」という）の寄附行為ならびにこれらに付随する諸規程を遵守する義務を負う。

第2章 組織

第1節 理事会

第4条〔理事会〕

- ① 理事会は、理事をもって構成する。

- ② 理事会は、理事長（以下「チェアマン」という）がこれを招集し、その議長となる。
- ③ 理事会の権限および運営に関する事項は、定款および本規約に定めるところによる。

第5条〔理事会の権限〕

理事会は、Ｊリーグの運営に関する次の権限を行使する。

- (1) リーグ運営の基本方針に関する事項
- (2) 正会員たるクラブから選任された実行委員の承認
- (3) 諸規程の制定
- (4) その他定款および本規約に定める事項

第2節 チェアマン

第6条〔チェアマン〕

チェアマンは、Ｊリーグを代表するとともに、Ｊリーグの業務を管理統括する。

第7条〔チェアマンの権限〕

チェアマンは、Ｊリーグの運営に関する次の権限を行使する。

- (1) Ｊリーグ全体の利益を確保するためのＪリーグ所属の団体および個人に対する指導
- (2) Ｊリーグ所属の団体および個人の紛争解決および制裁に関する最終決定
- (3) 実行委員会の招集および主宰
- (4) その他定款および本規約に定める事項

第3節 実行委員会

第8条〔構成〕

実行委員会の委員は、チェアマン、担当理事および正会員たるクラブから1名ずつ選任された代表とする。

第9条〔招集〕

実行委員会は、原則として毎月1回招集し、その他必要があるごとに随時招集する。

第10条〔招集権者および議長〕

- ① 実行委員会はチェアマンが招集し、その議長となる。ただし、チェアマンに事故あるときは、理事会が予め指名した理事がこれにあたる。
- ② 委員総数の3分の2以上から会議の目的事項を示して請求があったときは、チェア

マンは、実行委員会を招集しなければならない。

- ③ 実行委員会の招集は、予め実行委員会において定めた期日の場合を除き、各委員に対し会日の7日前までに通知しなければならない。ただし、緊急の必要があるときはこの限りではない。

第11条〔権限〕

実行委員会は、Jリーグの業務執行に関する事項および理事会から委嘱された事項を審議決定する。

第12条〔定足数および決議要件〕

実行委員会の決議は、委員現在数の3分の2以上が出席し、その出席委員の過半数をもって行う。

第13条〔代理出席〕

予めチェアマンに届け出て承認を得た者は、委員の代理人として実行委員会に出席し、議決権を行使することができる。

第14条〔議事録〕

実行委員会の議事の経過の要領および結果は議事録に記載し、これをJリーグの事務局に保存する。

第15条〔事務局〕

実行委員会に関する事務は、Jリーグの事務局長が統括する。

第4節 その他の委員会

第16条〔専門委員会〕

- ① 実行委員会の下に次の専門委員会を置く。
- (1) 業務運営委員会
 - (2) 選手委員会
 - (3) ホームタウン委員会
 - (4) 広報委員会
 - (5) 財務企画委員会
- ② チェアマンの下に次の専門委員会を置き、チェアマンがこれを直轄する。
- (1) 規律委員会
 - (2) 審判委員会
 - (3) 技術委員会
 - (4) スポーツ医学委員会

- (5) 法務委員会
 - (6) マッチコミッサーリー委員会
 - (7) ドーピングコントロール委員会
- ③ 前2項の各専門委員会の組織、権限および運営に関する事項は、理事会が制定する「専門委員会規程」の定めるところによる。

第5節 事務局

第17条〔事務局の設置〕

Jリーグの総会、理事会および各委員会の事務を処理し、チェアマンの職務の執行を補佐するとともに、Jリーグの活動に関する諸事項の企画・立案を行うため、専任の職員により構成される事務局を置く。

第18条〔事務局の運営〕

- ① 事務局の組織および人事に関する重要事項は、理事会の承認を得てチェアマンが定める。
- ② 事務局の機能、職務その他事務局の運営に関する事項は、チェアマンが制定する「事務局運営細則」の定めるところによる。

第3章 Jクラブ

第19条〔Jクラブの資格要件〕

Jリーグの正会員および準会員たるクラブ（以下総称して「Jクラブ」という）は、以下の要件を具備するものでなければならない。

- (1) 日本法に基づき設立された株式会社であり、発行済株式総数の過半数を日本国籍を有する者が保有していること
- (2) 協会の定めるプロ選手統一契約書に基づく選手契約（以下「統一契約」という）を締結した選手を15名以上保有していること
- (3) 協会の寄附行為細則に定める登録種別の1種、2種、3種および4種に属するチームを有していること
- (4) そのクラブにおける最高水準の競技力を保持するチーム（以下「トップチーム」という）およびトップチームにおいて競技する選手を養成するチーム（以下「サテライトチーム」という）を、双方同時に編成し得ること

- (5) 第4章第1節に定める競技場を確保していること

第20条〔入会金および会費〕

- ① 正会員たるJクラブは、Jリーグに対し、次に定める入会金および会費（年会費）を納入しなければならない。
 - (1) 入会金 金 6000 万円
 - (2) 会 費 総会において別途定める金額
- ② 準会員たるJクラブは、Jリーグに対し、次に定める入会金および会費（年会費）を納入しなければならない。
 - (1) 入会金 金 2000 万円
 - (2) 会 費 総会において別途定める金額
- ③ 準会員が新たに正会員となる場合には、第1項第1号に定める入会金を別途納入しなければならない。

第21条〔Jクラブのホームタウン（本拠地）〕

- ① Jクラブは、理事会の承認を得て特定の市町村をホームタウンとして定め、地域社会と一体となったクラブ作りを行い、サッカーの普及および振興に努めなければならない。
- ② Jクラブのホームタウンは、原則として変更することができない。
- ③ やむを得ない事由により、ホームタウンを変更する必要がある場合には、変更の日の1年以上前までに理由を記載した書面により理事会に申請し、その承認を得なければならない。ただし、第54条に定める開催期間の途中における申請は認められないものとする。

第22条〔Jクラブの権益〕

- ① Jクラブは、原則としてそのホームタウンを含む都道府県を活動区域とする。
- ② Jクラブは、活動区域において主管した公式試合に伴う広告料およびテレビ放送権料等につき、理事会の定めるところにより分配を受けることができる。
- ③ Jクラブは、活動区域におけるサッカースクール、講演その他サッカーに関する諸行事の開催について、優先的にJリーグの公認を受けることができる。
- ④ Jクラブがその活動区域内で有料試合の開催を予定している日には、その活動区域内では原則として協会または協会加盟団体の公式試合は行われないものとする。
- ⑤ Jクラブがその活動区域内で有料試合の開催を予定している時間およびその前後2時間を含む時間帯には、原則としてその活動区域内においては、協会が主催または主管する試合のテレビ放送は行われないものとする。
- ⑥ 特別の事情により前2項の定め抵触する公式試合またはテレビ放送を行う必要がある場合には、これにより不利益を受けるおそれのあるJクラブの補償について、Jリーグ、当該Jクラブおよび当該主催団体または協会間で別途協議の上決定するものとする。

第 23 条〔財務内容の開示〕

- ① 人件費・運営費その他の経費の設定に際しては、当該 J クラブの健全な財政状態の維持に配慮しなければならない。
- ② J クラブは J リーグに対し、各会計年度終了後 3 か月以内に次の書類を提出しなければならない。
 - (1) 当該会計年度の貸借対照表および損益計算書
 - (2) 主管した試合およびイベント等の収支明細書
- ③ J リーグは、いつでも代理人を通じて前項の書類を閲覧することができる。
- ④ J リーグは、J クラブの事前の同意がない限り、第 1 項の書類を第三者に開示しないものとする。

第 24 条〔株主の変更等〕

- ① J クラブは J リーグに対し、各会計年度終了時における株主名簿の写しを提出しなければならない。
- ② J クラブは、その発行済株式総数の 5 % を超える株式について株主が変更する場合には、理事会の承認を得なければならない。

第 25 条〔役職員等の禁止事項〕

- ① J クラブの役員または職員は、直接たると間接たるとを問わず、次の事項を行ってはならない。
 - (1) 他のクラブの役員または職員を兼務すること
 - (2) 他のクラブの株式を保有すること
 - (3) 他のクラブまたは他のクラブの役職員との間で金銭貸借、債務保証もしくはこれらに類する契約を締結すること
- ② J クラブに所属する選手、監督、コーチおよび役員その他の関係者は、公の場において、協会（審判を含む）、J リーグまたは自他の J クラブを中傷または誹謗してはならない。

第 26 条〔名称および活動区域等〕

- ① J クラブの法人名、チーム名および呼称（以下総称して「名称」という）ならびにホームタウンおよび活動区域は次のとおりとする。

〔正会員〕

法人名	チーム名	呼称	ホームタウン	活動区域
(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー	鹿島アントラーズ	鹿島アントラーズ	鹿嶋市	茨城県
(株)東日本ジェイアール古河サッカークラブ	ジェフユナイテッド市原	ジェフユナイテッド市原	市原市	千葉県
(株)日立スポーツ	柏レイソル	柏レイソル	柏市	千葉県
(株)三菱自動車フットボールクラブ	浦和レッドダイヤモンズ	浦和レッズ	浦和市	埼玉県
(株)読売日本サッカークラブ	読売日本サッカークラブ	ヴェルディ川崎	川崎市	神奈川県
日産フットボールクラブ(株)	横浜マリノス	横浜マリノス	横浜市	神奈川県
全日空スポーツ(株)	全日空佐藤工業サッカークラブ	横浜フリューゲルス	横浜市	神奈川県
(株)湘南ベルマーレ平塚	ベルマーレ平塚	ベルマーレ平塚	平塚市	神奈川県
(株)エスラップ・コミュニケーションズ	清水エスパルス	清水エスパルス	清水市	静岡県
(株)ヤマハフットボールクラブ	ジュビロ磐田	ジュビロ磐田	磐田市	静岡県
(株)名古屋グランパスエイト	名古屋グランパスエイト	名古屋グランパスエイト	名古屋市	愛知県
(株)京都パープルサンガ	京都パープルサンガ	京都パープルサンガ	京都市	京都府
(株)ガンバ大阪	ガンバ大阪	ガンバ大阪	吹田市	大阪府
大阪サッカークラブ(株)	セレッソ大阪	セレッソ大阪	大阪市	大阪府
(株)ヴィッセル神戸	ヴィッセル神戸	ヴィッセル神戸	神戸市	兵庫県
(株)サンフレッチェ広島	サンフレッチェ広島F.C	サンフレッチェ広島	広島市	広島県
福岡ブルックス(株)	アビスパ福岡	アビスパ福岡	福岡市	福岡県

〔準会員〕

法人名	チーム名	呼称	ホームタウン	活動区域
(株)北海道フットボールクラブ	コンサドーレ札幌	コンサドーレ札幌	札幌市	北海道
(株)東北ハンドレッド	ブランメル仙台	ブランメル仙台	仙台市	宮城県

- ② Jクラブの名称は、原則として変更することができない。ただし、正当な事由がある場合において、理事会の承認を得たときはこの限りではない。

第27条〔準会員〕

- ① Jリーグは、次の条件を満たすJFL加盟のクラブを、準会員として入会させることができる。
- (1) 第19条第1号ないし第5号の要件を具備すること
 - (2) Jリーグの設立趣旨に賛同すること
 - (3) 協会の「寄附行為」および本規約ならびにこれらに付随する諸規則を遵守すること
- ② 準会員として入会を希望するクラブは、次のいずれかの期日までに、チェアマンに対し所定の入会申込書を提出しなければならない。
- (1) 当該年度のJFL（ジャパンフットボールリーグ）の開幕日の前日まで
 - (2) 9月30日まで
- ③ Jリーグは、前項の入会申込書を提出したクラブに関し、次の事項を行う。
- (1) クラブ責任者および行政当局責任者からの聴聞
 - (2) 地域との協力関係およびホームスタジアム等に関する現地調査
 - (3) チームの戦力、観客動員数その他Jリーグが必要と認める事項に関する調査
- ④ Jリーグは、前項の調査等に基づき、理事会において入会の可否を審議したうえ、その結果を、入会申込みをしたクラブに対し、前項の申込み期限から2か月以内に、書面で通知する。
- ⑤ 前項の審議の結果、準会員としての入会を承認されたクラブは、理事会承認の日から1か月以内に、所定の入会金を納入しなければならない。ただし、当該クラブの準会員としての資格は、所定の入会金の納入完了を条件として、理事会承認の日に発生するものとする。
- ⑥ 準会員には、次の事項に関する権利が認められる。
- (1) リーグカップ戦およびJサテライトリーグに参加すること
 - (2) オフィシャルスポンサーの協賛金の配分を受けること
 - (3) 実行委員会指定する委員会にオブザーバーとして参加すること
 - (4) その他Jリーグが特に指定した事項

第27条の2〔準会員が正会員となるための手続き〕

- ① 正会員として入会を希望する準会員は、毎年9月30日までに、チェアマンに対し、所定の入会申込書を提出しなければならない。ただし、第27条第2項第2号所定の申込期限（9月30日）により準会員としての入会を承認されたクラブは、次年度以降でなければ、正会員としての入会申込書を提出することができない。
- ② Jリーグは、前項の入会申込書を提出した準会員に関し、第19条第1号ないし第5号の要件の具備状況の再調査を行う。
- ③ 理事会は、第19条第1号ないし第5号の要件を具備していることを再確認したうえで、JFLにおける成績が2位以内の準会員から前条第3項第1号ないし第3号所定

の事項を含めた総合的判断に基づき、正会員としての入会の可否を審議決定する。

- ④ Jリーグは、前項の審議決定の結果を、遅くとも同年11月30日までに、第1項の入会申込みをした準会員に対し書面で通知する。
- ⑤ 正会員としての入会を承認された準会員は、理事会承認の日から1か月以内に、所定の入会金を納入しなければならない。ただし、当該クラブの正会員としての資格は、所定の入会金の納入完了を条件として、理事会承認の日に発生するものとする。

第4章 競 技

第1節 競 技 場

第28条〔競技場の確保と維持〕

Jクラブは、次条以下に定める要件を具備する競技場を確保し、良好な状態でホームゲームを実施し得るよう、これを維持管理する責任を負う。

第29条〔競技場〕

- ① 競技場は、次の各号の条件を満たすものでなければならない。
 - (1) ピッチは天然芝であり、原則として縦長105m、横幅68mであること
 - (2) ピッチの外側周囲には、原則としてすべて1.5m以上の芝生部分を確保すること（したがって、縦長108m以上、横幅71m以上の芝生部分を確保すること）
 - (3) ゴールのポストおよびバーは、白色かつ丸形（直径12cm）で、埋込式その他Jリーグが安全性を認定したものであり、鉄製その他ボールを反発するような補強材を使用しないこと
 - (4) ゴールネットは白色であること
 - (5) コーナーフラッグおよびコーナーフラッグポールは、Jリーグ指定のものであること
 - (6) ラインは幅12cmとし、明瞭に引くこと（原則としてペイント方式とする）
- ② フィールド（ピッチおよびその周辺部分）には、選手のプレーに影響を与え、または危険を及ぼすおそれのある物は一切放置もしくは設置してはならない。
- ③ 競技場の観客席は、15,000人以上収容できるものでなければならない。ただし、芝生席は、観客席とはみなされない。
- ④ 競技場には、平均1,500ルクス以上の照度をもつ照明装置を設置しなければならない。

第30条〔競技場付帯設備〕

競技場は、次の各号の付帯設備を備えるものでなければならない。

- (1) 本部室
- (2) 更衣室（温水シャワーが使用でき、かつ、ホームチーム、ビジターチームおよび審判員について各々別個に用意されていること）
- (3) 記録室（ピッチ全体を見渡すことができ、かつ、個室であること）
- (4) 医務室
- (5) ドーピングコントロール室
- (6) 警察・消防控室
- (7) 記者室
- (8) カメラマン室
- (9) 来賓席
- (10) 記者席（ピッチ全体を見渡すことができ、屋根付きで、かつ、手元照明付きの机を備えていること）
- (11) 場内放送設備
- (12) 放送中継用ブース
- (13) スコアボード（原則として電光掲示盤であること）
- (14) メンバー掲示板（スコアボードでの兼用可）
- (15) リーグ旗およびクラブ旗の掲揚ポール
- (16) 入場券売場
- (17) 飲食物およびサッカー関連グッズ等の販売所

第31条〔照明装置〕

Jクラブは、競技場の照明装置の故障を未然に防止し、かつ、故障箇所をすみやかに修理するための措置を講じるよう努めなければならない。

第32条〔ベンチ〕

- ① ベンチは、原則として次の要件を満たすものでなければならない。
 - (1) ピッチのタッチラインから5メートル以上離れた位置に設置すること
 - (2) 屋根を備えていること（ただし、観客等の視野を妨げるものであってはならない）
- ② ホームチームのベンチは、原則としてピッチから向かって右側に設置するものとする。

第33条〔医療施設〕

競技場には、医務室を設置し、かつ、試合開催時には観客等のための医師を待機させなければならない。

第34条〔ビジタークラブのための観客席の確保〕

Jクラブは、対戦チームの所属するJクラブ（以下「ビジタークラブ」という）を

応援する観客のために、適正な数の席を確保しなければならない。

第 35 条〔広告看板の設置〕

- ① 競技場には、Ｊリーグが指定する位置に、オフィシャルスポンサーが所定のサイズおよび枚数の広告看板を掲出することができるスペースを確保しなければならない。
- ② 前項の広告看板以外の広告物等を設置しようとする場合には、事前にＪリーグに届け出て承認を得なければならない。

第 36 条〔競技場における告知等〕

- ① ホームゲームを実施するＪクラブ（以下「ホームクラブ」という）は、競技場において、次の各号の事項を告知しなければならない。
 - (1) 選手、審判員およびマッチコミッサー
 - (2) 選手および審判員の交代
 - (3) 得点者および得点時間（得点直後に）
 - (4) 他の試合の途中経過および結果（得点者および得点時間を含む）
 - (5) 入場者実数
 - (6) 前各号のほか、Ｊリーグの指定する事項
- ② ホームクラブは、試合の前後およびハーフタイムに、次の各号の事項を行うことができる。
 - (1) 次の試合の予定の告知
 - (2) 事前にＪリーグに届け出て承認を得た広告宣伝
 - (3) 音楽放送
 - (4) チームまたは選手に関する情報の告知
 - (5) 前各号のほか、Ｊリーグの承認を得た事項

第 37 条〔公式試合開催指定競技場〕

- ① Ｊリーグは競技場（付帯設備を含む）を検査し、「公式試合開催指定競技場」を定める。
- ② 前項の検査に関する事項は、別途定める「競技場検査要項」による。

第 38 条〔競技場の視察〕

- ① Ｊリーグは、試合開催の可否を確認するため競技場を視察することができ、その結果、試合開催が困難であると判断したときは、その旨を遅滞なくチェアマンに報告しなければならない。
- ② チェアマンは、前項の報告を受けたときは、その競技場での試合の実施を中止する決定を下すことができる。
- ③ 前項の中止の決定およびその通知は、試合開催日の 2 か月前までにホームクラブに対して行わなければならない。

第 39 条〔悪天候の場合のピッチ整備の義務〕

ホームクラブは、降雪または降雨等、悪天候の場合であっても、可能な限りピッチを整備し、その競技場での試合を実施することができるよう最善の努力をしなければならない。

第2節 公式試合

第40条〔公式試合〕

- ① Jリーグにおける公式試合（以下「公式試合」という）とは、次の試合をいう。
 - (1) リーグ戦
 - (2) リーグカップ戦
 - (3) 前2号のほか、実行委員会が指定した試合
- ② Jクラブは、公式試合のホームゲームをホームタウンの競技場で実施しなければならない。ただし、業務運営委員会の事前の承認を得た場合は、この限りではない。

第41条〔参加義務等〕

- ① Jクラブは、公式試合および協会が開催する天皇杯全日本サッカー選手権大会に参加しなければならない。
- ② Jクラブは、所属選手が、代表チームまたは選抜チーム等の一員に選出された場合、当該選手をこれに参加させる義務を負う。

第42条〔最強のチームによる試合参加〕

Jクラブは、その時点における最強のチーム（ベストメンバー）をもって前条の試合に臨まなければならない。

第43条〔不正行為への関与の禁止〕

JクラブおよびJクラブの役員、選手、監督、コーチその他の関係者は、方法・形式のいかんにかかわらず、また直接たと間接たとを問わず、試合の結果に影響を及ぼすおそれのある不正行為に一切関与してはならない。

第44条〔公式試合の主催等〕

- ① 公式試合は、すべて協会およびJリーグが主催（自己の名義において試合を開催すること。以下同じ）し、Jリーグが主管（自己の責任と費用負担において試合を実施・運営すること。以下同じ）する。
- ② Jリーグは、公式試合のホームゲームの主管をホームクラブに委譲する。
- ③ 前項の規定にかかわらず、Jリーグは、ホームタウン以外の競技場で実施する公式試合を自ら主管することができる。

第45条〔主管権の譲渡〕

JクラブはJリーグの事前の承認を得て、その主管するホームゲームの主管権を、協会に所属する都道府県サッカー協会に対し譲渡することができる。ただし、この場合においても、当該Jクラブは、本規約上の義務を免れるものではない。

第46条〔競技規則〕

公式試合は、すべて国際サッカー連盟（FIFA）および協会の競技規則に従って実施される。

第47条〔届出義務〕

- ① Jクラブは、Jリーグの指定する方法により、次の事項を所定の用紙によりJリーグに届け出なければならない。届出事項に変更が生じた場合も同様とする。
 - (1) 選手
 - (2) 実行委員、運営委員および広報委員等
 - (3) 監督、コーチ、ドクターおよびマッサー等（以下「チームスタッフ」という）
 - (4) 入場料金の体系（年間指定席券その他すべての入場券を含む）
- ② 前項第4号の入場料金は、ビジタークラブの観客に対してもホームクラブの観客と平等の条件で設定されなければならない。ただし、ホームクラブのファンクラブ会員または年間指定席券購入者に対する割引その他合理的理由がある場合にはこの限りではない。

第48条〔出場資格〕

- ① 協会の「選手登録規程」に基づき協会への選手登録を完了した選手のみが、公式試合における出場資格をもつ。
- ② 選手は、公式試合出場に際し、協会の発行する選手証を持参しなければならない。

第49条〔ユニフォーム〕

- ① リーグ戦およびJリーグが指定した試合においては、業務運営委員会が承認したユニフォームを使用しなければならない。
- ② 前項のユニフォームには、メンバー提出用紙に記載された選手番号が明確に表示されていなければならない。
- ③ チームのキャプテンは、キャプテンであることを明確に表示するアームバンドを着用しなければならない。
- ④ ユニフォームに関する事項は、業務運営委員会が制定する「ユニフォーム要項」の定めるところによる。

第50条〔試合球〕

公式試合の試合球は、Jリーグが、協会検定球の中から認定する。

第51条〔Jクラブの責任〕

- ① ホームクラブは、選手、チームスタッフ、実行委員、運営委員、広報委員、審判員

および観客等の安全を確保する責任を負う。

- ② ホームクラブは、観客が試合の前後および試合中において秩序ある適切な態度を保持するよう努める義務を負い、ビジタークラブはこれに協力しなければならない。

第 52 条〔選手の健康管理およびドクター〕

- ① Jクラブは、日本国医師免許を保有する専属のドクターを置き、当該Jクラブの責任において選手の健康管理を行わなければならない。
- ② 前項の健康管理における医学的検査の項目は、協会のスポーツ医学委員会が定めるメディカルチェック項目（内科・整形外科的検査、血液検査、尿検査、レントゲン検査、運動負荷検査、体力検査）とする。
- ③ Jクラブは、すべての試合に、ドクターを同行しなければならない。
- ④ ドクターは、選手が試合中または練習中に負傷した場合には、可及的すみやかにJリーグに対し「Jリーグ傷害報告書」を提出しなければならない。
- ⑤ 2か月以上の休養を必要と判断される重症例、生命に危険がある重篤例、および診断が後日変更された例については、「Jリーグ公式戦傷害経過報告書」を1か月以内にJリーグ事務局に提出しなければならない。

第 53 条〔負傷した選手の活動再開の制限〕

- ① Jクラブは、選手が試合中に負傷して退場した場合において、その傷害が頭部その他特に慎重な配慮を要する部位に生じたものであるときは、医師の承認を得なければ、当該選手の選手としての活動を再開させてはならない。
- ② 前項の傷害が練習中に生じた場合においても同様とする。

第 3 節 試 合 の 運 営

第 54 条〔リーグ戦・リーグカップ戦の開催期間〕

リーグ戦およびリーグカップ戦は、原則として毎年3月から11月までの間に実施する。

第 55 条〔公式試合の開催〕

- ① 公式試合の試合日程は、次の事項を考慮のうえ業務運営委員会が作成し、実行委員会の審議を経て理事会が決定する。
 - (1) 開幕権は前シーズンの順位上位チームに与えられること
 - (2) 試合開催が特定の地域に集中しないこと
 - (3) 同一大会でアウェイゲームが3試合以上連続しないこと
- ② 公式試合は、原則として土曜日または水曜日に開催されるものとする。

第 56 条〔試合日程の遵守〕

Jクラブは、前条により定められた公式試合の開催日、キックオフ時刻および開催地等の試合日程を遵守しなければならない。

第57条〔試合の日時または場所の変更〕

- ① 公式試合の開催日、キックオフ時刻または開催地の変更は、次の手続きに従い決定する。
 - (1) ホームクラブがJリーグ事務局に対し、変更しようとする開催日の30日前までに所定の用紙により申請する。
 - (2) 業務運営委員会は、申請を受けた変更理由を審議のうえ、変更される開催日の20日前までに、変更の可否を、ホームクラブおよびビジタークラブの双方に通知する。
- ② 前項の手続きが行われない場合、ビジタークラブは、当該変更を拒否することができる。
- ③ やむを得ない特別の事情がある場合において、ホームクラブの申請に基づきチェアマンが承認したときは、前2項の規定にかかわらず、開催の日時または場所を変更することができるものとする。

第58条〔特別の事情による変更〕

Jクラブは、協会またはJリーグにおいて特別の事情がある場合には、日程等の変更に応じなければならない。

第59条〔同日開催の制限〕

公式試合は、原則として、同一日に同一競技場で2試合以上行ってはならない。

第60条〔抱き合わせ開催の禁止〕

公式試合は、Jリーグまたは協会以外の第三者が主催するサッカーその他のスポーツの試合またはイベント等と抱き合わせで開催してはならない。

第61条〔マッチコミッサリー〕

- ① マッチコミッサリーは、実行委員会が推薦し、理事会が承認した後、チェアマンが任命し、各公式試合に派遣される。
- ② マッチコミッサリーは、次の事項を遵守しなければならない。
 - (1) キックオフ時刻の120分前までに競技場に到着すること
 - (2) キックオフ時刻の70分前に双方のチームの監督、実行委員、運営委員、および審判員を集め、留意事項等を確認すること。ただし、ビジタークラブの実行委員、運営委員については代理出席を認める。
 - (3) 試合終了後24時間以内にJリーグ宛に「マッチコミッサリー報告書」を発信すること
 - (4) 試合の中断または競技中の悪質な違反による退場等の重大な事項が発生した場合に、所定の手続きにより「緊急報告書」をすみやかにチェアマンに提出すること

- (5) 裁定委員会または規律委員会より出席を求められた場合に、これに出席し報告すること
- (6) 前各号のほか、別途チェアマンの定める事項を行うこと

第 62 条〔試合の中止の決定〕

試合の中止は、主審が、マッチコミッサーおよびホームクラブの実行委員と協議のうえ決定する。ただし、主審が到着する前にやむを得ない事情により試合を中止する場合は、マッチコミッサーおよびホームクラブの実行委員が協議のうえ決定する。

第 63 条〔不可抗力による開催不能または中止〕

- ① 公式試合が、悪天候、地震等の天災地変または公共交通機関の不通その他いずれのチームの責にも帰すべからざる事由（以下「不可抗力」という）により開催不能または中止となった場合には、その勝敗の決定方法は、実行委員会において協議のうえ決定する。
- ② 試合の前半が終了した後に、試合の続行が不可能となった場合には、原則として入場料金の払い戻しは行わない。

第 64 条〔敗戦とみなされる場合〕

公式試合が一方のチームの責に帰すべき事由により開催不能または中止となった場合には、その帰責事由あるチームは、0対3で敗戦したものとみなされる。

第 65 条〔試合結果の報告〕

ホームクラブの実行委員は、所定の手続きに従い公式記録および試合運営報告書を Jリーグ事務局に提出しなければならない。

第 66 条〔試合実施要項〕

公式試合の運営に関する事項は、業務運営委員会が制定する「試合実施要項」の定めるところによる。

第 67 条〔規律委員会による処分〕

次の各号のいずれかに該当する者に対する処分は、規律委員会において審議決定する。

- (1) 退場を命じられた者
- (2) 警告を受けた者
- (3) 前 2 号に相当する不正な行為を行った者

第 4 節 非 公 式 試 合

第 68 条〔有料試合の開催〕

- ① すべての有料試合は、事前にＪリーグに所定の申請書を提出し、Ｊリーグおよび協会の承認を得なければ開催することができない。
- ② 前項の試合の開催日については、公式試合の日程が優先する。
- ③ 第 1 項の開催申請書の提出期限は、原則として開催日の 3 か月前までとする。

第 69 条〔外国チームとの試合等〕

Ｊクラブが外国のサッカーチームと試合を行う場合は、試合の場所が国内であるか国外であるかにかかわらず、事前にＪリーグおよび協会の承認を得なければならない。

第 70 条〔興行等への参加禁止〕

Ｊクラブ、選手、監督およびコーチは、事前にＪリーグの承認を得ない限り、Ｊリーグまたは協会以外の第三者が主催するサッカーその他のスポーツの試合またはイベント等に参加してはならない。

第 71 条〔救済試合〕

救済試合は、傷害または疾病により選手としての活動が不可能となった有望な選手を、経済的窮状から救済することを目的として開催する。

第 72 条〔引退試合〕

引退試合は、公式試合および天皇杯全日本サッカー選手権大会において通算 500 試合以上の出場実績を達成した選手またはＪリーグで活躍し、Ｊリーグの発展に著しく貢献した選手を対象として開催する。

第 73 条〔救済試合および引退試合の開催手続等〕

- ① 救済試合および引退試合は、当該選手の現所属クラブまたは元所属クラブが、事前にＪリーグに所定の申請書を提出し、実行委員会の承認を得なければ開催することができない。
- ② 救済試合および引退試合の開催地は、原則として当該試合の開催クラブのホームタウンとする。
- ③ 救済試合および引退試合は、前 2 条に定める理由がある場合に、選手 1 名につき 1 回に限り開催することができる。

第 74 条〔慈善試合〕

- ① Ｊクラブは、被災者、病者、孤児等の困窮者の救済その他の社会還元を目的として、人道的見地に基づき、慈善試合を開催することができる。
- ② 前条第 1 項および第 2 項の規定は、前項の場合に準用する。

第5節 試合の収支

第75条〔公式試合の費用負担〕

ホームクラブは、ホームゲームからの収入を受領し、その試合の開催に要する次の費用（以下総称して「必要経費」という）を負担する。

- (1) 運営人件費
- (2) 競技場使用料（付帯設備使用料を含む）
- (3) 入場券販売手数料
- (4) 入場券・招待券の印刷費
- (5) 広告宣伝費
- (6) その他の運営に係わる費用

第76条〔Jリーグ主管試合の収入の配分〕

Jリーグが主管する公式試合の収入は、理事会が制定する「公式試合出場料規程」の定めるところに従い、Jクラブに配分する。

第77条〔救済試合、引退試合および慈善試合の損益の配分〕

- ① 救済試合および引退試合の損益の配分については、Jリーグと当該試合の開催Jクラブとの協議により決定する。ただし、総収入から必要経費を控除した純益は、原則として対象選手が受領することができるものとする。
- ② 慈善試合の損益の配分については、Jリーグと当該試合の開催クラブとの協議により決定する。ただし、総収入から必要経費を控除した純益は、原則として慈善試合の目的である救済事業等のために使用されなければならない。

第78条〔不可抗力による試合中止等の場合の費用の負担〕

すでに何らかの経費が発生している公式試合が、不可抗力により開催不能または中止となった場合には、ホームクラブにおいて発生した第75条第1号ないし第4号の費用ならびに双方のクラブにおいて発生した交通費および宿泊費はJリーグが負担する。

第79条〔帰責事由あるクラブの費用の負担〕

- ① ホームクラブの責に帰すべき事由により公式試合が開催不能または中止となった場合、ホームクラブは、ビジタークラブに発生した交通費および宿泊費を補償しなければならない。
- ② ビジタークラブの責に帰すべき事由により公式試合が開催不能または中止となった場合、ビジタークラブは、ホームクラブに発生した第75条第1号ないし第4号の費用ならびに交通費および宿泊費を補償しなければならない。

第80条〔納付金〕

ホームクラブは、協会が指定する試合の入場料収入の5%相当額を、その試合の属する大会が終了した後21日以内に、協会に納付しなければならない。

第81条〔収支報告〕

公式試合の収支報告は、その試合の属する大会が終了した後21日以内に、「試合収支決算書」および「大会収支決算書」をJリーグ事務局に送付することにより行う。

第82条〔遠征費用〕

- ① 遠征に要する交通費および宿泊費については、理事会が制定する「旅費規程」の定めるところによる。
- ② ホームクラブの都合によりホームタウン以外の競技場で試合を実施したことにより発生したビジタークラブの交通費および宿泊費の増額分はホームクラブが負担する。

第6節 表 彰

第83条〔リーグ表彰〕

Jリーグは、リーグ戦およびリーグカップ戦に関し、チーム、選手、監督および審判員等の表彰を行う。

第84条〔功労者表彰〕

- ① Jリーグは、Jリーグの発展に功労のあった者に対し、記念品等を贈呈して表彰することができる。
- ② 前項の表彰を受ける者は、チェアマンの推薦に基づき理事会が決定する。

第85条〔表彰規程〕

前2条に基づく表彰に関する事項は、理事会が制定する「表彰規程」の定めるところによる。

第86条〔特別表彰〕

第83条および第84条に定める表彰のほか特に表彰を必要とする場合は、理事会の定めるところによる。

第5章 選 手

第 87 条〔誠実義務〕

- ① 選手は、協会の寄附行為および本規約ならびにこれらに付随する諸規程を遵守するとともに Jクラブの諸規則を遵守し、Jクラブとの間に締結した契約を誠実に履行しなければならない。
- ② 選手は、自己の能力を最大限に発揮するため、常に最善の健康状態の保持および運動能力の維持・向上に努めなければならない。

第 88 条〔履行義務〕

選手は、次の各事項を履行する義務を負う。

- (1) Jクラブの指定するすべての試合および研修ならびに協会および Jリーグの指定する試合および研修への参加
- (2) Jクラブの通常のスケジュールのトレーニングならびに特別に指定されたトレーニングおよび合宿を含むトレーニングへの参加
- (3) Jクラブの指定するミーティングおよび試合の準備に必要な行事への参加
- (4) Jクラブの指定する医学的検診、注射、予防処置および治療処置への参加
- (5) Jクラブの指定する広報活動およびファンサービス活動への参加
- (6) 副業に関する事前の Jクラブの同意の取得
- (7) 合宿、遠征等に際しての Jクラブの指定する交通機関および宿泊施設の利用
- (8) 居住場所に関する事前の Jクラブの同意の取得
- (9) その他 Jクラブが必要と認めた事項

第 88 条の 2〔ドーピングの禁止〕

- ① Jリーグは、選手の健康を保持するとともに試合の公正な実施を確保するため、ドーピングを禁止し、ドーピングテストを実施する。
- ② 選手は、試合終了後、Jリーグからドーピングテストの対象として指名された場合、これを拒否することはできない。
- ③ ドーピングの定義、ドーピングテストの手続き、違反者に対する罰則その他ドーピングに関する事項は、理事会が制定する「ドーピング禁止規程」の定めるところによる。
- ④ 「ドーピング禁止規程」に違反した選手または Jクラブに対しては、同規程の定めるところに従い、制裁を科することができる。

第 89 条〔禁止事項〕

選手は、次の各行為を行ってはならない。

- (1) Jクラブ、協会および Jリーグの内部事情の部外者への開示
- (2) 試合およびトレーニングに関する事項（試合の戦略・戦術・選手の起用・トレーニングの内容等）の部外者への開示
- (3) Jクラブ、協会および Jリーグの承認が得られない広告宣伝・広報活動への参加もしくは関与
- (4) Jクラブとの契約の履行の妨げとなる内容の第三者との契約の締結

- (5) Jクラブの事前の同意を得ない、第三者の主催するサッカーまたはその他のスポーツの試合への参加
- (6) 試合の結果に影響を与える不正行為への関与
- (7) その他Jクラブにとって不利益となる行為

第90条〔費用の負担および用具の使用〕

- ① 選手がJクラブのために旅行する期間の交通費および宿泊費は、Jクラブが負担する。
- ② 選手が試合およびトレーニングに使用する用具のうち、ユニフォーム一式およびトレーニングウェアは、Jクラブが支給したものを使用しなければならない。

第91条〔疾病および傷害〕

選手は、疾病または傷害に際してはすみやかにJクラブに通知し、Jクラブの指示に従わなければならない。

第92条〔選手契約〕

- ① Jクラブと統一契約を締結した選手の移籍に関する権利および義務は、すべて当該Jクラブに帰属する。
- ② Jクラブは、選手との統一契約の締結に際し、契約の期間満了後に移籍金なく他クラブへ移籍できる旨、または移籍に際し、移籍金の一部もしくは全部を選手本人に支払う旨の特約を付してはならず、その他本規約または「選手移籍規程」の趣旨に反する約定を行ってはならない。
- ③ Jクラブは、選手と締結したすべての契約書の写しをJリーグに提出しなければならない。
- ④ Jリーグは、Jクラブの事前の同意がない限り、前項の写しを第三者に開示しないものとする。

第93条〔選手の報酬等〕

- ① Jクラブは選手に対し、前条第3項に基づきJリーグに提出した契約書に記載された報酬以外の金銭または利益を名目のいかんを問わず供与してはならない。
- ② Jクラブは、選手の技能、報酬総額その他の事情を勘案したうえ、当該選手の能力を最も発揮し得るように、基本給、出場給および特別給の割合を設定するよう努めなければならない。

第94条〔支度金〕

Jクラブが、新規採用した選手または移籍した選手に対し、支度金を支払う場合は、理事会が制定する「支度金支給基準規程」の定めるところによる。

第95条〔代理人等〕

Jクラブと選手との契約に関し、弁護士以外の者は、代理人、仲介人等名称のいか

んにかかわらず、かつ、直接であると間接であるとを問わず、一切関与してはならない。

第96条〔未成年者〕

選手が、契約締結時に未成年である場合には、契約の締結について法定代理人の同意を得なければならない。

第97条〔選手の肖像等の使用〕

- ① 選手は、サッカー活動中の選手の肖像、映像、氏名等（以下「選手の肖像等」という）が報道、放送されることおよび当該報道、放送に関する選手の肖像等につき何ら権利を有するものでない。
- ② 選手は、Jクラブから指示があった場合、Jクラブ、協会およびJリーグの広報・広告宣伝活動に使用するための素材制作（肖像写真撮影、フィルム・ビデオ撮影、インタビュー録音等）に、原則として無償で応じなければならない。
- ③ Jクラブは、選手の肖像等を、Jクラブ、協会およびJリーグの広報・広告宣伝活動のために無償にて使用することができるものとする。
- ④ 選手は、テレビ・ラジオ番組もしくはイベント等への出演または新聞・雑誌記事もしくは広告宣伝・販売促進活動等への関与については事前にJクラブの書面による承諾を得なければならない。
- ⑤ 前項の出演または関与に際しての対価の分配は、Jクラブと選手が協議して定める。

第98条〔契約に関する紛争の解決〕

Jクラブと選手との間の契約の解釈または履行に関し、Jクラブと選手との間に紛争が生じたときは、Jクラブおよび選手が、その都度、誠意をもって協議の上解決するよう努めなければならない。

第6章 登録および移籍

第1節 登録

第99条〔協会の登録規程の遵守〕

Jクラブは、協会の「選手登録規程」を遵守し、同規程に従い協会への選手登録を行わなければならない。

第100条〔未登録の選手〕

Jクラブは、前条の選手登録をしていない選手を公式試合に出場させてはならない。

第2節 移 籍

第101条〔協会の移籍規程の遵守〕

Jリーグに所属する選手の移籍は、協会の「選手移籍規程」に従って行わなければならない。

第102条〔契約更新の通知〕

Jクラブが、現に所属する選手との統一契約を更新（優先契約権の行使を含む）しようとするときは、契約期間満了日の属する年の前年の11月30日（日曜その他の休日である場合はその前日、以下も同様とする）までに、選手に対し、契約条件を明示した書面により、その旨を通知しなければならない。

第103条〔専属交渉期間〕

Jクラブが前条の通知をした場合、同年12月1日から12月31日までの期間は、現Jクラブとの専属交渉期間とし、この期間内においては、当該選手は他のJクラブと移籍に関する交渉を行ってはならず、かつ、他のJクラブも、当該選手と移籍の交渉その他一切の接触をしてはならない。

第104条〔通知の効果〕

- ① 第102条による更新の通知の内容が現在の契約条件を下回らない場合において、通知を受けた選手が同年12月31日までに諾否の通知をしなかったときは、当該契約条件をもって契約を更新することを承諾したものとみなす。
- ② 第102条による更新の通知の内容が現在の契約条件を下回る場合において、通知を受けた選手が同年12月31日までに諾否の通知をしなかったときは、当該契約条件をもって契約を更新することを拒絶したものとみなす。

第105条〔移籍リストへの登録〕

選手がJクラブが通知した契約条件による契約更新を拒絶した場合（選手が自ら引退を表明した場合および前条第2項により拒絶したものとみなされる場合を含む）には、Jクラブは、当該選手を、遅くとも翌年1月10日までに、「移籍リスト」に登録申請しなければならない。

第106条〔他のクラブとの自由交渉権〕

「移籍リスト」に登録された選手は、以後自由に他のJクラブと移籍に関する交渉を行う権利（以下「自由交渉権」という）を有する。

第107条〔元のクラブとの交渉権の喪失〕

- ① 「自由交渉権」を取得した選手は、以後、現に所属するクラブに対し、契約更新に関する交渉を申し入れることはできない。ただし、現に所属するJクラブから当該選手に対する交渉の申し入れについてはこの限りではない。
- ② 前項ただし書により再度の交渉を申し入れる場合、現に所属するJクラブは、当初に提示した報酬額を減額することができる。

第108条〔優先契約権の行使〕

Jクラブが、適法に優先契約権を行使した場合には、その通知が選手に到達した日に、当該通知に記載された内容をもって、契約更新の合意が成立したものとみなす。

第109条〔更新を希望しない場合〕

- ① Jクラブが、選手との契約更新を希望しない場合には、契約期間満了日の属する年の前年の11月30日までに、書面により、その旨を通知しなければならない。
- ② 前項の場合、Jクラブは当該選手を、同年12月1日以降可及的すみやかに「移籍リスト」に登録するものとする。

第110条〔最終提示額証明書〕

- ① Jクラブは、現に所属する選手との契約を更新しないことが確定したときは、ただちに、当該選手との契約更新に関する交渉において最終的に提示した報酬額（基本給の年額および出場給の総額。以下も同様とする）を明記した書面（以下「最終提示額証明書」という）を、当該選手に対し発行しなければならない。
- ② 前条第1項の場合、「最終提示額証明書」に記載する金額は、いずれも0とする。

第111条〔移籍リストの運用〕

- ① 「移籍リスト」には、選手の氏名、生年月日、現在（または最終）の所属Jクラブの名称、契約終了時期および登録日を記載するものとする。
- ② 「移籍リスト」への登録および抹消の手続きは、「移籍リスト登録申請書」によるものとする。

第112条〔移籍承諾書発行依頼書〕

選手の報酬および移籍金について合意が成立したときは、移籍先クラブは移籍元クラブに対し、「移籍承諾書発行依頼書」を提出する。

第7章 監督およびコーチ

第113条〔トップチームの監督〕

Jクラブのトップチームは、監督として、協会が認定したS級コーチライセンスを保有する者を置かなければならない。

第114条〔トップチーム以外の監督またはコーチ〕

Jクラブのトップチーム以外のチームは、監督またはコーチとして、協会が認定した次の各号に定めるコーチライセンスを保有する者を1名以上置かなければならない。

- (1) サテライトチーム：B級以上
- (2) 2種、3種および4種チーム：C級以上

第115条〔例 外〕

次の要件を具備する者は、事前に協会およびJリーグの承認を得た場合に限り、例外として、前2条に定める監督またはコーチとなり得る。

- (1) 外国における経験に照らし前2条に定めるコーチライセンスと同等以上の資格を有していると認められること
- (2) 指導者としてふさわしい人格、識見を有すること

第116条〔研修への参加義務〕

すべての監督またはコーチは、協会またはJリーグが指定する研修会に参加しなければならない。

第117条〔選手兼務の禁止〕

監督およびコーチは、選手として登録することはできない。

第118条〔契約等〕

- ① Jクラブは、監督およびコーチと書面による契約を締結した場合は、その写しをJリーグに提出しなければならない。
- ② 監督およびコーチは、同一期間に複数のクラブと契約を締結することはできない。
- ③ 第97条〔選手の肖像等の使用〕第1項ないし第5項の規定は、監督およびコーチについて、これを準用する。

第119条〔守秘義務〕

監督およびコーチは、職務の遂行を通じて知り得た協会、JリーグまたはJクラブの秘密ないし内部事情を、第三者に開示または漏洩してはならない。

第 8 章 審 判

第 120 条〔資格要件〕

- ① 公式試合の主審および副審（以下総称して「審判」という）は、協会の認定する 1 級審判員の資格を有する者でなければならない。
- ② 外国における経験に照らし前項に定める審判資格と同等以上の資格を有していると認められる者は、事前に協会の承認を得た場合に限り、例外として前項に定める審判となり得る。
- ③ 公式試合の予備審判員は、協会の認定する 2 級以上の審判資格を有するものでなければならない。

第 121 条〔指 名〕

- ① Jリーグは、協会の審判委員会に対し、原則として主審 20 名および副審 50 名の指名を要請するものとする。
- ② 前項の指名は、1 年ごとに行われるものとする。ただし、期間途中における追加、変更および主審・副審間の変更を妨げない。

第 122 条〔審判の服装および用具〕

審判は、Jリーグが指定する服装および用具を使用しなければならない。

第 123 条〔身分証〕

審判は、Jリーグが交付する身分証を携帯するものとする。

第 124 条〔手当等〕

審判に対する手当および交通費・宿泊費は、それぞれ「試合実施要項」および「旅費規程」の定めるところによる。

第 125 条〔保 険〕

Jリーグは、審判の、試合中および試合の前後（試合のための移動途中を含む）における事故に備えるため、Jリーグの費用負担において保険措置を講ずるものとする。

第 9 章 収 益 事 業

第1節 各種の事業

第126条〔収益事業〕

Jリーグは、サッカーの普及および振興を促進するため、サッカーの試合の開催に加え、各種の付随的事業を行うものとし、各Jクラブはこれに積極的に協力するものとする。

第127条〔テレビ・ラジオ放送権〕

- ① 公式試合のテレビ・ラジオ放送権は、すべてJリーグに帰属する。
- ② 前項の放送権の取扱いについては、理事会において定める。

第128条〔その他の事業〕

Jリーグは、前2条に定める事業のほか、次の各号の事業を行うものとする。

- (1) サッカー用具の認定および検定に関する事業
- (2) 広報・出版に関する事業
- (3) その他理事会において定める事業

第129条〔Jリーグ・スポンサー〕

公式試合のスポンサーシップに関する事項については、理事会において定める。

第130条〔収入の配分〕

前4条の事業に基づく収入は、予め定められた比率により、Jクラブに配分する。

第2節 商品化に関する基本原則

第131条〔定義〕

本節における用語の意義は、次の各号に定めるところによる。

- (1) マーク等 JリーグまたはJクラブの名称、ロゴ、マーク、キャラクター、紋章、意匠、商標その他JリーグまたはJクラブを表示するもの
- (2) 商品化権 マーク等を使用して商品を製造・販売する権利
- (3) 「ケース・J」 Jリーグのみのマーク等を使用して商品を製造・販売する場合
- (4) 「ケース・J+17クラブ」 JリーグおよびすべてのJクラブのマーク等を使用して商品を製造・販売する場合
- (5) 「ケース・J+1クラブ」 Jリーグおよびある単一のJクラブのマーク等を使用して商品を製造・販売する場合

- (6) 「ケース・1クラブ」 ある単一のJクラブのみのマーク等を使用して商品を製造・販売する場合

第132条〔商品化権の帰属〕

- ① マーク等の商品化権の帰属は、原則として次のとおりとする。
- (1) 「ケース・J」および「ケース・J+17クラブ」は、Jリーグに専属的に帰属する。
 - (2) 「ケース・J+1クラブ」は、Jリーグおよび当該Jクラブに帰属する。
 - (3) 「ケース・1クラブ」は、当該Jクラブに帰属する。
- ② JリーグおよびJクラブは、それぞれのマーク等を自己の費用負担と責任において開発・登録・管理するものとする。

第133条〔商品化権の実際上の運用基準〕

前条の規定にかかわらず、マーク等の商品化権の実際上の行使は次のとおりとする。

- (1) 「ケース・J」、 「ケース・J+17クラブ」および「ケース・J+1クラブ」は、Jリーグのみが行使する。
- (2) 「ケース・1クラブ」は、Jクラブのみが行使する。
- (3) Jリーグは、前2号の商品化権を第三者に許諾することができるものとする。ただし、この場合、当該第三者がJクラブに対し商品を低廉な優遇価格で販売することを条件とする。

第134条〔事前の通知と承認〕

Jクラブおよび前条第3号に基づき許諾を受けた第三者は、商品化に先立ち、各商品ごとにその素材、形状等をJリーグに通知し、その承認を得るものとする。

第135条〔業務運営委員会による審議〕

前条に基づく承認の可否については、「業務運営委員会」において審議するものとする。

第136条〔肖像等〕

- ① Jリーグは、Jクラブ所属の選手、監督、コーチ等（以下「選手等」という）の肖像、氏名、略歴等（以下「肖像等」という）を包括的に用いる場合に限り、これを無償で使うことができるものとする。ただし、特定の選手等の肖像等のみを使用する場合には、その都度、事前にJクラブと協議し、その承認を得るものとする。
- ② Jリーグは、前項の権利を第三者に許諾することができる。

第137条〔収入の配分〕

商品化権の行使によるJリーグの収入は、予め定められた比率により、Jクラブに配分する。

第10章 紛争解決

第1節 裁定委員会

第138条〔設置〕

本規約に関連する紛争の解決および本規約に基づく制裁に関するチェアマンの諮問機関として裁定委員会を設置する。

第139条〔組織および委員〕

- ① 裁定委員会は、5名以内の委員をもって組織する。
- ② 委員は、サッカーに関する経験と知識を有し、または学識経験を有する者で、公正な判断をすることができる者のうちから、理事会の同意を得てチェアマンが任命する。
- ③ 委員は、Jリーグの理事もしくは事務局職員またはJクラブの役員もしくは職員を兼ねることができない。
- ④ 委員は、非常勤とする。

第140条〔委員の任期〕

- ① 委員の任期は2年とし、再任されることができる。
- ② 委員に欠員が生じた場合に、補欠として任命された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第141条〔委員長〕

- ① 裁定委員会に委員長を置く。
- ② 委員長は、委員が互選する。
- ③ 委員長は、裁定委員会を代表し、議事その他の会務を主宰する。
- ④ 委員長に事故あるときは、委員のうちから予め互選された者が、その職務を代行する。

第142条〔事務局〕

裁定委員会の事務を処理させるため、裁定委員会に事務局を置く。

第143条〔裁定委員会規程〕

裁定委員会の運営に関する事項は、本規約に定める事項を除き、理事会が制定する「裁定委員会規程」の定めるところによる。

第2節 チェアマンの決定

第144条〔チェアマンの決定を求める申立〕

- ① Jリーグに所属する団体および個人は、次の事項につき、チェアマンの決定を求めることができる。
 - (1) 選手の契約に関するJクラブと選手との間の紛争
 - (2) 選手の移籍に関するJクラブ相互間またはJクラブと選手との間の紛争
 - (3) 前2号のほか、本規約上の権利・義務に関する紛争
- ② 前項によりチェアマンの決定を求めようとする者は、「裁定委員会規程」の定めるところにより、裁定委員会に対し申立書を提出しなければならない。

第145条〔裁定委員会の答申〕

前条第2項による申立があったときは、まず裁定委員会が申立の内容について調査・審理した上、チェアマンに対し、書面により裁定案を答申するものとする。

第146条〔チェアマンの決定〕

チェアマンは、前条の答申を十分に尊重し、かつ、Jリーグ全体の利益を考慮した上、申立に対する決定を下すものとする。

第147条〔和解〕

申立があった後、当事者が和解した場合において、裁定委員会がその和解の内容を相当と認めるときは、その和解の内容をもって最終解決とする。

第11章 制 裁

第1節 総 則

第148条〔チェアマンによる制裁および調査〕

- ① チェアマンは、JクラブまたはJクラブに所属する個人（選手、監督、コーチ、役員その他の関係者を含む。以下同じ）が、本規約または本規約に付随する諸規程に違反したときは、制裁を科すことができる。

- ② チェアマンは、前項の制裁を科すに際し、自ら、または裁定委員会もしくは関連する専門委員会に委任して、事実関係の調査を行うことができる。
- ③ 前項の調査の対象となったＪクラブまたはＪクラブに所属する個人は、当該調査に協力しなければならない。
- ④ Ｊクラブに対する制裁の種類は次のとおりとし、これらの制裁を併科することができる。
 - (1) 譴責 始末書を取り、将来を戒める。
 - (2) 除名 Ｊリーグから除名する（ただし、総会において正会員現在数の４分の３以上の多数による議決を要する）。
- ⑤ Ｊクラブに所属する個人に対する制裁の種類は次のとおりとし、これらの制裁を併科することができる。
 - (1) 譴責 始末書を取り、将来を戒める。
 - (2) 資格停止 始末書を取り、違反行為１件につき１年以内の期限を付して、公式試合の出場資格を停止する。
 - (3) 無期限の資格停止 期限を定めないで公式試合の出場資格を停止する。

第 149 条〔制裁金の併科〕

- ① チェアマンは、Ｊクラブに対し前条第 4 項の制裁を科すにあたり、制裁金を併科することができる。
- ② Ｊクラブに対する制裁金は、１件につき 3000 万円以下とする。

第 150 条〔裁定委員会への諮問〕

チェアマンは、前 2 条による制裁の種類および内容に関し裁定委員会に諮問し、その答申に基づき制裁を決定する。

第 151 条〔制裁金の納付〕

制裁金は、チェアマンによる制裁金の決定後 30 日以内に、Ｊリーグの指定する方法により納付しなければならない。

第 152 条〔制裁金の合算〕

同時に複数の違反行為が制裁金の対象となったときは、各々について定められた制裁金の合算額をもって制裁金の金額とする。

第 153 条〔他者を利用した違反行為〕

他の者をして、違反行為を行わせたＪクラブまたはＪクラブに所属する個人には、自ら違反行為を行った場合と同様の制裁を科するものとする。

第 154 条〔両罰規定〕

Ｊクラブに所属する個人が違反行為を行った場合には、その個人に対して制裁を科すほか、その個人が所属するＪクラブに対しても制裁を科すことができる。ただし、

当該Jクラブに過失がなかったときは、この限りではない。

第155条〔違反行為の重複による加重〕

同種の違反行為を重ねて行ったときは、その違反行為について定められた制裁金の金額の2倍以下の範囲内において、制裁金の金額を加重することができる。

第156条〔酌量減輕〕

- ① 違反行為が行われた場合においても、その情状において酌量すべき事情があるときは、その制裁金の金額を減額することができる。
- ② 前条により加重すべき場合においても、なお前項の規定を適用することができる。

第2節 Jクラブに対する制裁金

第157条〔届出等に関する規約違反〕

次の各号のいずれかに該当するJクラブに対しては、100万円以下の制裁金を科す。

- (1) 第23条〔財務内容の開示〕第1項の規定に違反して所定の書類を提出せず、または虚偽の記載をした書類を提出したとき
- (2) 第24条〔株主の変更等〕第1項の規定に違反して株主名簿の写しを提出せず、または虚偽の記載をした株主名簿の写しを提出したとき
- (3) 第110条〔最終提示額証明書〕の規定に違反して「最終提示額証明書」を発行せず、または虚偽の記載をした「最終提示額証明書」を発行したとき

第158条〔競技の運営等に関する規約違反〕

次の各号のいずれかに該当するJクラブに対しては、300万円以下の制裁金を科す。

- (1) 第46条〔届出義務〕第1項または第2項の規定に違反して所定の事項の届出をせず、または入場料金を所定の条件で設定しなかったとき
- (2) 第48条〔ユニフォーム〕第1項または第2項の規定に違反して所定の条件を満たすユニフォームを使用しなかったとき
- (3) 第118条〔契約等〕第1項の規定に違反して所定の写しを提出せず、または虚偽の内容の写しを提出したとき

第159条〔契約更新手続に関する規約違反〕

次の各号のいずれかに該当するJクラブに対しては、500万円以下の制裁金を科す。

- (1) 第102条〔契約更新の通知〕の規定に違反して所定の書面による通知をせず、または虚偽の内容を通知したとき
- (2) 第109条〔更新を希望しない場合〕の規定に違反して所定の書面による通知をせず、または虚偽の内容を通知したとき

第160条〔Jクラブの義務等に関する規約違反(1)〕

次の各号のいずれかに該当するJクラブに対しては、1000万円以下の制裁金を科す。

- (1) 第24条〔株主の変更等〕第2項の規定に違反して理事会の承認を得ずに株主を変更したとき
- (2) 第41条〔参加義務等〕第2項の規定に違反して選出された選手を試合に参加させなかったとき
- (3) 第60条〔抱き合わせ開催の禁止〕の規定に違反して公式試合を他のイベント等と抱き合わせで開催したとき
- (4) 第134条〔事前の通知と承認〕の規定に違反して所定の手続を経ずに商品化を行ったとき

第161条〔Jクラブの義務等に関する規約違反(2)〕

次の各号のいずれかに該当するJクラブに対しては、1500万円以下の制裁金を科す。

- (1) 第42条〔最強のチームによる試合参加〕の規定に違反して最強のチームをもって試合に臨まなかったとき
- (2) 第50条〔Jクラブの責任〕の規定に違反して安全確保を怠り、または適切な態度を保持するよう努めなかったとき
- (3) 第56条〔試合日程の遵守〕の規定に違反して試合日程を遵守しなかったとき
- (4) 第68条〔公式試合以外の有料試合〕の規定に違反して事前にJリーグの承認を得ずに有料試合を開催したとき
- (5) 第69条〔外国チームとの試合等〕の規定に違反して事前に協会およびJリーグの承認を得ずに外国チームと試合を行ったとき
- (6) 第70条〔興行等への参加禁止〕の規定に違反して事前にJリーグの承認を得ずに第三者が主催するスポーツの試合またはイベント等に参加したとき
- (7) 第92条〔選手契約〕第2項の規定に違反して所定の写しを提出せず、または虚偽の内容の写しを提出したとき
- (8) 第95条〔代理人等〕の規定に違反してJクラブと選手との契約に関し、弁護士以外の者を代理人等として関与させたとき
- (9) 第103条〔専属交渉期間〕の規定に違反して選手と移籍に関する交渉または接触をしたとき
- (10) 第148条〔チェアマンによる制裁および調査〕第3項の規定に違反して調査に協力しなかったとき

第162条〔Jクラブの義務等に関する規約違反(3)〕

次の各号のいずれかに該当するJクラブに対しては、3000万円以下の制裁金を科す。

- (1) 第41条〔参加義務等〕第1項の規定に違反して所定の試合に参加しなかったとき

- (2) 第 43 条〔不正行為への関与の禁止〕の規定に違反して試合の結果に影響を及ぼすおそれのある不正行為に関与したとき
- (3) 第 93 条〔選手の報酬等〕第 1 項の規定に違反して選手に対して所定の報酬以外の金銭または利益を供与したとき
- (4) 第 100 条〔未登録の選手〕の規定に違反して未登録の選手を公式試合に出場させたとき

第 3 節 反 則 金

第 163 条〔アンフェアなプレイに対する反則金〕

- ① Jリーグは、反則ポイントの年間合計数が 96 ポイント以上の Jクラブに対し、実行委員会の定めるところにより、100 万円以下の反則金を科すものとする。
- ② 前項の反則ポイントの対象試合は、リーグ戦に限るものとする。

第 164 条〔反則ポイントの計算方法〕

前条の反則ポイントの計算は、退場 1 回につき 3 ポイント（同一試合における警告 2 回による退場も同様とする）、警告 1 回につき 1 ポイント、出場停止 1 試合につき 3 ポイントとして加算する。

第 12 章 最終的拘束力

第 165 条〔最終的拘束力〕

チェアマンの下す決定は Jリーグにおいて最終のものであり、当事者および Jリーグに所属するすべての団体および個人はこれに拘束され、チェアマンの決定を不服として裁判所その他の第三者に訴えることはできない。

第 13 章 改 正

第166条〔改正〕

本規約の改正は、理事会の発議に基づく総会の議決により、これを行う。

第14章 附 則

第1条〔施行期日〕

本規約は、平成5年4月1日から施行する。

〔改正〕

平成6年2月15日

平成7年2月28日

平成8年2月20日

平成9年2月18日

実行委員会規程

第1条〔目的〕

本規程は、「定款」および「Jリーグ規約」に基づき、実行委員会の組織、権限および運営に関する事項について定める。

第2条〔構成〕

実行委員会は、チェアマン、役付理事および正会員たるJクラブから1名ずつ選任され理事会において承認された者をもって構成する。

第3条〔資格要件〕

Jクラブが選任する実行委員は、Jクラブの代表取締役（原則として社長）であることを要する。

第4条〔任期〕

- ① 実行委員の任期は2年とする。ただし、増員または補欠のため選任された実行委員の任期は、他の実行委員の任期の満了すべき時までとする。
- ② 実行委員は、再任されることができる。
- ③ 実行委員は、原則として任期途中において変更することはできない。ただし、やむを得ない事由があり、かつ理事会の承認を得た場合は、この限りではない。

第5条〔招集〕

実行委員会は、原則として毎月1回招集し、その他必要があるごとに随時招集する。

第6条〔招集権者および議長〕

- ① 実行委員会は、チェアマンが招集し、その議長となる。ただし、チェアマンに事故あるときは、理事会が予め指定した理事がこれにあたる。
- ② 実行委員総数の3分の2以上から会議の目的事項を示して請求があったときは、チェアマンは、実行委員会を招集しなければならない。
- ③ 実行委員会の招集は、予め実行委員会において定めた期日の場合を除き、各実行委員および担当理事に対し、会日の7日前までに通知しなければならない。ただし、緊急の必要があるときは、この限りではない。

第7条〔権限〕

- ① 実行委員会は、Jリーグの業務執行に関する事項および理事会から委嘱された事項を審議決定する。

- ② 次の事項は、実行委員会の承認を得なければならない。
- (1) リーグ運営の基本方針に関する事項
 - (2) 事業計画および事業報告に関する事項
 - (3) 予算および決算に関する事項
 - (4) 試合実施に関する事項
 - (5) スポンサー契約に関する事項
 - (6) 放送権に関する事項
 - (7) 商品化権に関する事項
 - (8) 新規入会に関する事項
 - (9) 公式試合に派遣されるマッチコミッサーの推薦
 - (10) 「Jリーグ規約」第16条第1項各号に定める専門委員会の委員長の任命
 - (11) 前号の専門委員会に対する調査、研究その他事項の指示および所管事項の調整
 - (12) その他重要な事項
- ③ 実行委員会は、その運営に関し、必要な細則を定めることができる。

第8条〔定足数および決議要件〕

実行委員会の決議は、委員現在数の3分の2以上が出席し、その出席委員の過半数をもって行う。ただし、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

第9条〔代理出席〕

予めチェアマンに届け出て承認を得た者は、実行委員の代理人として実行委員会に出席し、議決権を行使することができる。

第10条〔関係者の出席〕

- ① 協会の役付理事は、実行委員会に出席し、意見を述べることができる。
- ② 実行委員会は、必要に応じて議案に関係ある者を出席させ、その意見または報告を聴取することができる。

第11条〔議事録〕

実行委員会の議事の経過の要領および結果は議事録に記載し、これをJリーグの事務局に保存する。

第12条〔事務局〕

実行委員会に関する事務は、Jリーグの事務局長が統括する。

第13条〔改正〕

本規程の改正は、理事会の決議に基づきこれを行うものとする。

第14条〔施行〕

本規程は、平成6年8月16日から施行する。

〔改 正〕

平成 7 年 2 月 28 日

平成 9 年 2 月 18 日

専門委員会規程

第1条〔趣旨〕

本規程は、「Jリーグ規約」第16条第3項に基づき、各専門委員会の組織、権限および運営に関する事項について定める。

第2条〔組織・運営〕

- ① 各専門委員会は、それぞれ委員長および委員若干名をもって、これを組織する。
- ② 各専門委員会の委員長および委員は、サッカーに関する知識を有し、または学識経験者の中から、実行委員会の下に置かれる専門委員会については実行委員会が、チェアマンの下に置かれる専門委員会についてはチェアマンが、それぞれ任命する。
- ③ 業務運営委員会およびホームタウン委員会の委員のうち、Jクラブより選出される者については、原則として、取締役以上とする。
- ④ 各専門委員会は、委員長がこれを招集し、議事その他の会務を主宰する。
- ⑤ 委員長に事故あるときは、委員のうちから予め互選された者が、その職務を代行する。

第3条〔委員の登録〕

- ① 各専門委員会の委員長および委員に関する次の事項は、Jリーグ事務局が管理する「専門委員会名簿」に登録する。
 - (1) 氏名および住所（連絡先）
 - (2) 任期
 - (3) 職業および勤務先
 - (4) その他の必要事項
- ② 各専門委員会の委員長および委員は、前項記載の事項に変更が生じた場合には、遅滞なくJリーグ事務局に届け出なければならない。

第4条〔任期〕

- ① 各専門委員会の委員長および委員の任期は2年とする。ただし、補欠として任命された委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- ② 各専門委員会の委員長および委員は、再任されることができる。

第5条〔各専門委員会の所管事項〕

各専門委員会の所管事項は、別表1に記載するとおりとする。

第6条〔各専門委員会の職務〕

- ① 各専門委員会は、その所管事項に関し、次の事項を行う。
 - (1) 所管事項およびこれに付帯関連する事項に関する調査、研究
 - (2) その他実行委員会またはチェアマンから特に指示された事項
- ② 複数の専門委員会の所管事項に関連する事項については、実行委員会またはチェアマンが、これを調整する。

第7条〔議事録〕

各専門委員会の議事の経過の要領および結果は、議事録に記録しておかなければならない。

第8条〔事務局〕

各専門委員会は、その事務を処理させるため、事務局を置くことができる。

第9条〔細則〕

各専門委員会は、その所管事項の処理に関し必要な細則を定めることができる。

第10条〔施行〕

本規程は、平成5年4月1日から施行する。

〔改正〕

平成6年2月15日

平成7年2月28日

平成8年2月20日

〔別表1〕 所 管 事 項

〔1〕 実行委員会の下に置かれる専門委員会

専門委員会の名称	所 管 事 項
1. 業務運営委員会	(1) 公式試合の日程の検討・立案 (2) 公式試合の実施に関する要項の検討・立案 (3) 公式試合のユニフォームの選定・承認に関する事項 (4) スポンサー契約に関する事項の検討・立案 (5) イベント等の主催，後援，協力に関する事項 (6) テレビ・ラジオ放送権に関する事項の検討・立案 (7) Jリーグおよび各Jクラブのマーク等を使用した商品の製造・販売（商品化）に関する事前審査および承認に関する事項 (8) 前号のマーク等の管理に関する事項 (9) その他公式試合の開催・運営，商品化および収益事業に関する事項の検討・立案
2. 選手委員会	(1) 選手契約に関する事項の検討・立案 (2) 選手の資格に関する事項の検討・立案 (3) 選手の移籍に関する事項の検討・立案 (4) その他選手の管理に関する事項の検討・立案

専門委員会の名称	所 管 事 項
3. ホームタウン委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) ホームタウンおよび活動区域での各Jクラブの活動の実態の把握と調査に関する事項 (2) 各Jクラブのホームタウンにおける理念の具現化および推進の啓蒙・助言に関する事項 (3) 各Jクラブのチーム名, ホームタウンおよび活動区域の設定・変更に関する事項の検討・立案 (4) 会員の入会の条件設定, 入会審査に関する事項の検討・立案 (5) その他ホームタウンに関する事項の検討・立案
4. 広報委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) 取材体制の検討・立案 (2) 情報発信および収集に関する事項の検討・立案 (3) 告知活動に関する事項の検討・立案 (4) ガイドブックその他の刊行物の発行 (5) その他広報活動に関する事項の検討・立案
5. 財務企画委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各会計年度の予算および決算の検討・立案 (2) 諸行事の実施に関する予算統制および収支の監査 (3) 資金の運用・借入等の資金計画に関する事項の検討・立案 (4) 年金制度に関する事項 (5) 傷害保険に関する事項 (6) その他財務, 経理および選手等の福利・厚生に関する事項の検討・立案

〔2〕 チェアマンの下に置かれる専門委員会

専門委員会の名称	所 管 事 項
1. 規律委員会	(1) ピッチおよびその周辺部分ならびに競技場内外における懲罰事由の調査および処分の決定 (2) Jリーグに対する社会一般の評価を悪化させるおそれのある事項の防止に関する検討・立案 (3) スポーツマンシップおよび秩序維持に関する事項の検討・立案 (4) 指導者の養成・研修に関する事項 (5) その他規律および懲罰に関する事項の検討・立案
2. 審判委員会	(1) 審判技術の指導に関する事項 (2) 審判員の養成に関する事項 (3) 競技規則の解釈および運用に関する事項 (4) その他審判に関する事項の検討・立案
3. 技術委員会	(1) 強化方針に基づく技術指導 (2) サッカー技術に関する調査・研究 (3) 指導者の資格（ライセンス）に関する事項 (4) 指導者の養成・研修に関する事項 (5) 長期的展望に立った、ユース育成のための諸方策の企画・立案 (6) その他サッカー技術および指導者に関する事項の検討・立案
4. スポーツ医学委員会	(1) 公式試合における、競技場内医事運営に関する事項 (2) 医学的検査，外傷・傷害の処置を含む選手の健康管理の指導に関する事項 (3) メディカルチェックに関する事項 (4) その他のスポーツ医学に関する事項の検討・立案

専門委員会の名称	所 管 事 項
5. 法務委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) 定款, Jリーグ規約および諸規程の制定・改廃に関する検討・立案 (2) 選手契約の法的解釈・運用に関する事項 (3) サッカーに関する外国の制度, 規程等の調査・検討 (4) チェアマンから特に指定された事項の調査・検討 (5) その他法務関連事項に関する検討・立案
6. マッチコミッサリー委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) マッチコミッサリー業務内容の企画・立案 (2) マッチコミッサリー選考基準の企画・立案 (3) マッチコミッサリー候補者の推薦・選考 (4) マッチコミッサリー研修会の企画・立案 (5) マッチコミッサリー報告書, 緊急報告書の管理 (6) マッチコミッサリーの割当て (7) 各種通達事項作成
7. ドーピングコントロール委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) ドーピングに関する業務内容の企画・立案 (2) ドーピングコントロールスーパーバイザー, ドーピングドクターおよびメディカルエスコートの選考基準の作成および指名 (3) アンチ・ドーピングに関する啓蒙活動 (4) ドーピングに関する研修・情報交換に関する事項 (5) ドーピングコントロール報告書の管理 (6) 各種通達事項の作成

主管権譲渡規程

第1条〔趣旨〕

本規程は、「Jリーグ規約」第45条に基づき、ホームゲームの主管権の譲渡について定める。

第2条〔主管権の譲渡〕

- ① Jクラブは、Jリーグの事前の承認を得て、ホームゲームの主管権を、協会に所属する都道府県サッカー協会に対し譲渡することができる。
- ② 主管権譲渡の対象となった試合（以下「譲渡試合」という）の運営に関する一切の費用（協会納付金等を含む）は、主管権の譲渡を受けた都道府県サッカー協会が負担する。
- ③ Jクラブは、主管権を譲渡した場合においても、「Jリーグ規約」に定めるJクラブの義務を免れることはできない。

第3条〔後援・協力〕

主管権の譲渡を受ける都道府県サッカー協会は、Jリーグの事前の承認を得た場合にかぎり、譲渡試合に対する地方公共団体、新聞社または放送会社の後援または協力を得ることができる。

第4条〔譲渡の手続き〕

主管権の譲渡は、次に定める手続きによるものとする。

- (1) 主管権を譲渡しようとするJクラブは、譲渡試合の属する大会の開幕日の3か月前までに、主管権を譲渡する都道府県サッカー協会との連名にて、Jリーグに対し所定の申請書（様式1または様式2）により申請する。
- (2) Jリーグは、申請を受理した後14日以内に、承認の可否を、申請元のJクラブに対し通知する。

第5条〔譲渡金および純益の配分〕

- ① 本規程に基づく主管権の譲渡の対価は、金2000万円（消費税を含まない）以上とする。ただし、Jサテライトリーグについては金50万円（消費税を含まない）以上とする。
- ② Jサテライトリーグのホームゲームの主管権を譲渡したJクラブは、原則として当該試合の総収入から必要経費（譲渡金を含む）を控除した純益の30%相当額を、譲渡先都道府県サッカー協会から受領するものとする。

第6条〔テレビ・ラジオ放送権〕

譲渡試合のテレビ・ラジオ放送権は、Jリーグに帰属する。

第7条〔試合の運営〕

譲渡試合の運営については、「Jリーグ規約」および「試合実施要項」の定めるところによる。

第8条〔施行〕

本規程は、平成5年4月1日から施行する。

〔改正〕

平成6年2月15日

平成7年2月28日

平成 年 月 日

社団法人 日本プロサッカーリーグ
チェアマン 川 淵 三 郎 殿

(住所)
甲〔譲渡するJクラブ〕 (名称)
(代表者) (印)

(住所)
乙〔譲受ける都道府県 (名称)
サッカー協会〕 (代表者) (印)

主管権譲渡承認申請書〔様式I〕

甲から乙に対し、下記の条件により公式試合の主管権を譲渡いたしたく、「Jリーグ規約」第45条および「主管権譲渡規程」第4条に基づき申請いたします。

記

1	譲渡試合	①日 時	平成 年 月 日 午前・午後 時 分
		②場 所	
		③対戦相手	
2	大会運営	Jリーグの試合実施要項に準拠する。	
3	経 費	①必要経費	乙が、Jリーグ規約第75条の必要経費を負担する。
		②遠征費用	乙は、「旅費規程」に定める基準に従い、出場チーム双方に対し試合当日までに支払う。
		③その他	(1)マッチコミッサーならびに主審および副審2名の旅費等はJリーグが負担する。 (2)予備審判員の旅費等は乙が負担する。 (3)試合使用球7個は甲が準備する。
4	入場料および入場券等	①入場料	入場料収入はすべて乙が管理する。
		②入場券	入場券は乙の費用負担により作成し、その発行枚数は所定の用紙により甲からJリーグに報告する。
		③招待券	乙は、Jリーグ所定の枚数の招待券を、無償にてJリーグに提供する。

		④協会納付金	乙は、協会納付金（入場料収入の5%相当額）を、甲を經由して協会に納付する。
		⑤事前承認	乙は、入場料の体系および入場券のデザインについて事前に甲を經由してJリーグの承認を得る。
5	放送権	テレビ・ラジオ放送権はJリーグに帰属する。	
6	ポスター等	ポスターおよびプログラムは、乙の費用負担により作成する。	
7	広告掲載等	乙は、競技場に掲出する広告看板および入場券の裏面への広告掲出等については、事前に甲を經由してJリーグの承認を得る。	
8	譲渡の対価	①金額	主管権譲渡の対価は金_____円 (ただし、消費税を含まない)とする。
		②支払時期	乙は、前項の対価を、譲渡試合の実施日の翌日から起算して20日以内に、甲に対し支払う。
		③支払方法	Jリーグの指定する方法による。
9	後援または協力 (団体名)	①後援	
		②協力	
10	収支報告	乙は、譲渡試合の実施日の翌日から起算して20日以内に、甲を經由してJリーグに対し、所定の用紙により譲渡試合の収支報告を行う。	
11	協議	本申請書に定めのない事項については、協会の寄附行為、Jリーグ規約およびこれらに付随する諸規程の定めるところに従い、甲、乙およびJリーグが誠意をもって協議の上決定する。	

以上

[注]：本申請書は、甲乙捺印済みのもの3通を提出して下さい。

承認書

上記の申請書に基づく主管権の譲渡を承認します。

平成 年 月 日

社団法人 日本プロサッカーリーグ
 チェアマン 川 淵 三 郎 (印)

承認番号	平成 年・第	号
------	--------	---

平成 年 月 日

社団法人 日本プロサッカーリーグ
チェアマン 川 淵 三 郎 殿

(住所)
甲〔譲渡するJクラブ〕 (名称)
(代表者) (印)

(住所)
乙〔譲受ける都道府県 (名称)
サッカー協会〕 (代表者) (印)

主管権譲渡承認申請書〔様式2〕

——Jサテライトリーグ用——

甲から乙に対し、下記の条件により公式試合の主管権を譲渡いたしたく、「Jリーグ規約」第45条および「主管権譲渡規程」第4条に基づき申請いたします。

記

1	譲渡試合	①日 時	平成 年 月 日 午前・午後 時 分
		②場 所	
		③対戦相手	
2	大会運営	Jリーグの試合実施要項に準拠する。	
3	経 費	①必要経費	乙が、Jリーグ規約第75条の必要経費を負担する。
		②遠征費用	乙は、「旅費規程」に定める基準に従い、出場チーム双方に対し試合当日までに支払う。
		③その他	(1)主審および副審2名の旅費等はJリーグが負担する。 (2)マッチコミッサーおよび予備審判員の旅費等は乙が負担する。 (3)試合使用球2個は甲が準備する。
4	入場料および入場券等	①入場料	入場料収入はすべて乙が管理する。
		②入場券	入場券は乙の費用負担により作成し、その発行枚数は所定の用紙により甲からJリーグに報告する。

		③招待券	乙は、Ｊリーグ所定の枚数の招待券を、無償にてＪリーグに提供する。
		④事前承認	乙は、入場料の体系および入場券のデザインについて事前に甲を経由してＪリーグの承認を得る。
5	放送権	テレビ・ラジオ放送権はＪリーグに帰属する。	
6	ポスター等	ポスターおよびプログラムは、乙の費用負担により作成する。	
7	広告掲載等	乙は、競技場に掲出する広告看板および入場券の裏面への広告掲出等については、事前に甲を経由してＪリーグの承認を得る。	
8	譲渡の対価	①金額	主管権譲渡の対価は金_____円 (ただし、消費税を含まない) および純益の30%相当額とする。
		②支払時期	乙は、前項の対価を、譲渡試合の実施日の翌日から起算して20日以内に、甲に対し支払う。
		③支払方法	Ｊリーグの指定する方法による。
9	後援または協力 (団体名)	①後援	
		②協力	
10	収支報告	乙は、譲渡試合の実施日の翌日から起算して20日以内に、甲を経由してＪリーグに対し、所定の用紙により譲渡試合の収支報告を行う。	
11	協議	本申請書に定めのない事項については、協会の寄附行為、Ｊリーグ規約およびこれらに付随する諸規程の定めるところに従い、甲、乙およびＪリーグが誠意をもって協議の上決定する。	

以上

[注]：本申請書は、甲乙捺印済みのもの3通を提出して下さい。

承認書

上記の申請書に基づく主管権の譲渡を承認します。

平成 年 月 日

社団法人 日本プロサッカーリーグ
 チェアマン 川 淵 三 郎 (印)

承認番号	平成 年・第	号
------	--------	---

公式試合出場料規程

第1条〔目的〕

本規程は、「Jリーグ規約」第76条に基づき、Jリーグが主管するリーグ戦、リーグカップ戦その他の公式試合（以下「公式試合」という）に出場するチームを保有する正会員および準会員（以下「クラブ」という）に対して支給される対価（以下「出場料」という）について定める。

第2条〔出場料の計算方法〕

- ① 各クラブの出場料は、公式試合の収入の総額の95%以内の金額を参加クラブ数で除した金額とする。
- ② 年度毎の出場料算出基準は、各年度初めに決定する。
- ③ 第1項の収入とは、協賛金および入場料の合計金額をいう。

第3条〔出場料の計算年度〕

出場料の計算年度は、毎年3月1日から翌年2月末日までとする。

第4条〔出場料の支給方法〕

- ① 出場料の支給方法は、次のとおりとする。
 - (1) 毎年3月31日までに、当年の2月末日に終了する計算年度に関する出場料を決定する。
 - (2) 前号により決定した出場料を、当年の4月30日までに各クラブに対して支給する。
- ② 前項の規定にかかわらず、理事会および全てのクラブが承認した場合には、計算年度の途中において、出場料の2分の1に相当する金額を、中間金として支給することができる。
- ③ 前項に基づき支給した中間金は、第1項に基づく支給額から控除されるものとする。

第5条〔付則〕

- ① 本規程は、平成5年3月1日から実施する。

〔改正〕

平成6年2月15日

平成7年2月28日

旅 費 規 程

第1条〔目的〕

本規程は、Ｊリーグ規約第82条および第124条に基づき、選手、監督、コーチおよび審判員等の交通費および宿泊費について定める。

第2条〔公式試合の交通費および宿泊費〕

- ① 公式試合（リーグ戦およびリーグカップ戦）のための遠征に要する交通費および宿泊費は、次の基準により算出する。
 - (1) 人員数は24名（役員およびチームスタッフ8名、選手16名）を上限とする。
 - (2) 交通費は、新幹線グリーン車による往復を原則とする。
ただし、
 - イ、在来線による場合はグリーン車の特急または寝台とする。
 - ロ、試合当日に本拠地に帰着できない場合、航空機の利用を認めることがある。
 - (3) 宿泊費は、試合前の1泊分として1名につき金2万円とする。
ただし、
 - イ、本拠地から試合開催地までの距離が片道100km未満のときを除く。
 - ロ、試合当日に本拠地に帰着できない場合、試合後の1泊を認めることがある。
- ② 前項の交通費および宿泊費は、その全額を、遠征を行ったＪクラブが自ら負担する。
- ③ 前項の規定にかかわらず、第1項に基づき計算した各クラブの交通費および宿泊費の総額に著しい差異が生じた場合、Ｊリーグは実行委員会の定める方法により、その差額を補填する。

第3条〔Ｊサテライトリーグ戦〕

- ① Ｊサテライトリーグ戦における遠征に要する交通費および宿泊費は、次の基準により算出された全クラブの費用の合計額を、各クラブにおいて均等の割合で負担する。
 - (1) 1クラブの人員数は22名（役員およびチームスタッフ6名、選手16名）を上限とする。
 - (2) 交通費は、新幹線普通車の往復運賃を原則とする。
ただし、
 - イ、在来線による場合は普通車の特急またはＢ寝台とする。
 - ロ、試合当日に本拠地に帰着できない場合、航空機の利用を認めることがある。
 - (3) 宿泊費は、試合前の1泊分として1名につき金1万5000円とする。
- ② 本拠地から試合開催地までの距離が片道100km未満の場合には、前項第3号の費用は除かれるものとする。

第4条〔審判員の交通費および宿泊費〕

- ① 公式試合の審判員の交通費および宿泊費は、次の基準によりJリーグが支給する。
 - (1) 宿泊費は、1泊につき金2万円とする。

ただし、自宅の最寄り駅から試合開催地までの距離が200km以上のときは前泊を認め、特別の事情があるときは後泊も認める。
 - (2) 交通費は、次の基準により支給する。
 - イ. 片道100km以上のときは、グリーン車の特急、寝台の往復とし、新幹線利用の場合は普通車往復運賃を原則とする。ただし、主審についてはグリーン車の利用を認める。
 - ロ. タクシーの利用が不可避の場合には、タクシーの利用を認める。
 - ハ. 試合開催地が自宅所在地と同一県内にある場合は一律金2000円とし、超過分は実費精算とする。
- ② Jサテライトリーグ戦の審判員の交通費および宿泊費は、次の基準によりJリーグが支給する。
 - (1) 宿泊費は、1泊につき金1万5000円とする。

ただし、自宅の最寄り駅から試合開催地までの距離が200km以上のときは前泊を認め、特別の事情があるときは後泊も認める。
 - (2) 交通費は、次の基準により支給する。
 - イ. 片道100km以上のときは、グリーン車の特急、寝台の往復とし、新幹線利用の場合は普通車往復運賃を原則とする。
 - ロ. 試合開催地が自宅所在地と同一県内にある場合は一律金2000円とし、超過分は実費精算とする。
- ③ プレシーズンマッチの審判員の交通費および宿泊費は、前2項に定める基準により、主管者が支給する。

第5条〔監督・コーチ等の行事参加〕

Jクラブの監督およびコーチ等が、Jリーグの指示に基づき行事に参加する場合の交通費および宿泊費は、次の基準によりJリーグが支給する。

- (1) 交通費は、新幹線グリーン車による往復を原則とする。ただし、在来線による場合はグリーン車の特急または寝台とする。
- (2) 宿泊費は、1泊につき金2万円とする。

第6条〔選手の行事参加〕

選手が、Jリーグの指示に基づき行事に参加する場合の交通費および宿泊費については、第2条第1項または第3条第1項に定める基準により、Jリーグが支給する。

第7条〔協会の規程の準用〕

本規程に定めのない事項については、協会の「旅費規程」を準用する。

第8条〔施行〕

本規程は、平成5年4月1日から施行する。

〔改 正〕

平成6年2月15日

平成7年2月28日

表彰規程

第1条〔趣旨〕

本規程は、「Jリーグ規約」第85条に基づき、チーム、選手、監督、コーチおよび審判員の表彰ならびにJリーグの発展に功労のあった者に対する表彰に関し定める。

第2条〔各ステージ表彰〕

Jリーグは、第1、第2各ステージにおけるチームの順位により、それぞれ次のとおり賞金および記念品を授与する。

- (1) 優勝：賞金 100,000,000 円、チェアマン杯
- (2) 2位：賞金 60,000,000 円、Jリーグ楯
- (3) 3位：賞金 40,000,000 円、Jリーグ楯
- (4) 4位：賞金 20,000,000 円
- (5) 5位：賞金 10,000,000 円

第3条〔年間総合表彰〕

- ① チャンピオンシップが行われた場合、その結果に対してJリーグは、次のとおり賞金および記念品を授与する。
 - (1) 勝者：賞金 10,000,000 円、Jリーグ杯（優勝銀皿）、日本サッカー協会会長杯、日本・ポルトガル友好アトランティス杯、メダル、チャンピオンフラッグ
 - (2) 敗者：賞金 3,000,000 円、Jリーグ杯（2位銀皿）
- ② チャンピオンシップが行われない場合、総合順位の優勝および2位のチームに対して、Jリーグは、前項の記念品を授与する。

第4条〔フェアプレイ賞（高円宮杯）〕

- ① Jリーグは、リーグ戦における反則ポイント数の年間合計数が24ポイント以下であり、かつ、当該反則ポイント数が最少のチームに対し、高円宮杯を授与する。
- ② 前項の反則ポイントの計算は、退場1回につき3ポイント（同一試合における警告2回による退場も同様とする）警告1回につき1ポイント、出場停止1試合につき3ポイントとして加算する。
- ③ Jリーグは、反則ポイントの年間合計数が24ポイント以下のチームに対し、フェアプレイ賞として金5,000,000円の賞金を授与する。

第5条〔個人表彰〕

- ① Jリーグは、リーグ戦第1ステージにおける選手の活躍を評価して優秀選手1名選考し、賞金500,000円を授与する。

- ② Jリーグは、チャンピオンシップが行われた場合、その大会における選手の活躍を評価して優秀選手1名選考し、賞金1,000,000円を授与する。
- ③ Jリーグは、第1、第2各ステージを通じたリーグ戦における選手の活躍を評価して次の各賞を選考し、賞金または賞品を授与する。
 - (1) 得点王：賞金1,000,000円
 - (2) ベストイレブン：賞金1,000,000円
 - (3) 最優秀選手賞：賞金2,000,000円
 - (4) フェアプレイ賞：賞金500,000円
 - (5) 新人王：賞金500,000円
 - (6) 優勝監督賞：賞金1,000,000円
 - (7) 最優秀監督賞：賞金1,000,000円
 - (8) 優秀主審賞
 - (9) 優秀副審賞
- ④ 前項の各賞の受賞者は、実行委員会が指名した者により構成される選考委員会が決定する。
- ⑤ Jリーグは、選手および審判員に対し、リーグ戦通算出場記録により、記念品および賞品を授与して表彰を行うことができる。

第6条〔リーグカップ表彰〕

- ① Jリーグは、リーグカップ終了後、チームの順位により次のとおり賞金および記念品を授与する。
 - (1) 優勝：賞金100,000,000円、Jリーグカップ、メダル、スポンサー杯
 - (2) 2位：賞金50,000,000円、楯、メダル
 - (3) 3位：1チームにつき賞金30,000,000円、楯
 - (4) 準々決勝に出場したその他のチーム：1チームにつき賞金10,000,000円
- ② Jリーグは、選手に対し、リーグカップにおける活躍を評価して最優秀選手を選考し、賞金または賞品を授与する。

第7条〔功労者表彰〕

- ① Jリーグは、Jリーグの発展に功労のあった者に対し、記念品等を贈呈して表彰を行うことができる。
- ② 前項の表彰を受ける者は、チェアマンの推薦に基づき理事会が決定する。

第8条〔Jリーグ・アウォーズ〕

- ① 個人表彰およびフェアプレイ賞等を表彰するJリーグ・アウォーズは、Jリーグチャンピオンシップ終了後に行う。
- ② Jリーグ・アウォーズには、次の者が出席する。
 - (1) Jリーグ役員、マッチコミッサー、実行委員等
 - (2) 受賞対象チームの役員および選手
 - (3) 個人表彰の受賞者

(4) その他の表彰対象者

- ③ 前項の出席者の交通費および宿泊費は、Ｊリーグ「旅費規程」に基づきＪリーグが負担する。
- ④ Ｊリーグ・アウォーズには、サッカー担当記者、審判関係者、スポンサー関係者およびその他の関係者を招待する。

第9条〔施行〕

本規程は、平成5年4月1日から施行する。

〔改正〕

平成6年2月15日

平成7年2月28日

平成8年2月20日

平成9年2月18日

ドーピング禁止規程

第1条〔趣旨〕

本規程は、「Jリーグ規約」第88条の2第3項に基づき、ドーピングの定義、ドーピングテストの手続き、違反者に対する罰則その他ドーピングに関する事項について定める。

第2条〔ドーピングの定義〕

- ① 本規程においてドーピングとは、所定の手続きに従い選手から採取した尿を分析した結果、国際サッカー連盟（以下「FIFA」という）が定める〔別表1〕記載の禁止物質（以下「禁止物質」という）が検出され、陽性と認定されたことをいう。
- ② FIFAが、禁止物質またはその基準量を変更したときは、当該禁止物質または基準量は、これに従って自動的に変更されるものとする。

第3条〔ドーピングテストの手続き〕

- ① 採尿および分析の方法その他ドーピングテストの手続きに関する事項は、チェアマンが実行委員会の承認を得て制定する『Jリーグ・ドーピングコントロール要項』の定めるところによる。
- ② ドーピングテストの手続きが、『Jリーグ・ドーピングコントロール要項』の規定に相違した場合においても、その相違点が軽微であって分析の結果の信頼性を実質的に損なうものでない限り、分析の結果は影響を受けないものとする。

第4条〔関与等の禁止〕

JクラブおよびJクラブに所属する個人（選手、ドクター、監督、コーチ、役員その他の関係者を含む。以下同じ）は、常にドーピングを防止する義務を負い、直接たると間接たるとを問わず、一切、ドーピングに関与してはならない。

第5条〔罰則〕

- ① アンチ・ドーピング特別委員会は、ドーピングコントロール委員会により陽性と認定された選手およびドーピングテストを拒絶した選手に対し、理事会の承認に基づき、制裁を科すことができる。
- ② 前項の制裁の種類は次のとおりとし、これらの制裁を併科することができる。
 - (1) 譴責（始末書を取り将来を戒める）
 - (2) 一定期間の出場停止（1試合以上6試合以下の公式試合の出場資格の停止）
 - (3) 一定期間の資格停止（12か月以下の公式試合の出場資格の停止）
 - (4) 無期限の資格停止（期限の定めのない公式試合の出場資格の停止）

- ③ アンチ・ドーピング特別委員会は、JクラブまたはJクラブに所属する個人が前条に違反したときは、理事会の承認に基づき、当該Jクラブに対し、金3000万円以下の制裁金を科すことができる。

第6条〔弁明の機会の付与〕

アンチ・ドーピング特別委員会は、制裁の決定に先立ち、制裁の対象となる選手またはJクラブに対し、弁明の機会を付与しなければならない。

〔別表I〕

- | | | |
|-----------------|-----------------------|------------------|
| I. ドーピング物質のカテゴリ | II. ドーピング方法 | III. 一定の使用制限を受ける |
| リ | F. 血液ドーピング | 薬物 |
| A. 興奮剤 | G. 薬理的、化学的および物理的な不正操作 | H. アルコール |
| B. 麻薬性鎮痛薬 | | I. 局所麻酔剤 |
| C. 蛋白同化ホルモン | | J. 副腎皮質ステロイド |
| D. β 遮断薬 | | |
| E. 利尿剤 | | |

各カテゴリーに属するドーピング物質の例は以下のとおり

- | | |
|-----------------------------|--|
| A. 興奮剤 | Mesocarb |
| Amfepramone | Methamphetamine |
| Amineptine | Methoxyphedrine |
| Amiphenazole | Methylephedrine |
| Amphetamine | Methylphenidate |
| Amphetaminil | Morazone |
| Caffeine* | Nikjthamide |
| Cathine | Pemoline |
| Chlorphentermine | Pentetrazole |
| Clobenzorex | Phendimetrazine |
| Clorprenalin | Phenmetrazine |
| Cocaine | Pentermine |
| Cropropamide (“micoren”の成分) | Phenylpropanolamine |
| Crotethamide (“micoren”の成分) | Pipradrol |
| Dimetamfetamine | Prolintane |
| Ephedrine | Propylhxedrine |
| Etafedrine | Pyrovalerone |
| Ethamivan | Strychnine |
| Ethylamphetamine | および関連物質 |
| Fencamfamine | * カフェイン：尿内濃度が12マイクログラム／ミリリットルを越えた場合は、そのサンプルが陽性であると判定される。 |
| Fenethylline | |
| Fenproporex | |
| Furfenorex | |
| Mefenorex | B. 麻薬性鎮痛薬 |

Alphaprodine
 Anileridine
 Buprenorphine
 Dextromoramide
 Dextropropoxyphene(di-antalic)
 Diamorphine(heroin)
 Dihydrocodeine
 Dipipanone
 Ethoheptazine
 Ethylmorphine
 Levorphanol
 Methadone
 Morphine
 Nalbuphine
 Pentazocine
 Pethidine
 Phenazocine
 Trimeperidine
 および関連物質
 C. 蛋白同化ホルモン
 1) 男性ホルモン系蛋白同化ステロイド
 Bolasteron
 Boldenon
 Clostebol
 Dehydrochlormethyltestosterone
 Fluoxymesterone
 2) その他の蛋白同化剤
 a) β 2 刺激剤
 clenbuterol
 Mesterolone
 Metandienone
 Methenolone
 Methyltestosterone
 Nandrolone
 Norethandrolone
 Oxandrolone
 Oxymetholone
 Stanozolol

Testosterone*
 および関連物質
 *テストステロン：この物質を採取したことにより、あるいはそれ以外の方法で用いたことにより、尿内のエピテストロンの合計濃度に対するテストステロンの合計濃度の割合が6を越えた場合は、そのサンプルが陽性であると判定される。
 T/E 率が6～10だった場合は、以下の追加テストをおこなうのが望ましい。
 —それまでにおこなったテスト結果の再調査
 —エンドロクリノジック検査
 —追加サンプルの採取
 D. β 遮断薬
 Acebutolol
 Alprenolol
 Atenolol
 Labetalol
 Metoprolol
 Nadolol
 Oxprenolol
 Propranolol
 Sotalol
 および関連物質
 E. 利尿剤
 Acetazolamide
 Amiloride
 Bendroflumethiazide
 Benzthiazide
 Bumetanide
 Canrenone
 Chlormerodrin
 Chlorthalidone
 Dichlorphenamide
 Ethacrynic acid

Furosemide
Hydrochlorothiazide
Mersalyl

Spirolactone
Triamterene
および関連物質

F. 血液ドーピング

エリスロポエチンの使用と同じく、血液ドーピングは禁止されている。

G. 薬理的、化学的および物理学的な不正操作

次のような方法は禁止されている：

カテーテルの挿入、尿を交換することまたは変質させること、および、プロベネシットまたはその誘導剤を使用することにより、腎臓からの排泄を抑制すること。また、エピテストステロンの使用も禁止されており、1ミリリットル中に150ミリグラムのエピテストステロンが検出された場合は、他の試験を実施しなければならない。

H. アルコール

アルコールは、禁止物質ではないが、息もしくは血液でアルコールレミアの程度の検査をすることができる。

I. 局所麻酔剤：この使用については、以下の制限が設けられている

—procaine, xilocaine, carbocaine, およびそれらに関連した薬物の使用は許されているが、cocaine は許可されていない。

—局所あるいは関節内注射のみとされている。

—局所麻酔剤を使用する場合は、チームドクターが、診断内容、投与量、投与方法などを明記したうえで、使用理由を書式0-1で届け出なければならない。

J. 副腎皮質ステロイド

局所的な使用（耳鼻科、眼科、皮膚科）、吸入（喘息もしくはアレルギー性鼻炎）、および、局所あるいは関節内注射を除き、副腎皮質ステロイドの使用は禁止されている。

関節内注射もしくは局所的な使用で、副腎皮質ステロイドを選手に投与することが必要不可欠だと判断したチームドクターは、診断内容、投与量、投与方法などを明記したうえで、その理由を書式0-1で届け出なければならない。

許可されている物質

β₂ 使用物質

喘息の治療用として、あるいは呼吸用栄養剤として、以下の製品をエアロポルの形で使用することは許可されている。

- Bitolterol
- Orciprenaline
- Rimeterol
- Salbutamol
- Terbutaline

支度金支給基準規程

(単位：万円)

支払対象		独身者	妻帯者 (配偶者のみ)	妻帯者 (同居扶養家族有)
住居費	1DK		2LDK	3LDK
	80		100	150
子供用品等		0	0	50
家具等	電化製品	←————— 100 —————→		
	その他の家具等	←————— 100 —————→		
自動車		←————— 100 —————→		
合計		380	400	500

支度金支給基準

1. 支給時期

- ① 初めてプロ選手として統一契約を締結するとき
 - ② プロ選手として移籍するとき
- ただし、支度金に該当する費用が伴う場合

2. 支払対象を次の通り区分する。

- ① 独身者
- ② 妻帯者（配偶者のみ）
- ③ 妻帯者でかつ同居の扶養家族がいる場合

3. 支度金該当費目

- ① 住居費
- ② 家具等
- ③ 子供用品等
- ④ 自動車

4. その他

交通費、宿泊費および引越し費用は、実費を支給することができる。

[改正]

平成 7 年 2 月 28 日

裁定委員会規程

第1条〔趣旨〕

本規程は、「Jリーグ規約」第143条に基づき、裁定委員会の運営に関する事項について定める。

第2条〔会議および議決〕

- ① 裁定委員会の会議は、委員長が招集する。
- ② 裁定委員会は、委員長および1名以上の委員の出席がなければ、会議を開き、または議決をすることができない。
- ③ 裁定委員会の議事は、出席者の過半数をもって決する。可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第3条〔審理の非公開〕

裁定委員会の審理は、非公開とする。ただし、裁定委員会は、審理の公正が害されるおそれがなく、かつ、相当の理由があると認めるときは、関係者の傍聴を許すことができる。

第4条〔申立手続き〕

- ① 裁定の申立を行う者（以下「申立人」という）は、裁定委員会に対し、次の書類を提出しなければならない。
 - (1) 裁定申立書
 - (2) 申立人の主張を裏付ける書証がある場合は、その原本または写し
 - (3) 代理人により申立を行う場合は、委任状
- ② 前項第1号の裁定申立書には、次の事項を記載しなければならない。
 - (1) 当事者の氏名または名称（法人の場合は代表者も記載する）および住所
 - (2) 代理人に代理させる場合は、代理人の氏名および住所
 - (3) 裁定の申立の趣旨
 - (4) 裁定の申立の理由および立証方法
- ③ 申立の手数料は1件につき金10万円とし、申立と同時に納付しなければならない。

第5条〔申立の受理および通知〕

- ① 裁定委員会は、前条の規定に適合する裁定の申立があったときは、これを受理するとともに、申立の相手方（以下「被申立人」という）に対し、その旨を通知する。
- ② 前項の通知には、裁定申立書1部を添付しなければならない。

第6条〔答 弁〕

- ① 被申立人は、前条の通知が到達した日から30日以内に、裁定委員会に対し、次の書類を提出して答弁することができる。
 - (1) 答弁書
 - (2) 答弁の理由を裏付ける書証がある場合は、その書証の原本または写し
 - (3) 代理人により答弁を行う場合は、委任状
- ② 前項第1号の答弁書には、次の事項を記載しなければならない。
 - (1) 当事者の氏名または名称（法人の場合は代表者も記載する）および住所
 - (2) 代理人に代理させる場合は、代理人の氏名および住所
 - (3) 答弁の趣旨
 - (4) 答弁の理由および立証方法
- ③ 裁定委員会は、前2項の規定に適合する答弁があったときは、これを受理するとともに、申立人に対し、その旨を通知する。
- ④ 前項の通知には、答弁書1部を添付しなければならない。
- ⑤ 裁定委員会は、第1項に定める期間内に被申立人から答弁書が提出されなかった場合には、申立人の主張を認める裁定を行うことができる。

第7条〔提出書類の部数〕

本規程により申立人または被申立人が提出する書類の部数は、委任状を除き3部（原本を提出するときは、その写しを含めて3部）とする。ただし、当事者が3名以上のときは、当事者1名につき1部増加する。

第8条〔申立内容の変更〕

申立人は、被申立人に対し裁定申立の通知が発信された後においては、裁定委員会の承認を得なければ、申立の内容を変更することができない。

第9条〔訳文の添付〕

当事者が裁定委員会に対して提出する書面が外国語で記載されている場合には、日本語の訳文を添付しなければならない。

第10条〔代理人〕

弁護士および裁定委員会が承認した者以外の者は、申立人または被申立人の代理人となることができない。

第11条〔審理または調査のための権限等〕

裁定委員会は、申立の審理のために必要と認めるときは、第三者の証言もしくは鑑定人の鑑定を求め、または資料の提出を命じることができる。

第12条〔費用の負担〕

前条の調査に要する費用は、原則として当事者が負担するものとする。

第13条〔裁定〕

- ① 裁定委員会は、申立の内容につき調査・審理した上、次の事項を記載し、委員長および審理に参加した委員が署名押印した裁定書を作成し、これをチェアマンに提出しなければならない。
 - (1) 当事者の氏名または名称（法人の場合は代表者も記載する）および住所
 - (2) 代理人があるときは、その氏名および住所
 - (3) 主文（裁定委員会の判断の結論）
 - (4) 判断の理由
 - (5) 裁定書の作成年月日
- ② 前項の裁定書には、申立手数料およびその他の費用を負担する当事者およびその割合を記載しなければならない。

第14条〔和解〕

- ① 申立後当事者が和解した場合において、裁定委員会がその和解の内容を相当と認めるときは、その和解の内容を裁定書に記載する。
- ② 前条第1項第1号、第2号および第5号ならびに第2項の規定は、前項の場合に準用する。

第15条〔裁定委員会の運営細則〕

裁定委員会は、裁定委員会の会議その他運営に関する細則を定めることができる。

第16条〔施行〕

本規程は、平成5年4月1日から施行する。

'97 Jリーグ試合実施要項

本実施要項は、1997年のリーグ戦（以下「リーグ戦」という）実施に関し定めるものであり、リーグ戦の試合（以下「試合」という）運営はすべてこの要項に定めるところによる。

第1節 競技場

第1条〔競技場の確保と維持〕

Jクラブは、次条以下に定める要件を具備する競技場を確保し、良好な状態でホームゲームを実施し得るよう、これを維持管理する責任を負う。

第2条〔競技場〕

- ① 競技場は、次の各号の条件を満たすものでなければならない。
 - (1) ピッチは、天然芝であり、原則として縦長105m、横幅68mであること
 - (2) ピッチの外側周囲には、原則としてすべて1.5m以上の芝生部分を確保すること（したがって、縦長108m以上、横幅71m以上の芝生部分を確保すること）
 - (3) ゴールのポストおよびバーは白色かつ丸型（直径12cm）で、埋め込み式その他Jリーグが安全性を認定したものであり、鉄製その他ボールを反発するような補強材を使用しないこと
 - (4) ゴールネットは白色であること
 - (5) コーナーフラッグおよびコーナーフラッグポールは、Jリーグ指定のものであること
 - (6) ラインは幅12cmとし、明瞭に引くこと（原則としてペイント方式とする）
- ② フィールド（ピッチおよびその周辺部分）には、選手のプレーに影響を与え、または危険を及ぼすおそれのある物は一切放置もしくは設置してはならない。
- ③ 競技場の観客席は、15,000人以上収容できるものでなければならない。ただし、芝生席は、観客席とはみなさない。
- ④ 競技場には、平均1,500ルクス以上の照度をもつ照明装置を設置しなければならない。

第3条〔競技場付帯設備および旗の掲揚〕

- ① 競技場は、次の各号の付帯設備を備えるものでなければならない。
 - (1) 本部室

- (2) 更衣室（温水シャワーが使用でき、かつ、ホームチーム、ビジターチームおよび審判員について各々別個に用意されていること）
 - (3) 記録室（ピッチ全体を見渡すことができ、かつ、個室であること）
 - (4) 医務室
 - (5) ドーピングコントロール室
 - (6) 警察・消防控室
 - (7) 記者室
 - (8) カメラマン室
 - (9) 来賓席
 - (10) 記者席（ピッチ全体を見渡すことができ、屋根付きで、かつ、手元照明付きの机を備えていること）
 - (11) 場内放送設備
 - (12) 放送中継用ブース
 - (13) スコアボード（原則として電光掲示盤であること）
 - (14) メンバー掲示板（スコアボードでの兼用可）
 - (15) リーグ旗およびクラブ旗の掲揚ポール
 - (16) 入場券売場
 - (17) 飲食物およびサッカー関連グッズ等の販売所
- ② ホームクラブは、リーグ旗、クラブ旗およびチャンピオンフラッグ（ホームクラブが前年のチャンピオンチームである場合に限る）を次の各号のとおり掲揚しなければならない。
- (1) リーグ旗：中央
 - (2) ホームクラブ旗：ピッチから向かって左
 - (3) ビジタークラブ旗：ピッチから向かって右
 - (4) チャンピオンフラッグ：前年のチャンピオンチームのクラブ旗の下（ホームゲームのみ掲揚）
- ③ リーグ旗およびクラブ旗の大きさは天地 180 cm、左右 270 cmとする。

第4条〔照明装置〕

Jクラブは、競技場の照明装置の故障を未然に防止し、かつ、故障箇所をすみやかに修理するための措置を講じるよう努めなければならない。

第5条〔ベンチ〕

- ① ベンチは、原則として次の各号の要件を満たすものでなければならない。
 - (1) ピッチのタッチラインから5メートル以上離れ、かつ、その一端がハーフウェーラインから10メートル以内に懸かる位置に設置すること
 - (2) 屋根を備えていること（ただし、観客等の視野を妨げるものであってはならない）
- ② ベンチの前面（ピッチ側）には、テクニカルエリアを設置する。
- ③ ホームチームのベンチは、原則としてピッチから向かって右側に設置する。

第6条〔医事運営〕

- ① ホームクラブは、次の各号のとおり医事運営を行わなければならない。
 - (1) 医務室には、協会のスポーツ医学委員会が定めた救急用機器および医薬品（別紙1）を備えること
 - (2) 試合の開催時には、競技場の観客等の事故に対処するため、医師および看護婦各1名以上を開門時から閉門時まで待機させること
 - (3) 試合の開催に先立ち、競技場で生じる重度の外傷および疾病に対処するため、あらかじめ救急移送病院を確保しておくこと
 - (4) 競技場内医事運営担当の医師に、試合の開催時に競技場で生じた外傷および疾病のすべてを記載した所定の「会場内医事報告書」を作成させ、その「正」をJリーグ事務局へ可及的すみやかに提出すること
- ② 前項第2号の医師および看護婦の手当て等は、以下の金額を標準とする。

手当て：医師	10,000円（時給）
看護婦	10,000円（日給）

交通費・宿泊費：Jリーグの「旅費規程」による

第7条〔ビジタークラブのための観客席の確保〕

ホームクラブは、ビジタークラブを応援する観客のために、適正な数の席を確保しなければならない。

第8条〔広告看板の設置〕

- ① 競技場には、Jリーグが指定した位置に大会タイトル看板を掲出できるスペースを別表1のとおり確保しなければならない。
 - (1) サイズ：900mm×13,500mm
 - (2) 枚数：1枚
- ② 競技場には、Jリーグが指定した位置にオフィシャルスポンサーが次の各号の条件を満たす広告看板または横断幕を掲出できるスペースを別表1のとおり確保しなければならない。
 - (1) サイズ：900mm×6,750mm
 - (2) 枚数：18枚
 - (3) 色：4色
- ③ 競技場にはJリーグが指定した位置にフェアプレイキャンペーン用パネルを掲出できるスペースを確保しなければならない。
 - (1) サイズ：500mm×500mm
 - (2) 枚数：2枚
 - (3) 位置：ベンチ横、ハーフウェーライン側
- ④ 競技場にはJリーグが指定した位置にフェアプレイキャンペーン用の横断幕を掲出できるスペースを確保しなければならない。
 - (1) サイズ：900mm×7,200mm

- (2) 枚数：1枚
- ⑤ チームスポンサーの広告看板または横断幕を掲出する場合は、次の各号の条件を満たさなければならない。
 - (1) サイズ：900 mm×4,500 mm
 - (2) 色：4色
- ⑥ 第2項・第4項および第5項の広告看板等の設置位置は、次の各号のとおりとする。ただし、観客等の視野を妨げるものであってはならない。
 - (1) タッチライン側：タッチラインから5メートル以上離れていること
 - (2) ゴールライン側：ゴールラインから5メートル以上離れたカメラマン用のラインに沿っていること
- ⑦ チームスポンサー等の広告看板または横断幕を掲出する場合は、原則として掲出日の7日前までに所定の「広告掲出申請書」(別紙2)によりJリーグに届け出なければならない。

第9条〔競技場における告知等〕

- ① ホームクラブは、競技場において、次の各号の事項を告知しなければならない。
 - (1) 選手、審判員およびマッチコミッサー
 - (2) 選手および審判員の交代
 - (3) 得点者および得点時間(得点直後に)
 - (4) 他の試合の途中経過および結果(得点者および得点時間を含む)
 - (5) 入場者実数
 - (6) 前各号のほか、Jリーグの指定する事項
- ② ホームクラブは、試合の前後およびハーフタイムに、次の各号の事項を行うことができる。
 - (1) 次の試合の予定の告知
 - (2) 事前にJリーグに届け出て承認を得た広告宣伝
 - (3) 音楽放送
 - (4) チームまたは選手に関する情報の告知
 - (5) 前各号のほか、Jリーグの承認を得た事項

第10条〔公式試合開催指定競技場の指定〕

- ① Jリーグは競技場(付帯設備を含む)を検査し、「公式試合開催指定競技場」を定める。
- ② 前項の検査に関する事項は、別途定める「競技場検査要項」の定めるところによる。

第11条〔競技場の視察〕

- ① Jリーグは、試合開催の可否を確認するため競技場を視察することができ、その結果、試合開催が困難であると判断したときは、その旨を遅滞なくチェアマンに報告しなければならない。
- ② チェアマンは、前項の報告を受けたときは、その競技場での試合の実施を中止する

決定を下すことができる。

- ③ 前項の中止の決定およびその通知は、試合開催日の2か月前までにホームクラブに対して行わなければならない。

第12条〔悪天候の場合のピッチ整備の義務〕

ホームクラブは、降雪または降雨等、悪天候の場合であっても、可能な限りピッチを整備し、その競技場での試合を実施することができるよう最善の努力をしなければならない。

第2節 試 合

第13条〔大会形式〕

リーグ戦は、2ステージ制とし、各ステージとも総当たりにより行う。

第14条〔試合の主催等〕

- ① 試合は、すべて協会およびJリーグが主催し、Jリーグが主管する。
- ② Jリーグは、試合のホームゲームの主管をホームクラブに委譲する。

第15条〔主管権の譲渡〕

ホームクラブは、Jリーグの事前の承認を得て、その主管するホームゲームの主管権を、協会に所属する地域サッカー協会および都道府県サッカー協会に対し譲渡することができる。ただし、この場合においても、ホームクラブは、Jリーグ規約上の義務を免れるものではない。

第16条〔競技規則〕

試合は、すべて国際サッカー連盟（FIFA）および協会の競技規則に従って実施される。

第17条〔届出義務〕

- ① すべてのクラブは、1997年1月31日までに次の各号の事項を所定の用紙（別紙3～4）によりJリーグに届け出なければならない。
 - (1) 選手
 - (2) 実行委員、運営委員および広報委員等
 - (3) 監督、コーチ、チームドクター、マッサージ等（以下「チームスタッフ」という）
- ② 前項により届け出た事項に追加、抹消等の変更があった場合にも前項の用紙によりすみやかに届け出なければならない。

第18条〔出場資格〕

- ① 協会への選手登録（以下「登録」という）を完了した選手のみが、試合における出場資格をもつ。
- ② Jクラブの2種チームに所属し、事前に業務運営委員会の承認を受けた選手（各クラブ5名以内）には、リーグ戦への出場資格が与えられる。
- ③ 選手は、試合出場に際し、協会の発行する選手証（以下「選手証」という）を携帯しなければならない。

第19条〔出場資格を得るための追加登録期限〕

1stステージについては1997年5月23日までに、2ndステージについては1997年9月5日までに登録を完了した選手のみが当該ステージへの出場資格をもつ。

第20条〔出場可能日〕

前2条により登録を完了した選手は、登録完了日の翌日から試合に出場することができる。

第21条〔メディカルチェック〕

- ① すべてのクラブは、1997年2月28日までに、選手に関する「Jリーグメディカルチェック報告書」をJリーグに提出しなければならない。ただし、追加登録する選手については、登録のつど提出するものとする。
- ② スポーツ医学委員会は、「Jリーグメディカルチェック報告書」において異常所見を示した選手に対する医学的処置について勧告を行うことができる。

第22条〔試合エントリー選手の人数〕

各試合への出場登録（以下「試合エントリー」という）をすることができる選手の人数は、1チーム16名以内とする。

第23条〔外国籍選手〕

試合エントリーすることができる外国籍選手は、1チーム3名以内とする。

第24条〔ユニフォーム〕

リーグ戦において使用するユニフォームは別途定める「ユニフォーム要項」による。

第25条〔フィールド内のチーム要員〕

- ① フィールド上に用意されたベンチには、「メンバー提出用紙」（別紙5）に記載されたチームスタッフ6名ならび交代選手5名の合計11名が着席できる。ただし、ベンチでの喫煙は、禁止する。
- ② クラブは、協会、Jリーグの決定により、ベンチ入りを停止された者、出場停止処分を受けた者、または試合中に主審により退場もしくは退席を命じられた者をベンチ入りさせてはならない。
- ③ 主審が選手の負傷等により試合を中断し、チームスタッフの立ち入りを認める旨の

合図をした場合には、チームスタッフ1名に限りピッチ内に立ち入ることができる。ただし、このスタッフは可及的すみやかに負傷の程度を判断したうえピッチ外に退去しなければならない。

- ④ 延長戦に入る前の休憩時間にピッチ内に立ち入ることができる者は、第1項のチームスタッフのみとする。
- ⑤ 前各項に違反する行為は、主審により排除されるものとし、試合終了後に主審から報告を受けた規律委員会により処分を決定される。

第26条〔試合の勝敗の決定〕

試合は、次の各号に従い勝敗を決定する。

- (1) 90分間で勝敗が決しない場合には、5分間の休憩ののち、30分間（前後半各15分間）を限度として延長戦を行う。
- (2) 前号の延長戦においては、前後半にかかわらず、先に得点をしたチームを勝者とし、当該得点の時点でただちに試合終了とする。
- (3) 第1号の延長戦で勝敗が決しない場合は、PK方式（各チーム5人ずつ、決着がつかない場合は6人目以降は1人ずつで、勝敗が決するまで）にて勝者を決定する。

第27条〔各ステージの順位決定〕

- ① 各ステージが終了した時点で、勝点（90分間での勝利3点、延長戦による勝利2点、PK方式による勝利1点、敗戦0点）の多いチームを上位とし、順位を決定する。ただし、勝点が同一の場合は、次の各号の順序により順位を決定する。
 - (1) 得失点差
 - (2) 総得点数
 - (3) 当該チーム間の対戦成績
 - (4) 順位決定戦
- ② 前項第4号の順位決定戦は、実行委員会が必要と判断した場合にのみ実施され、その他の場合は、代表者による抽選によって順位が決定される。

第28条〔1997年総合順位の決定〕

- ① 各ステージの優勝チームが異なる場合、年間優勝チームの決定戦（以下「チャンピオンシップ」という）を行い、総合順位の1位、2位を決定する。3位以下は、各ステージにおける勝点の合計によって決定する。ただし、勝点が同一の場合は、次の各号の順序により決定する。
 - (1) リーグ戦全試合の得失点差
 - (2) リーグ戦全試合の総得点数
 - (3) 当該チーム間の対戦成績（イ. 勝点 ロ. 得失点差 ハ. 総得点数）
 - (4) 順位決定戦
- ② 前項第4号の順位決定戦は、実行委員会が翌シーズンの開幕試合の開催権の決定等に必要と判断した場合のみ実施され、その他の場合は、当該チームの代表者による抽選によって順位を決定する。

- ③ 各ステージの優勝チームが同一の場合は、当該チームを優勝とし、2位以下は第1項の3位以下の決定方法と同様とする。

第29条〔審判員〕

- ① 主審、副審および予備審判員については、Jリーグが協会の審判委員会に対し、協会登録の1級審判員（ただし、予備審判員は2級以上）の派遣を依頼する。
- ② 審判員は、キックオフ時刻の90分前までに競技場に到着しなければならない。
- ③ 主審または副審のいずれかにその職務の続行が不可能となる事態が生じた場合、予備審判員は、マッチコミッサーの承認のもとに原則として第2副審を務める。
- ④ 審判員の手当等以下のとおりとする。
- 手当：主審 50,000円 副審 30,000円 予備審判員 10,000円
交通費・宿泊費：Jリーグの「旅費規程」による
- ⑤ 緊急時の審判員の手当等以下のとおりとする。
- (1) 試合開始前に疾病・負傷その他の理由により交代した場合：支払いなし
- (2) 試合途中の負傷等により交代した場合および試合が中止になった場合：
手当：主審 30,000円 副審 20,000円 予備審判員 7,000円
交通費・宿泊費：リーグの「旅費規程」による（移動がともなった場合にのみ支払い）
- (3) 交代によりあらたに職務についた審判員の手当等前項に準ずる

第30条〔通行証〕

Jリーグは、次の各号の通行証を発行し通行証を所有する者の通行可能エリアを指定する。

- (1) OFFICIAL（紫）：オールエリア通行可
- (2) TEAM（紫）：オールエリア通行可
- (3) TEAM（赤）：本部室、フィールド、更衣室、練習場、その他運営ゾーン
- (4) SUPPLIER（青）：本部室、その他運営ゾーン
- (5) PRESS（緑）：記者室、記者席、カメラマン室、観客ゾーン
- (6) TV STAFF・RADIO STAFF（茶および黄）：フィールド（ピッチを除く）、観客ゾーン、その他運営ゾーン
- (7) カメラマンゼッケン（オフィシャル・紫、PRESS・黄、TV-PRESS・赤、報道連絡員・黒、テレビ中継・白、スカウティング・青）：フィールド（ピッチを除く）、記者室、記者席、カメラマン室

第31条〔入場料〕

- ① 入場料金はホームクラブが設定し、料金の体系をJリーグの指定日までに「入場券報告書」（別紙6）により報告する。
- ② 大人の有料入場者が同伴する小学生未満の幼児の入場料金は、無料とする。ただし有料入場者1名につき1名に限る。
- ③ 入場券の販売は、売り切れにならない限りその試合の後半15分経過時まで行う。

第32条〔試合球〕

ホームクラブは、キックオフ時刻の120分前までにJリーグの指定する試合球を7個用意し、試合をマルチボールシステムにて行う。

第33条〔Jクラブの責任〕

- ① ホームクラブは、選手、審判員、役員および観客等の安全を確保する責任を負う。
- ② ホームクラブは、観客が試合の前後および試合中において秩序ある適切な態度を保持するよう努める義務を負い、ビジタークラブはこれに協力しなければならない。

第3節 運 営

第34条〔日 程〕

リーグ戦は、Jリーグにより決定された日程に従い開催される。

第35条〔試合の日時または場所の変更〕

- ① 試合の開催日、キックオフ時刻または開催地の変更は、次の手続きに従い決定する。
 - (1) ホームクラブがJリーグに対し、変更しようとする開催日の30日前までに「試合開催に関する変更申請書」(別紙7)により申請する
 - (2) 業務運営委員会は、申請を受けた変更理由を審議のうえ、変更される開催日の20日前までに変更の可否をホームクラブおよびビジタークラブの双方に通知する
- ② 前項の手続きが行われない場合、ビジタークラブは当該変更を拒否することができる。
- ③ やむを得ない特別の事情がある場合において、ホームクラブの申請に基づきチェアマンが承認したときは、前2項の規定にかかわらず、開催日時または場所を変更することができる。

第36条〔特別の事情による変更〕

Jクラブは、協会またはJリーグにおいて特別の事情がある場合には、日程等の変更に応じなければならない。

第37条〔運営責任〕

- ① 試合の運営にあたっては、ホームクラブの実行委員が一切の責任を負う。
- ② ホームクラブの実行委員は、キックオフ時刻の120分前までに競技場に到着しなければならない。
- ③ ホームクラブの代表取締役社長が実行委員を兼務している場合においては、予めチェアマンに届け出て承認を得た者に、本実施要項に定める実行委員の職務を代行させることができる。

第 38 条〔抱き合わせ開催の禁止〕

試合は、Ｊリーグまたは協会以外の第三者が主催するサッカーその他の試合（前座試合等）またはイベント等と抱き合わせで開催してはならない。

第 39 条〔マッチコミッサリー〕

- ① マッチコミッサリーは、実行委員会が推薦し、理事会が承認した後、チェアマンが任命し、各試合に派遣される。
- ② マッチコミッサリーは、次の事項を遵守しなければならない。
 - (1) キックオフ時刻の 120 分前までに競技場に到着すること
 - (2) キックオフ時刻の 70 分前に双方のチームの監督、実行委員、運営委員、および審判員を集め、留意事項等を確認すること。ただし、ビジタークラブの実行委員および運営委員については、代理出席を認める
 - (3) 延長戦終了後に行う PK において、主審がピッチおよびゴールの状況、選手の安全確保等に問題があると判断した結果、ビジターチーム側のゴールを使用する場合には、その理由を主審に確認すること
 - (4) 試合終了後 24 時間以内にＪリーグ宛に「マッチコミッサリー報告書」（別紙 8）を発信すること
 - (5) 試合の中断または競技中の悪質な違反による退場等の重大な事項が発生した場合に、所定の手続きにより「緊急報告書」（別紙 9）をすみやかにチェアマンに提出すること
 - (6) 裁定委員会または規律委員会より出席を求められた場合に、これに出席し報告すること
 - (7) 前各号のほか、別途チェアマンの定める事項を行うこと
- ③ ホームクラブは、フィールドおよび観客席の全体が見渡すことができる場所にマッチコミッサリー席を設置しなければならない。
- ④ マッチコミッサリーの手当て等は以下のとおりとする。

手当て：50,000 円
交通費・宿泊費：Ｊリーグの「旅費規程」による
- ⑤ 試合が中止された場合の手当て等は以下のとおりとする。

手当て：30,000 円
交通費・宿泊費：リーグの「旅費規程」による（移動がともなった場合にのみ支払い）

第 40 条〔試合の中止および中断の決定〕

- ① 試合の中止は、主審が、マッチコミッサリーおよびホームクラブの実行委員と協議のうえ決定する。ただし、主審が到着する前にやむを得ない事情により試合を中止する場合は、マッチコミッサリーおよびホームクラブの実行委員が協議のうえ決定する。
- ② 主審が試合の中断を決定した場合、ホームクラブは試合を再開することができるよう最善の努力をしなければならない。

第 41 条〔競技場への到着〕

双方のチームはバスを使用し、原則としてキックオフ時刻の 70 分前までに競技場に到着しなければならない。

第 42 条〔キックオフ時刻の厳守〕

- ① いずれのチームも、あらかじめ定められたキックオフ時刻を厳守しなければならない。
- ② 不可抗力またはテレビもしくはラジオの同時中継放送の都合によりキックオフ時刻を遅らせる場合は、主審およびマッチコミッサーの事前の承認を得なければならない。ただし、テレビもしくはラジオの放送の都合による遅延は、5 分以内に限る。
- ③ いずれか一方のチームがキックオフ時刻に競技場に現れない場合、相手チームは 45 分間、待機する義務を負う。
- ④ 後半のキックオフ時刻は、5 分以上に及ぶ試合中断等がない限り前半のキックオフ指定時刻の 60 分後とする。

第 43 条〔敗戦とみなされる場合〕

試合が一方のチームの責に帰すべき事由により開催不能または中止となった場合には、その過失あるチームは、0 対 3 で敗戦したものとみなされる。

第 44 条〔前条の場合の記録〕

前条に基づき中止となった試合の得点の得点者は、記録されない。

第 45 条〔メンバー提出〕

- ① 双方のチームは、キックオフ時刻の 150 分前までに「メンバー提出用紙」に必要事項を記入し、全選手の選手証とともにホームクラブの運営委員に提出し、試合エントリーを完了しなければならない。
- ② 試合エントリー完了後からキックオフ時刻までの間における選手の変更は、練習中の負傷または急病等やむを得ない事情があり、かつ、主審およびマッチコミッサーの承諾を得た場合に限り認められる。

第 46 条〔主審の確認事項〕

- ① 主審は、選手証により、選手のその試合における出場資格を確認しなければならない。
- ② 主審は、メンバー提出用紙の記載事項を確認し、もしこれに不備があれば、そのチームに差し戻し、修正させなければならない。

第 47 条〔選手の交代〕

試合中の選手の交代は、次の各号のとおりとする。

- (1) 選手の交代は、3 名以内とする。

- (2) 交代は、退出する選手の選手番号を交代ボードで提示したうえ、行わなければならない。

第 48 条〔不可抗力による開催不能または中止〕

試合が不可抗力により開催不能または中止となった場合、その勝敗の決定方法は、実行委員会において協議のうえ決定する。

第 49 条〔試合続行不可能となった場合の入場料金の払い戻し〕

試合の前半が終了した後に、試合続行不可能となった場合、原則として入場料金の払い戻しは行わない。

第 50 条〔係員〕

- ① ホームクラブは、試合実施を円滑に進行するため、次の各号の補助係員をおき、必要な業務を行わせる。
- (1) 場内整備員
 - (2) 場内放送要員
 - (3) ボールボーイ
 - (4) 担架要員（8名、担架を2台用意しておくこと）
- ② ホームクラブは、マッチコミッサーが円滑に業務を行うため、補助係員をおかななければならない。

第 51 条〔マスコミ対応〕

- ① 報道関係者の取材（インタビューを含む）は、原則として練習開始から試合終了時までは行わない。ただし、それぞれのクラブの広報委員を通じての取材は行うことができる。
- ② 試合におけるホームクラブのマスコミ対応は次のとおりとする。
- (1) カメラ（スチールおよびテレビ）による撮影およびペン記者の取材場所を指定する
 - (2) 「試合メンバー表」（別紙 10）の配布は、キックオフ時刻の 80 分前に行う
 - (3) ハーフタイム時には双方の監督のコメント等を配布する
 - (4) 試合終了後の監督および選手の記者会見場所を設ける
 - (5) 記者およびカメラマン室を設ける

第 52 条〔公式記録〕

- ① 記録員は、所定の公式記録用紙（別紙 11）により、試合記録を作成し、試合終了後、内容確認のためマッチコミッサー、主審およびホームクラブの運営委員の署名を受けたのち、すみやかに報道関係者等に配布する。
- ② ホームクラブの運営委員は、公式記録の原紙をすみやかに Jリーグに提出しなければならない。（観客数は入場者実数を記入）

第 53 条〔試合運営報告〕

ホームクラブの実行委員は、試合の実施または運営に関し問題が生じた場合、試合終了後すみやかに「試合運営報告書」(別紙 12) に必要事項を記載し、Jリーグに提出しなければならない。

第 54 条〔退場処分〕

退場処分(同一試合における 2 回の警告による退場を除く)を受けた選手は、規律委員会の決定があるまで出場を停止される。また、退席処分を受けたチームスタッフについても同様とする。

第 55 条〔警告による出場停止処分〕

累積された警告による出場停止処分は、規律委員会が定めるところによる。

第 4 節 試合の収支

第 56 条〔試合の費用負担等〕

ホームクラブは、ホームゲームからの収入を受領し、その試合の開催に要する次の費用を負担する。

- (1) 運営人件費
- (2) 競技場使用料(付帯設備使用料を含む)
- (3) 入場券販売手数料
- (4) 入場券・招待券の印刷費
- (5) 広告宣伝費
- (6) その他運営に係わる費用

第 57 条〔不可抗力による試合中止等の場合の費用の負担〕

すでに何らかの経費の発生している試合が、不可抗力により開催不能または中止となった場合には、ホームクラブにおいて発生した前条第 1 号ないし第 4 号の費用ならびに双方のクラブにおいて発生した交通費・宿泊費は Jリーグが負担する。

第 58 条〔帰責事由あるクラブの費用の補償〕

- ① ホームクラブの責に帰すべき事由により試合が開催不能または中止となった場合、ホームクラブはビジタークラブに発生した交通費および宿泊費を補償しなければならない。
- ② ビジタークラブの責に帰すべき事由により試合が開催不能または中止となった場合、ビジタークラブはホームクラブに発生した第 56 条第 1 号ないし第 4 号の費用ならびに交通費および宿泊費を補償しなければならない。

第 59 条〔テレビ放送権〕

- ① 試合のテレビ放送権は Jリーグに帰属する。
- ② 試合のテレビ放送権料は、別途 Jリーグが定めるところによる。
- ③ 前項の放送権料は、別途定める基準により全クラブにそれぞれ配分するものとする。

第 60 条〔収支報告〕

すべてのクラブは、リーグ戦終了後 21 日以内に、収支報告として、主管した試合の「試合収支決算書」(別紙 13) の写しを Jリーグに提出しなければならない。

第 61 条〔納付金〕

ホームクラブは、主管した試合の入場料収入のうちの 5%相当額を協会に納付しなければならない。

第 62 条〔納付期限〕

すべてのクラブは、リーグ戦終了後 21 日以内に、所定の納付金を納めなければならない。

第 63 条〔遠征費用〕

- ① チームの遠征に要する交通費および宿泊費は、「旅費規程」第 2 条の定めるところによる。
- ② ホームクラブの都合によりホームタウン以外の競技場で試合を実施したことにより発生したビジタークラブの交通費および宿泊費の増額分は、ホームクラブが負担する。

ユニフォーム要項

第1条〔趣旨〕

本要項は、「Jリーグ規約」第49条第4項の規定に基づき、リーグ戦およびJリーグが指定した試合（以下総称して「試合」という）におけるユニフォームに関する事項について定める。

第2条〔使用義務〕

Jクラブは、試合において、その所属チームの選手に、業務運営委員会が承認したユニフォームを使用させなければならない。

第3条〔選手番号〕

- ① ユニフォームには、選手番号が明確に表示されていなければならない。
- ② 選手番号は事前にJリーグに登録し、シーズン途中の変更は認めない。
- ③ 前項の選手番号は、服地と明確に判別することができる色のものとし、そのサイズは、次のとおりとする。
 - (1) シャツ 前面の左側もしくは中央に高さ10cm、背中は高さ25cm
 - (2) ショーツ 前面の右下に高さ8cm
- ③ 選手番号は、1をゴールキーパー、2～11をフィールドプレイヤー、12以降はポジションとは無関係とする。ただし、シーズン途中の移籍等による場合を除いては、欠番を認めない。

第4条〔Jリーグマークおよびチャンピオンマーク等〕

- ① ユニフォームのシャツの右袖上腕部には、ワールドカップ開催準備委員会所定のロゴマーク（上側）およびJリーグ所定のJリーグマーク（下側）をつけなければならない。
- ② 前年度天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チームおよび前年のJリーグ優勝チームは、前項のJリーグマークに代えて、それぞれ協会所定の「天皇杯チャンピオンマーク」および「Jリーグチャンピオンマーク」をつけなければならない。

第5条〔チームエンブレム〕

ユニフォームには、チームエンブレムをつけることができる。

第6条〔メーカー名の表示〕

ユニフォームのメーカー名の表示は、次の場所およびサイズとする。

- (1) シャツ 胸、1か所、20cm以下
- (2) ショーツ 前面の左下、1か所、12cm以下

- (3) ストッキング 各1か所、12 cm²以下

第7条〔広告の表示〕

- ① ユニフォームに第三者のための広告を表示する場合には、スポンサーの名称および商品名等を、事前に所定の「広告掲出申請書」(別紙2)によりJリーグに届け出なければならない。
- ② 前項に基づく広告は、シャツに3か所(ただし、1か所につき1社に限る)表示することができる。
- ③ 前項の広告を表示する場所およびサイズは、次のとおりとする。
 - (1) 前 面 選手番号上部、300 cm²以下
 - (2) 背 中 選手番号上部または下部、200 cm²以下
 - (3) 左 袖 50 cm²を超えないサイズ
- ④ ユニフォームに、協会またはJリーグが指定するキャンペーンマークその他広告以外のものを表示する場合にも、原則として前項のサイズによるものとする。

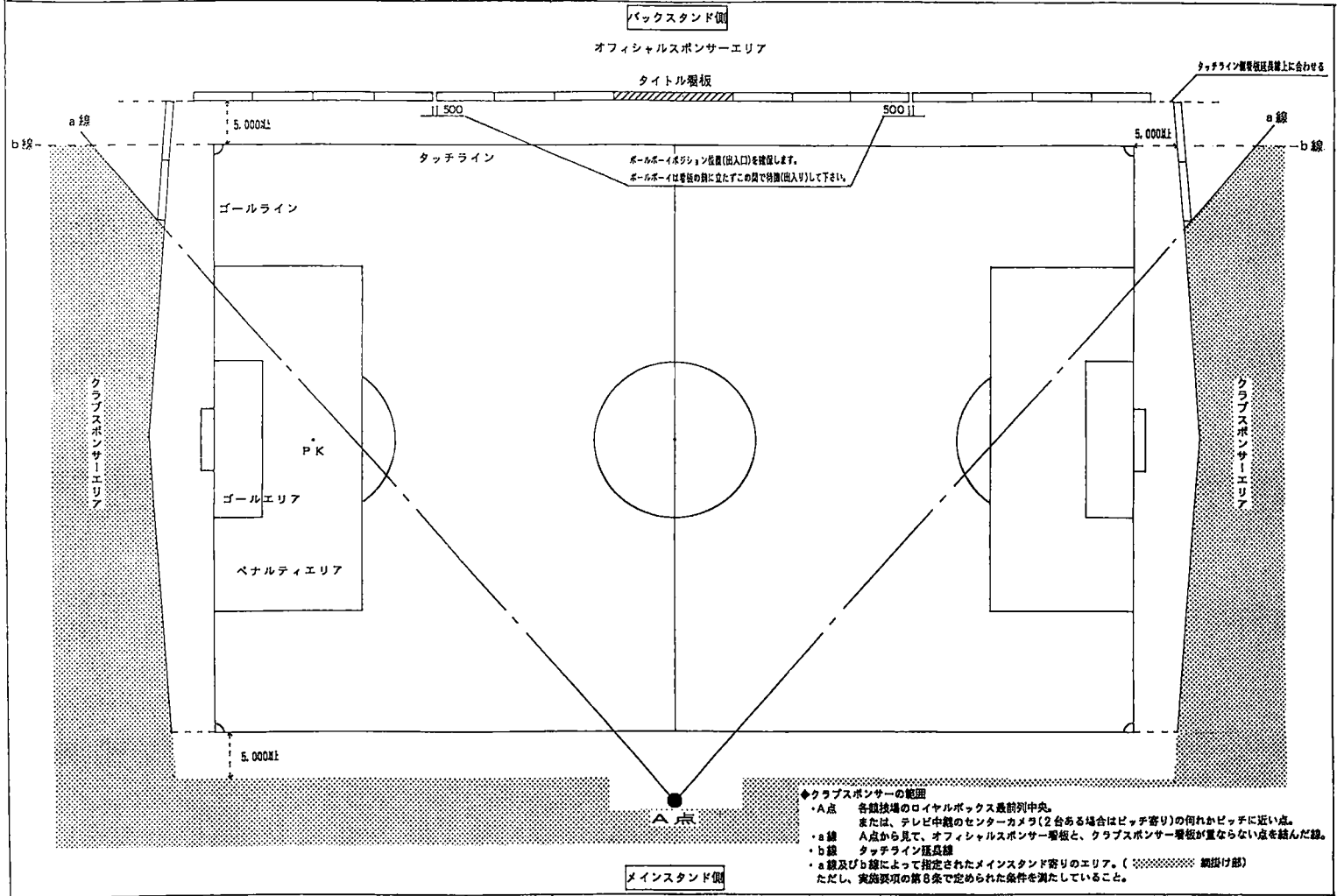
第8条〔選手名の表示〕

- ① シャツには、選手名または通称を表示することができる。
- ② 前項の表示をする場所およびサイズ等は、次のとおりとする。
 - (1) 場 所 シャツ背中の選手番号上部、但し、当該箇所に広告を表示している場合は、シャツ背中の選手番号下部
 - (2) サイズ 150 cm²以下、1文字の高さは5 cm
 - (3) 文 字 アルファベットにより表記し、直線的に表示
- ③ 選手名の表示を選手名または通称以外にて行うことを希望する場合は、事前に業務運営委員会に申請し、承認を得なければならない。

’97Jリーグ関連スポンサー広告看板設置基本型

〔別表1〕

Jリーグ関連スポンサー広告看板設置位置



105M×68M S=1:40

別紙 I

救急用機器・医薬品

カテゴリー	品名	数量
器材類	アンビューセット	1箱
	濃縮酸素	2本
	血圧計	1本
	聴診器	1本
	体温計	1本
	ペンライト	1本
	ギプスシーネ (4ｲﾝﾁ×15ｲﾝﾁ)	2本
	アロフェンスシーネ (指用)	2本
	ユリアバック	3本
	アイスカップ	1本
	手袋 (未消毒)	少々
	ハサミ (13.5cm)	2本
	ピンセット	2本
	毛抜き	2本
爪切り	2本	
ガーゼ・包帯類	眼帯	2個
	アミホータイ	2本
	伸縮ホータイ	2本
	指キャップ	2本
	三角巾	2枚
	メディカルテープ	2本
	サージカルテープ	2本
	ヘルパッド	2本
	エラスコット (5cm,7.5cm,20cm)	各2本
	ケーパインガーゼ (中)	10袋
	救急絆	1箱
薬品類	ポントール (250mg)	100錠
	バファリン	36錠
	三共胃腸薬	100錠
	テオドール (50mg)	100錠
	パイロンA (PL)	30p
	ブスコパン (10mg)	100錠
	中外下痢止め	1箱 (小)
	センバア (塩酸メクリジン) 【めまい用】	20~30錠
	リスロンS (ブロムワレル尿酸) 【鎮静剤】	20錠
	明治Sトローチ (塩化セチルリジウム、キョウエス)	20錠
	ターゼン	100錠
	プリンペラン錠	100錠
消毒薬・外用薬など	消毒用ヒピテン (5%)	1瓶
	マキロン	1瓶
	三共目薬	1本
	ソフラチュール	10枚
	パテックスA	10袋

別紙 2

(1 ページ目)

リーグ使用欄		
事務局長	所属長	担当

広告掲出申請書

㈱日本プロサッカーリーグ
 チェアマン 川淵 三郎 殿

下記のとおり競技場内（観客席を除く）へチームスポンサー等の広告を掲出することを申請いたします。

大会名	①リーグ戦(1st, 2nd)②リーグカップ戦 ③Jチャレンジリーグ戦 ④その他()		
掲出媒体	①看板 ②横断幕 ③ユニフォーム ④その他()		
件数	件		
広告社名	業種		
内容（※サイズ、デザインロゴ、色彩等を記入、複数ある場合2ページ目以降に記入）			

19 年 月 日

クラブ名：

実行委員：

印

※サイズ、デザインロゴ、色彩等資料に関する資料があれば、添付すること

(2 ページ目以降)

チーム名：

	広告社名		業種	
内 容 (※サイズ、デザインロゴ、色彩等)				

	広告社名		業種	
内 容 (※サイズ、デザインロゴ、色彩等)				

	広告社名		業種	
内 容 (※サイズ、デザインロゴ、色彩等)				

	広告社名		業種	
内 容 (※サイズ、デザインロゴ、色彩等)				

別紙 3

第1種 : 第2種(トップ出場可) : 第2種(トップ出場不可) : 外国籍選手 : 外国籍扱いしない

(社) 日本プロサッカーリーグ

選手データ票

チーム名													
選手氏名	選手氏名 (正式名)												
	フリガナ												
	英文表記												
通称	選手通称											・外国籍選手の場合のみ記入（日本人選手は、正式名と同） ・試合メンバー提出用紙に書き込む名称 ・新聞等の報道発表の際に使用する名称	
	英文表記												
ポジション	<input type="checkbox"/> GK <input type="checkbox"/> DF <input type="checkbox"/> MF <input type="checkbox"/> FW	身長・体重		cm		kg	背番号						
生年月日	19	年		月		日	血液型	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> O <input type="checkbox"/> AB					
出身校											・外国籍選手を除く		
出生地													
現国籍											・外国籍選手の場合のみ記入		
登録区分 ^(*)	<input type="checkbox"/> アマチュア アマチュア以外 (<input type="checkbox"/> NAP <input type="checkbox"/> NA)												
前登録	チーム名/国名												
	英文字												
	所属期間	19	年		月		日	~	19	年			
前々登録	チーム名/国名												
	英文字												
	所属期間	19	年		月		日	~	19	年			
備考													
届出目的	<input type="checkbox"/> 新規追加 <input type="checkbox"/> データ変更 <input type="checkbox"/> データ抹消 <input type="checkbox"/> 年次確認												
届出日	19	年		月		日							

^(*)登録区分：NAP=JFA統一契約締結選手、NA=統一契約を結んでいない選手

上記のとおり申請いたします。

実行委員名：

印

別紙 4

(社) 日本プロサッカーリーグ

役員・チームスタッフ データ票

チーム名					届け出日	199	年	月	日
役職コード	役職名								
役員氏名(正式名)									
(正式名/別称)									
(正式名/英文)									
通称	役員通称				・外国籍役員の場合のみ記入 ・試合メンバー提出用紙に書き込む名称 ・報道発表の際に使用する名称				
	英文表記								
生年月日	19	年	月	日	・↓国籍は、外国籍役員の場合のみ記入				
国籍					役員コード				
届け出の目的	<input type="checkbox"/> 新規追加		<input type="checkbox"/> データ変更		<input type="checkbox"/> データ抹消		<input type="checkbox"/> 年次確認		
登録区分(*)	<input type="checkbox"/> トップのみ		<input type="checkbox"/> サテライトのみ		<input type="checkbox"/> トップ・サテライト共				

(*)登録区分は、Jリーグへの登録の時には、必ず指定して下さい。(JFLへの登録の場合は、指定しないで下さい。)

【役職コード一覧】

役職コード	役職名	役職名(英文)	備 考
20	総監督	General Manager	
23	監督	Manager	
24	監督代行	Acting Manager	※JFLのみ。Jリーグでは指定できません。
26	ヘッドコーチ	Head Coach	
29	コーチ	Coach	
32	GKコーチ	Goal Keeper Coach	
35	フィジカルコーチ	Physical Coach	
38	ドクター	Doctor	
41	マッサージ	Masseur	
44	フィジセラピスト	Physiotherapist	
47	通訳	Interpreter	
50	主務	Secretary	※トップ、サテライトで各1名以内。
53	副務	Assistant Secretary	※トップ、サテライトで各1名以内。
56	用具係	Kit Man	
60	評議員	Councilor	※JFLのみ。Jリーグでは指定できません。
61	部長	General Manager	※JFLのみ。Jリーグでは指定できません。
70	実行委員	Executive Officer	
73	実行委員代理	Deputy E. Officer	
76	サテ実行委員代理	Deputy E. Officer/S	※Jリーグ(協会員を含む)のみ。
77	業務運営委員		
71	運営委員	Operation Officer	
74	運営担当	Assistant O. Officer	※トップ、サテライトで各1名以内。
72	広報委員	P. R. Officer	※Jリーグ(協会員を含む)のみ。
75	広報担当	Assistant PR Officer	※トップ、サテライトで各1名以内。
80	記録員	Scorekeeper	

上記のとおり申請いたします。

実行委員名 :

印

リーグ使用欄		
事務局長	所属長	担当

入 場 券 報 告 書

㈲日本プロサッカーリーグ
 チェアマン 川淵 三郎 殿

大会名	リーグ戦 (1st 2nd) ・ リーグカップ戦 (該当する大会名を○で囲む)		
競技場名	(収容可能席数 席・発券可能席数 席)		
発売開始日			
発売方法		発売場所	

入場券の種類	席 数	単 価		備 考
		前 売 券	当 日 券	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
年間指定席券	席	円	円	
	席	円	円	
	席	円	円	
招待券	席	—	—	
	席	—	—	
合 計	席	—	—	

*金額には消費税を含みます。

19 年 月 日

クラブ名 :

実行委員 :

印

別紙 7

リーグ使用欄		
事務局長	所属長	担当

試合開催に関する変更申請書

日本プロサッカーリーグ

チェアマン 川淵 三郎 殿

(該当項目を○で囲む) ①開催地(競技場) ②開催日 ③キックオフ時刻

下記のとおり試合開催に関する変更をたく、申請いたします。

大会名	①リーグ戦(1st 2nd) ②リーグカップ戦 ③ Jリーグ戦 ④その他()
対戦カード	vs
試合日	19 年 月 日() キックオフ時刻 :
競技場	

[変更希望]

①開催地	(競技場名)		
②開催日	19 年 月 日()	③キックオフ時刻	:
変更理由			

19 年 月 日

クラブ名:

実行委員:

印

別紙 8

Jリーグ マッチコミッサー報告書

大会名： _____

氏名： _____

試合について

チーム名： _____ VS _____

競技場名： _____

試合結果： _____ : _____ (_____ : _____) (_____ : _____)

延長 (_____ : _____) (_____ : _____) Vゴール _____ 分

P K (_____ : _____)

開催日： 1997年 _____ 月 _____ 日 (_____)

キックオフ： 前半 _____ : _____ (指定時刻 _____ : _____)

後半 _____ : _____ (指定時刻 _____ : _____)

遅延理由： 前半 _____

後半 _____

審判員： 主審 _____

副審1 _____

副審2 _____

予備審判 _____

入場者実数： _____ 人

天候： _____

ピッチ状況： _____

競技場の付帯設備状況： _____

審判員について

主審・副審評価点の目安									
1. 極端に悪い	2. 非常に悪い	3. 悪い	4. 不満足	5. やや不満足					
6. 平均的	7. やや良い	8. 良い	9. 非常に良い	10. 理想的					

1. 主審の評価

A. 個人的資質

A1. 性格（確固としているか、不安さは、困難なケースで観客の影響を受けているか、競技者に影響されているか、公平か）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 × 1

A2. 体力（プレーを追うのが速いか [スピード]、スタミナは十分か、プレーの近くにいるか）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 × 2

B. 審判能力

B1. 競技規則の解釈と適用（規則の精神を適用しているか、故意と故意でないプレイの区別は的確か、アドバンテージの適用はどうか）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 × 3

B2. 任務の遂行能力（些細なことに気を使っているか、対角線式審判法は、副審との協力は、判定ははっきりしているか、笛の吹き方は、シグナルは正しいか、時間は正確か）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 × 2

B3. 規律とコントロール（不正行為や暴力にどう対処しているか、警告や退場は適切か）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 × 2

評価点 (A1+A2+B1+B2+B3) ÷ 10

C. 試合の困難度

1 易しい 2 難しい 3 非常に難しい

理由： _____

2. 副審の評価（各項目を10点満点で評価する）

	ポジショニング		判定		シグナル		主審との協力		合計
副審1	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	+	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	+	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	+	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	=	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>
副審2	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	+	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	+	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	+	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>	=	<input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>

3. その他審判員に関するコメント

警告・退場について

警告：

[理由欄への記入項目] ラ：ラフプレイ、非：非紳士の行為、繰：繰り返しの違反、異：異議、無：無許可
 [評価欄への記入について] 判定・処置が適切かどうか○△×で評価

時間	チーム	選手名	理由	評価	時間	チーム	選手名	理由	評価
分		No.			分		No.		
分		No.			分		No.		
分		No.			分		No.		
分		No.			分		No.		
分		No.			分		No.		

退場：

[理由欄への記入項目] 暴：暴言、著：著しく不正なプレー、乱：乱暴行為、2：警告2回
 [評価欄への記入について] 判定・処置が適切かどうか○△×で評価

時間	チーム	選手名	理由	評価	(懲罰項目) 具体的事由
分		No.			()
分		No.			()
分		No.			()
分		No.			()

警告・退場処置に関するコメント：

運営について（各項目を○△×で評価、未確認項目には斜線 [/] を引く）

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 実行委員、運営委員の任務は適切か | <input type="checkbox"/> カメラマンの誘導、整理は適切か |
| <input type="checkbox"/> マッチコミッテリに対する協力は適切か | <input type="checkbox"/> 観客の導線は適切か |
| <input type="checkbox"/> マッチコミッテリ席は適切か | <input type="checkbox"/> 選手の導線は適切か |
| <input type="checkbox"/> スケジュール設定・進行は適切か | <input type="checkbox"/> 審判の導線は適切か |
| <input type="checkbox"/> 場内整理員および警備員の配置は適切か | <input type="checkbox"/> プレスの導線は適切か |
| <input type="checkbox"/> ボールボーイの行動は適切か | <input type="checkbox"/> 身障者への対応は適切か |

競技について（各項目を○△×で評価、未確認項目には斜線 [/] を引く）

- | ホーム | アウェイ | ホーム | アウェイ |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

観客・サポーターについて（各項目を○△×で評価、未確認項目には斜線 [/] を引く）

- | ホーム | アウェイ | ホーム | アウェイ |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

特記事項（本試合で指摘した事項やただちに改善を要望する事項など）

別紙 9

19 年 月 日

社団法人 日本プロサッカーリーグ
チェアマン 川淵 三 郎 殿
(FAX. 043-258-5544)
規律委員長 丸 山 義 行 殿
(FAX. 03-3990-4522)

Jリーグ
マッチコミッサリー緊急報告書

大会名： _____

チーム名： _____ vs _____

試合結果： _____ : _____ (_____ : _____) (_____ : _____)
延長 (_____ : _____) (_____ : _____) PK (_____ : _____)

試合日時： 19 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (_____) _____ : _____ 時刻

競技場名： _____

審判員：主審 _____ 副審1 _____
副審2 _____ 予備審判員 _____

緊急報告内容：
(時間、チーム名、選手名などを確認し、発言者も明確にすること)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

以上の通り報告いたします

マッチコミッサリー署名： _____

別紙10

(社) 日本プロサッカーリーグ

試合メンバー表

対
19 年 月 日 : 対戦相手

マッチコミッショナー		氏名	年齢	1級登録	試合数 主審 副審	備考
実行委員	主審					
	副審					
運営委員	副審					
	予備審判					

ショブ : ホームチーム ショブ : スタッキング :						Jリーグ 対戦成績	勝	分	敗
NO.	位置	氏名	年齢	身長/体重	出場:得点	前所属チーム	役職		
				/			氏名	年齢	TA
				/					
				/					
				/					
				/					
				/					
				/					
				/					
交代選手			先発11名の平均年齢:			歳			
				/					
				/					
				/					
				/					
			16名の平均年齢:			歳	今大会での成績 勝 分 敗 勝点 順位 得点 失点		

ショブ : アウェイチーム ショブ : スタッキング :									
NO.	位置	氏名	年齢	身長/体重	出場:得点	前所属チーム	役職		
				/			氏名	年齢	TA
				/					
				/					
				/					
				/					
				/					
				/					
				/					
交代選手			先発11名の平均年齢:			歳			
				/					
				/					
				/					
				/					
			16名の平均年齢:			歳	今大会での成績 勝 分 敗 勝点 順位 得点 失点		

リーグ使用種			
事務局長	事務局次長	部長	担当

試合運営報告書

日本プロサッカーリーグ

チェアマン 川淵 三郎 殿

大会名		節・回戦	
日時	19年 月 日 () kickoff時刻 :	競技場	
対戦カード	[ホームクラブ]	vs	[ビジョークラブ]
結果	: (:) 90分 延長(前・後) PK :		
報告内容 (該当する問題点に○)	①競技の進行 ④マスコミ対応	②警備関連 ⑤チケット販売	③観客サービス ⑥その他

以上のとおり報告します。

19年 月 日

クラブ名 :

実行委員 : 印

運営委員 : 印

19 年 月 日

試合収支決算書

チーム名: _____

代表者氏名: _____ 印

大会名		節・回戦	
該当試合	19 年 月 日	VS	

		券種	単価	枚数	金額	
収 入	入 前 売					
		(計)			①	
	場 当 日 券					
		(計)			②	
	(合計)					①+②=③
	その他					
(合計)					④	
[A]					③+④	
支 出	競技場使用料					
	運営人件費					
	雑費 (TEL、FAX、コピー、弁当、プレス対応)					
	その他					
[B]						
収 支 [A - B]						

立替金	マッチコミッサーリ-経費 (日当、旅費)	
	(合計)	

選手登録規程

第1条〔総則〕

本規程は、財団法人サッカー協会（以下「本協会」という）寄附行為細則第15条に基づき、選手の本協会への登録に関して定めるものとする。

第2条〔登録区分〕

本協会における選手登録区分は、次の各号のとおりとする。

- (1) アマチュア選手
- (2) アマチュア以外の選手

第3条〔アマチュア規程〕

アマチュア選手は、本協会のアマチュア規程を遵守するものとする。

第4条〔アマチュア以外の選手〕

アマチュア以外の選手は、次の各号を遵守するものとする。

- (1) 満16歳以上で、本協会加盟登録団体であるチーム（以下「加盟チーム」という）に所属し、本協会の認定を受けること
- (2) 本協会および選手の所属するチームの加盟するリーグ、連盟等（以下「加盟リーグ等」という）が広告・宣伝活動を行う場合は、原則として無償で協力すること
- (3) 国内・国外を問わず、本協会主催以外の試合に出場する場合は、事前に本協会の承認を得ること
- (4) 競技会の会場において本協会または加盟リーグ等の承認なしに広告・宣伝活動を行わないこと

第5条〔規約、規程等の遵守義務〕

選手は、本協会および加盟リーグ等の定める規約、規程等を遵守する義務を負い、当該規約、規程等による制約を受けるものとする。

第6条〔選手登録の方法〕

- ① 本協会への登録は、アマチュア選手、アマチュア以外の選手のいずれも加盟チームが加盟登録団体票（本協会の定める様式一第1号）をもって行う。
- ② アマチュア以外の選手の登録には、前項の加盟登録団体票に加盟チームと選手間の契約書の写しおよび「選手登録申請書」（本協会の定める書式1号または2号）を添付するものとする。

- ③ 本協会は、前項により受けつけた選手登録申請書の写しを管轄都道府県サッカー協会、管轄地域サッカー協会および加盟リーグ等に送付する。
- ④ 第2項に基づく登録申請料は、1件1名につき5,000円とする。

第7条〔登録有効期間〕

- ① 前条に基づく登録の有効期間は、毎年4月1日より翌年3月31日までの1年間（以下「登録年度」という）とする。
- ② 登録年度の途中で行った登録（追加、変更等一切の場合を含む）については当該登録を行った日の属する登録年度が終了するまで有効とする。

第8条〔登録区分変更〕

- ① 選手登録区分変更を希望する選手は、加盟チーム経由で選手登録区分変更申請書（本協会の定める書式1号）により本協会に申請するものとし、本協会は、受けつけた申請を前2条に従って処理する。
- ② アマチュア選手への選手登録区分の変更は、選手1名につき1回に限るものとする。

第9条〔資格認定等の原則〕

選手の資格認定および区分変更認定は、本協会資格委員会の諮問に基づき理事会において決定する。

第10条〔外国籍の選手〕

外国籍の選手（日本国籍を有しない選手）も、本協会に登録する場合、本規程の適用を受けるものとする。

第11条〔外国籍扱いしない選手〕

- ① 日本で生まれ、次の各号のいずれかを満たす選手は、日本国籍を有しない場合でも、外国籍扱いしない。
 - (1) 学校教育法第1条に定める学校において、教育基本法第4条に定める義務教育中のものまたは義務教育を修了したもの
 - (2) 学校教育法第1条に定める高等学校または大学を卒業したもの
- ② 前項の適用をうけるためには、加盟チームが「選手登録申請書（外国籍扱いしない選手）」（本協会の定める書式9号）で本協会に申請し、理事会の承認を得ることを要するものとする。ただし、当該適用は、加盟1チームにつき1名に限るものとする。

第12条〔公式試合への出場〕

本協会に現に登録されている選手に限り、公式試合への出場を許可される。

第13条〔代表チームへの参加〕

加盟チームは、所属選手が本協会の招聘により代表チームまたは選抜チーム等の一員に選出された場合、当該選手を参加させる義務を負う。ただし、傷害または疾病の

ために、本協会の招聘に応ずることのできない選手は、本協会が請求した場合、本協会の選定した医師の健康診断を受けなければならない。

第14条〔規程違反〕

選手または加盟チームが本規程に違反した場合の処分は、理事会が決定する。

第15条〔改正〕

本規程の改正は、理事会の決議に基づきこれを行うものとする。

〔改正〕

平成7年11月9日

選手移籍規程

第1条〔総則〕

本規程は、財団法人日本サッカー協会（以下「本協会」という）寄附行為細則第16条に基づき、アマチュア選手およびアマチュア以外の選手の移籍について定めるものとする。

第2条〔目的〕

- ① 本規程は、本協会の「加盟登録団体および登録選手」（過去に登録していたものおよび現在登録しているものならびに将来登録を希望するもの全てを含むものとし、以下総称して「加盟者」という）相互間ならびに加盟者と外国のサッカー関係団体との間の選手移籍に関する紛争を防止するとともに、紛争が生じた場合にこれを解決することを目的とするものであり、加盟者の全てを拘束する。
- ② 本協会および加盟者は、国際サッカー連盟の定める「選手の資格と移籍に関する規程」、すなわち「Regulations governing the Status and Transfer of Players」（以下「FIFA規程」という）を尊重するものとする。

第3条〔移籍の定義〕

- ① 移籍とは選手が現在所属しているチーム（以下「移籍元チーム」という）を脱退し、別のチーム（以下「移籍先チーム」という）に所属変更することをいう。
- ② 前項の規定にかかわらず、第1種から第5種（「種」とは、本協会寄附行為細則第2条に基づく種別を意味する。以下同じ）に登録している学校のチームに所属する選手が、卒業によって新たなチームに所属変更する場合は、移籍とはみなさない。

第4条〔移籍の手続き〕

- ① 選手が移籍を希望する場合、当該選手は、移籍元チームの発行した「移籍承諾書」を添付した「移籍申請書」を本協会に提出し、その承認を得なければならない。
- ② 本規程の定めにより移籍元チームが「移籍承諾書」を発行すべきにもかかわらずこれを発行しないときは、本協会の理事会は、移籍を希望する選手の申請に基づき、移籍元チームの承諾に代わる決定をなすことができる。

第5条〔アマチュア選手がアマチュア選手として移籍する場合〕

アマチュア選手が、アマチュア選手として移籍先チームへ移籍したい旨を申し出た場合、移籍元チームは、登録年度（毎年4月1日より翌年3月31日まで）途中での移籍を除き、当該移籍を承諾しなければならず、かつ、名目のいかんを問わず、当該移籍に関し対価を請求することができない。

第6条〔アマチュア以外の選手がアマチュア選手として移籍する場合〕

アマチュア以外の選手が、アマチュア選手として移籍先チームへ移籍したい旨を申し出た場合、移籍元チームは、当該選手との契約に基づく根拠がないかぎり、当該移籍について異義を申し立てることができず、かつ、名目のいかんを問わず当該移籍に関し対価を請求することができない。

第7条〔アマチュア選手として移籍する場合の特例〕

- ① 前2条の規程に基づきアマチュア選手として移籍した選手は、本協会が当該移籍を承諾した日から3年間は、移籍元チームの承諾を得ないかぎり、移籍先チームを含むいかなるチームとも、アマチュア以外の選手として契約することができない。
- ② 前項の承諾をする場合、移籍元チームは、移籍先チームに対し、次条に定めるトレーニング費用または第9条第4項に定める移籍金を請求することができる。

第8条〔アマチュア選手がアマチュア以外の選手として移籍する場合〕

アマチュア選手が、アマチュア以外の選手として移籍先チームへ移籍したい旨を申し出た場合、移籍元チームは、当該移籍について異義を申し立てることができない。ただし、移籍元チームが営利法人である場合にかぎり、移籍元チームは、移籍先チームに対し本協会の「トレーニング費用請求基準」に定められた金額を上限とするトレーニング費用を請求することができる。

第9条〔アマチュア以外の選手がアマチュア以外の選手として移籍する場合〕

- ① アマチュア以外の選手をアマチュア以外の選手として移籍させようとする場合、移籍先チームは、当該選手との交渉を開始する前に、移籍元チームの書面による承諾を得なければならない。
- ② アマチュア以外の選手がアマチュア以外の選手として移籍しようとする場合、当該選手は、移籍先チームとの交渉を開始する前に、移籍元チームの書面による承諾を得なければならない。
- ③ 前2項の規定は、移籍の対象となる選手と移籍元チームとのアマチュア以外の選手契約の期間満了（本協会統一契約において優先契約条項に合意している場合には、最後の優先契約期間の終了を意味する。以下同じ）前3か月以内に達しているときには適用されないものとする。
- ④ アマチュア以外の選手契約の期間満了後30か月以内に行われる移籍に関し、移籍元チームは、移籍先チームに対し本協会の「移籍金算出基準」により算出される金額を上限とする移籍金を請求することができる。
- ⑤ アマチュア以外の選手契約の期間満了前であっても、移籍先チームと移籍元チームとが移籍金その他移籍にともなう補償につき合意し、かつ、当該選手も移籍を承諾した場合は、移籍を行うことができる。

第10条〔外国籍選手等の移籍〕

- ① 外国籍の選手（日本国籍を有しない選手）が新たに本協会加盟チームに移籍する場合には、アマチュア選手もしくはアマチュア以外の選手のいずれの場合においても、次の各号の条件を具備し、かつ、本協会に「外国人選手登録申請書」を提出して、その承認を得なければならない。
 - (1) 移籍先チームは、当該選手との交渉を開始する前に、移籍元チームに対し、交渉を開始する旨を書面で通知すること
 - (2) 本人が日本国内に入国し居住していること
 - (3) 満16歳以上の選手については、移籍元チームが加盟するサッカー関係団体が発行したFIFA規程に基づく国際移籍証明書（以下「国際移籍証明書」という）を提出すること
 - (4) 次の各書類を添付すること
 - イ 旅券および入国査証の写し
 - ロ 外国人登録証明書の写し
 - ハ 移籍先チームが発行した資格証明書
- ② 外国のサッカー関係団体に選手として登録されていた日本国籍の選手が本協会加盟チームに移籍する場合にも、前項の規定を準用する。ただし、この場合には前項第4号イおよびロの書類に代えて住民票を添付するものとする。

第11条〔公式試合への出場資格〕

- ① 本規程に基づき移籍した選手は、本協会が登録を承認した日の翌日から公式試合に出場することができる。
- ② アマチュア選手は、前項の規定にかかわらず、本協会が登録を承認した日から30日を経過した後でなければ公式試合に出場することができない。
- ③ 事前に本協会の承認を得て1年以内の研修を目的として外国のチームに移籍した選手が、帰国後、元のチームに移籍する場合、当該選手の公式試合の出場に関しては前項の規定を適用せず、本協会が別途決定する。

第12条〔外国への移籍〕

- ① 外国のチームへ移籍しようとする選手は、本協会が発行する国際移籍証明書の交付を受けなければならない。
- ② 前項の国際移籍証明書の発行は、本協会がFIFA規程に基づき制定した「国際移籍証明書発行基準」によるものとする。

第13条〔代理人等〕

加盟者は、移籍に関し、弁護士以外の者を代理人または仲介人として雇用してはならない。

第14条〔規程違反〕

選手または加盟チームが本規程に違反した場合の処分は、理事会が決定する。

第15条〔移籍に関する異義等〕

- ① 選手の移籍に関して異義または疑義のある加盟者は、本協会に提訴することができる。
- ② 本協会統一契約を締結していない選手の移籍に関する異義または疑義について提訴を受けた場合、本協会は、登録規程上の登録区分のいかんにかかわらず、本規程の適用に関しては、当該選手をアマチュア選手とみなすものとする。

第16条〔改正等〕

- ① 本規程の改正は、理事会の決議に基づきこれを行うものとする。
- ② 選手登録規程第4条第2号に定める加盟リーグ等は、理事会の承認を得た場合には、本規程の特則を設けることができる。

附 則

第1条〔施行期日〕

本規程は、平成4年11月1日から施行する。

日本サッカー協会選手契約書

〔プロ選手統一契約書〕

_____ (以下「クラブ」という) と
_____ (以下「選手」という) とは、選手がクラブのためにアマチュア以外の選手 (以下「プロ選手」という) としてサッカー活動を行うことに関し、次のとおり契約を締結する。

第1条〔誠実義務〕

- ① 選手は、財団法人日本サッカー協会 (以下「協会」という) の寄附行為およびクラブが加盟するリーグ、連盟等 (以下「リーグ等」という) の規約ならびにこれらに付随する諸規程を遵守するとともにクラブの諸規則を遵守し、本契約を誠実に履行しなければならない。
- ② 選手は、プロ選手として自己の全ての能力を最大限にクラブに提供するため、常に最善の健康状態の保持および運動能力の維持・向上に努めなければならない。
- ③ 選手は、プロ選手として公私ともに日本サッカー界の模範たるべきことを認識し、日本サッカーの信望を損なうことのないよう努めなければならない。

第2条〔履行義務〕

選手は、次の各事項を履行する義務を負う。

- (1) クラブの指定するすべての試合および研修ならびに協会およびリーグ等の指定する試合および研修への参加
- (2) クラブの通常のスケジュールのトレーニングならびに特別に指定されたトレーニングおよび合宿を含むトレーニングへの参加
- (3) クラブの指定するミーティングおよび試合の準備に必要な行事への参加
- (4) クラブの指定する医学的検診、注射、予防処置および治療処置への参加
- (5) クラブの指定する広報活動およびファンサービス活動への参加
- (6) 副業に関する事前のクラブの同意の取得
- (7) 合宿、遠征等に際してのクラブの指定する交通機関および宿泊施設の利用
- (8) 居住場所に関する事前のクラブの同意の取得
- (9) その他クラブが必要と認めた事項

第3条〔禁止事項〕

選手は、次の各行為を行ってはならない。

- (1) クラブ、協会およびリーグ等の内部事情の部外者への開示
- (2) 試合およびトレーニングに関する事項 (試合の戦略・戦術・選手の起用・トレー

ニングの内容等)の部外者への開示

- (3) クラブ、協会およびリーグ等の承認が得られない広告宣伝・広報活動への参加もしくは関与
- (4) 本契約履行の妨げとなる内容の第三者との契約の締結
- (5) クラブの事前の同意を得ない、第三者の主催するサッカーもしくはその他のスポーツの試合への参加
- (6) 試合の結果に影響を与える不正行為への関与
- (7) その他クラブにとって不利益となる行為

第4条〔報酬〕

- ① クラブは選手に対し、次の各号の報酬を支払う。
 - (1) 基本給 選手およびクラブの成績にかかわらず支払われる報酬
 - (2) 出場給 リーグ等が定める出場給支給対象試合（以下「支給対象試合」という）の出場実績に応じて支払われる報酬
 - (3) 特別給 別紙1に定める基準により支払われる次の報酬
 - イ. 勝利プレミアム 勝ち試合および引き分け試合の場合に支給する。
 - ロ. 成果プレミアム クラブの順位および選手の個人成績等により支給する。
 - ハ. 特別プレミアム 支給対象試合以外のクラブが指定する試合への出場等（日本代表チームへの選出を含む）の場合に支給する。
 - (4) その他の報酬 別紙2に定める基準により支払われる前3号以外の報酬
- ② 基本給は、次に定める金額とし、毎月___日に支給する。
 - (1) 年額 金_____円
 - (1) 月額 金_____円
(ただし、___月は_____円)
- ③ 支給対象試合1試合あたりの出場給は、「総額」を「支給対象試合数」で割った金額とする。
 - (1) 総額 金_____円
 - (2) 支給対象試合数_____試合
(支給対象試合)
_____(試合) _____(試合)
_____(試合) _____(試合)
_____(試合) _____(試合)
_____(試合) _____(試合)
- (3) 1試合あたりの出場給：金_____円
- ④ 各月の出場回数は、次の係数により計算する。
 - (1) 公式記録に基づく出場時間が45分を超えたとき 1.00
 - (2) 公式記録に基づく出場時間が30分以上45分以下のとき 0.75
 - (3) 公式記録に基づく出場時間が30分未満のとき 0.50
 - (4) 試合登録のみで出場しなかったとき 0.25

第5条〔報酬の算定基準〕

前条に定める報酬は、いずれも円建てとし、所得税、住民税、消費税その他一切の税金を含むものとする。

第6条〔費用の負担および用具の使用〕

- ① 選手がクラブのために旅行する期間の交通費および宿泊費はクラブが負担する。
- ② 選手が試合およびトレーニングに使用する用具のうち、ユニフォーム一式およびトレーニングウェアはクラブが支給したものを使用しなければならない。

第7条〔休 暇〕

選手は、競技シーズン終了後に、連続して2週間以上の休暇を受けることができる。ただし、選手は、休暇を休養の目的に利用しなければならない。

第8条〔疾病および傷害〕

- ① 選手は、疾病もしくは傷害に際して速やかにクラブに通知し、クラブの指示に従わなければならない。
- ② 本契約の履行に直接起因する選手の疾病もしくは傷害（以下「公傷」という）につき、クラブの指定する医師が治療ないし療養を必要と認めた場合、その治療ないし療養に要する費用は、社会保険適用範囲内においてクラブが負担する。
- ③ 公傷により、選手が一時的に競技不能となった場合、クラブは、その競技不能の期間中、第4条第2項に定める基本給を支払わなければならない。ただし、競技不能の期間中に本契約が期間満了その他の理由により終了したときは、その時点でクラブの支払義務は消滅する。

第9条〔選手の肖像等の使用〕

- ① 選手は、選手の肖像、映像、氏名等（以下「選手の肖像等」という）が報道、放送されることおよび当該報道、放送に関する選手の肖像等につき何ら権利を有するものでないことを了承する。
- ② 選手は、クラブから指示があった場合、クラブ、協会およびリーグ等の広報・広告宣伝活動に使用するための素材制作（肖像写真撮影、フィルム・ビデオ撮影、インタビュー録音等）に、原則として無償で応じなければならない。
- ③ クラブは、選手の肖像等を、クラブ、協会およびリーグ等の広報・広告宣伝活動（リーグ等を題材として商品化した商品への使用を含む）のために無償にて使用することができるものとする。ただし、選手個人単独の肖像写真を利用した商品を製造し、有償で頒布する場合、クラブは選手に対し、別途協議して定める対価を支払う。
- ④ 選手は、テレビ・ラジオ番組もしくはイベント等への出演または新聞・雑誌記事もしくは広告宣伝・販売促進活動等への関与については事前にクラブの書面による承諾を得なければならない。
- ⑤ 前項の出演または関与に際しての対価の分配は、クラブと選手が別途協議して定める。

第10条〔クラブによる契約解除〕

- ① 次の各号のいずれかに該当する事実があった場合、クラブは、選手に対し書面（配達証明付内容証明郵便による。以下同じ）で通知することにより、本契約を直ちに解除することができる。
 - (1) 選手が本契約の定め違反した場合において、クラブが改善の催告をしたにもかかわらず、これを拒絶もしくは無視したとき
 - (2) 選手が疾病もしくは傷害によりサッカー選手としての技能を永久的に喪失したとき
- ② 前項に基づき本契約を解除したクラブは、選手に対し、解除通知の発信した日の属する月までの基本給を支払うものとする。

第11条〔選手による契約解除〕

- ① 次の各号のいずれかに該当する事実があった場合、選手は、クラブに対し書面で通知することにより、本契約を直ちに解除することができる。
 - (1) クラブが本契約に基づく報酬等の支払いを約定日から14日を超えて履行しないとき
 - (2) クラブが支給対象試合に正当な理由なく連続して3試合以上出場しなかったとき
 - (3) クラブがリーグ等から除名されたとき
- ② 前項に基づき本契約を解除した選手は、本契約の残存期間分の基本給および出場給（満額）を受け取ることができる。

第12条〔制裁〕

選手につき次の各号のいずれかに該当する事実があった場合、クラブは、選手に対し、戒告もしくは制裁金またはこれらの双方を課することができる。ただし、制裁金の金額は、1つの事実につき、基本給（年額）および出場給（総額）の合計金額の12分の1の30%を超えない範囲で、クラブがこれを決定する。

- (1) 出場した試合において警告、退場または出場停止の処分を受けたとき
- (2) クラブの指示命令に従わなかったとき
- (3) クラブの秩序風紀を乱したとき
- (4) 刑罰法規に抵触する行為を行ったとき

第13条〔有効期間および更新手続き〕

- ① 本契約の有効期間は、199__年__月__日から199__年1月31日までとする。
- ② クラブは、前項の期間満了後__年間は、選手との優先契約権（オプション権）を有するものとし、その期間中、クラブは、年度ごとに、下記の条件を満たすことにより、本契約を更新することができるものとする。
 - (1) 基本給

--

- (2) 出場給

[]

(3) その他

[]

- ③ 本契約を更新（前項の優先契約権の行使を含む）しようとする場合、クラブは、前年の10月31日までに、選手に対し更新の条件を明示した通知を書面により行わなければならない。
- ④ 前項の通知を怠った場合、クラブには本契約を更新する意思がないものとみなし、選手はクラブに対し、移籍リストへの登録を請求することができる。
- ⑤ 本契約の有効期間満了後においても、選手の移籍は、「選手移籍規程」に基づきクラブと移籍先クラブとが移籍金について合意することを条件とする。

第14条〔修正〕

本契約は、クラブ代表者および選手の署名ある文書によってのみ修正され得るものとし、口頭による約束は拘束力をもたないものとする。

第15条〔準拠法〕

本契約は、日本法によって支配されるものとする。

第16条〔紛争の解決〕

- ① 本契約の解釈または本契約の履行に関してクラブと選手との間に紛争が生じたときは、クラブおよび選手が、その都度、誠意をもって協議の上解決する。
- ② 前項の協議を申し入れた後30日を経過しても紛争が解決しないときは、クラブまたは選手は、協会の裁定を求めることができる。
- ③ 前項の協会の裁定は最終のものであり、クラブおよび選手はこれに拘束されることを承認する。

第17条〔保管〕

本契約書は同時に正本2通を作成し、クラブおよび選手がそれぞれ1通ずつ保管する。

19__年__月__日

(住所)

(クラブ名)

(代表者名)

印

(住所)

(選手名)

印

(生年月日)

年

月

日

* 選手が未成年者の場合、法定代理人（親権者または後見人）の記名捺印

(住所)

(氏名)

印

(住所)

(氏名)

印

特別給の支給基準

〔別紙. 1〕

第4条第1項第3号に規定する「特別給」は、以下の基準により支給する。

イ. 勝利プレミアム

(1) 対象試合・金額・支給日： (単位 円)

対 象 試 合	金 額			支 給 日
	勝		分	
	勝		分	
	勝		分	
	勝		分	
	勝		分	
	勝		分	

(2) 支給基準：

ロ. 成果プレミアム

1. クラブの順位による成果プレミアム

(1) 大会名・クラブの順位・金額： (単位 円)

大会名	順位				支給日

(2) 支給基準：

2. 選手の個人成績等による成果プレミアム

(1) 該当事項・金額・支給日：

(単位 円)

該 当 事 項	金 額	支 給 日

(2) 支給基準：

ハ. 特別プレミアム

(1) 該当事項・金額・支給日：

(単位 円)

該 当 事 項	金 額	支 給 日
日本代表チームへの選出		

(2) 支給基準：

その他の報酬

〔別紙. 2〕

第4条第1項第4号に規定する「その他の報酬」は、以下の基準により支給する。

移籍金算出基準

第1条〔趣 旨〕

「選手移籍規程」第9条第4項に規定する移籍金は、この基準により算出する。

第2条〔適 用〕

この基準は、本協会統一契約を締結したアマチュア以外の選手の移籍金の算出についてのみ適用する。

第3条〔算出方法〕

- ① 移籍金の金額は、当該選手の平均報酬額に、次の年齢別係数を乗じた額とする。

本協会が移籍を承認した日の年齢	係 数
(1) 満16歳以上 満22歳未満	7.5
(2) 満22歳以上 満25歳未満	6.0
(3) 満25歳以上 満28歳未満	4.5
(4) 満28歳以上 満31歳未満	3.0
(5) 満31歳以上 満34歳未満	1.5
(6) 満34歳以上	0.0

- ② 前項の平均報酬額は、次の計算式により算出する。

$$\text{平均報酬額} = (A + B + C) \div 3$$

- { A : 移籍元チームにおける現在の基本給(年額) + 出場給(総額)
B : 移籍元チームが申し出た次期の基本給(年額) + 出場給(総額)
C : 移籍先チームが申し出た次期の基本給(年額) + 出場給(総額)

- ③ 前項のCの金額がBの金額未満の場合には、Bの金額をCの金額とみなして前項の計算を行うものとする。

- ④ 移籍元チームは、必要性の少ない選手に関しては、その移籍を円滑に実施し得るように移籍金を設定しなければならないものとし、第2項のBの金額がAの金額を次の

とおり下回る場合には、前各項の規定にかかわらず、移籍元チームが移籍先チームに対して請求することができる移籍金の上限は、次の金額とする。

Bの金額がAの金額を下回る割合	移 籍 金 の 上 限
(1) 30%を超え50%以下のとき	第2項のAの金額
(2) 50%を超えるとき	「トレーニング費用」相当額

第4条〔端数の処理〕

前条により算出された移籍金の金額に千円未満の端数が生じたときは、千円に切り上げる。

第5条〔税金の取扱い〕

移籍元チームと移籍先チームとの間で合意された移籍金の金額に関し、別段の約定のない限り、当該金額には一切の税金が含まれるものとする。

第6条〔支払方法〕

移籍金は、原則として、移籍に関する契約の成立後30日以内に、移籍先チームから移籍元チームに対し、現金をもって一括して支払う。ただし、両チームが合意したときは、分割払いとすることができる。

第7条〔実 施〕

この基準は、平成4年11月1日から実施する。

〔改 正〕

平成8年10月9日

トレーニング費用請求基準

第1条〔趣旨〕

「選手移籍規程」第8条に規定するアマチュア選手がアマチュア以外の選手として移籍する場合のトレーニング費用の請求は、この基準による。

第2条〔トレーニング費用の金額〕

- ① トレーニング費用は、選手が在籍したチーム（営利法人に限る）における満16歳以上の在籍期間に応じ、次に定める金額とする。

在籍期間	3年未満	100万円
在籍期間	3年以上	200万円
- ② 選手が前項の在籍期間中に日本代表チームに選出された場合には、前項の金額に100万円を加算する。
- ③ 選手が移籍前3年以内に在籍したチームが複数存在する場合には、それぞれのチームにおける在籍期間に基づき前2項の金額を按分することを原則とする。

第3条〔支払方法〕

トレーニング費用は、本協会が移籍を承認した日から30日以内に現金をもって一括して支払われるものとする。

第4条〔実施〕

この基準は、平成4年7月1日から実施する。

懲 罰 規 程

第1条 サッカーに係る各種の懲罰に関しては本規程による。

第2条 本規程は、加盟団体（地域協会、都道府県協会、リーグ、連盟等）およびその役員、加盟登録団体（チーム）および役員・競技者に適用される。

第3条 懲罰の対象となる違反行為とは、次の通りとする。

- (1) アマチュア規程違反行為
- (2) 倫理的違反行為
- (3) 登録・移籍等に関する違反行為
- (4) 大会運営上の違反行為
- (5) 試合中の違反行為
ただし、審判の決定により警告、退場の処分を受けた者
- (6) その他提訴、検討、調査などによって発覚した違反行為

第4条 違反行為に対する罰則については、本協会専門委員会において審議され、その後本協会理事会において決定される。

第5条 違反行為者には、違反行為の内容により警告、けん責、罰金、特定数の試合の出場停止および特定期間の出場停止、あらゆる公的職務の一時的もしくは永久停止等の罰則が適用される。なお、これらの罰則は組み合わせることもできる。
ただし、その後の状況に応じて罰則の軽減をすることができる。

付 則

1. 本規程は、昭和58年11月17日より施行する。
2. 本規程の改正は、平成元年7月13日より施行する。
3. 本規程の改正は、平成5年4月1日より施行する。

懲 罰 基 準

Ⅰ 国内において行われる公式競技会において、チーム、チーム役員、競技者の不祥事に対する懲罰基準を次のとおりとする。

1. 警 告

1.1. 主審は以下の場合、競技者に警告を命ずる（退場はない）。

- (1) 反則行為
- (2) 危険な行為
- (3) 主審、副審の判定に対する非難、抗議等
- (4) 主審、副審、他の競技者、その他試合に立ち会っている人々に対する非難
- (5) 不正な行為
- (6) 非紳士的な行為
- (7) 策略的な行為（時間稼ぎ、意図的なハンド等）
- (8) 主審に無断で一時的に競技場を離れる
- (9) その他、スポーツマンらしくない行為（観客への無礼な仕種等）

- ① 罰則：警告の確認。場合によっては罰金も課す。
- ② 繰り返した場合：同一競技会において最低1試合の出場停止。場合によっては罰金も課す。（同一競技会において、前の試合で既に警告されている競技者への警告。内容は同一でなくてもよい。）
- ③ 同一競技会において、上記②の処分に該当する行為を重ねて行った場合：同一競技会において最低2試合の出場停止、および罰金。

1.2. 同一試合中に2度警告を受け、退場を命ぜられた場合（内容は同一でなくてもよい）。

- ① 罰則：最低1試合の出場停止。場合によっては罰金も課す。
- ② 繰り返した場合：最低2試合の出場停止、および罰金。

2. 退 場

2.1. 主審は以下の場合、退場を命ずる。

- (1) 著しい反則行為

- (2) きわめて危険な行為
- (3) 乱暴な行為
- (4) 主審、副審の判定に対する執拗な抗議
- (5) 他の競技者、その他試合に立ち会っている人々に対する侮辱
- (6) 警告を与えられた後、さらに不正な行為を繰り返す
- (7) きわめて非紳士的な行為
- (8) 戦略的な行為を繰り返す (1.―1.(7)参照)
- (9) 主審に無断で抗議のために競技場を離れる
- (10) その他、きわめてスポーツマンらしくない行為 (1.―1.(9)参照)

- ① 罰則：最低1試合の出場停止。場合によっては罰金も課す。
- ② 繰り返した場合：最低2試合の出場停止、および罰金。(内容は同一でなくてもよい)

2.―2. 主審は以下の場合、競技者に退場を命ずる。

- (1) 主審および副審への侮辱

- ① 罰則：最低2試合の出場停止。場合によっては罰金も課す。
- ② 繰り返した場合：最低4試合の出場停止、および罰金。

2.―3. 主審は以下の場合、競技者に退場を命ずる。

- (1) 他の競技者、チーム役員、その他試合に立ち会っている人々に対する乱暴な行為

- ① 罰則：最低2試合の出場停止、および罰金。
- ② 繰り返した場合：最低4試合の出場停止、および罰金。

2.―4. 主審は以下の場合、競技者に退場を命ずる。

- (1) 他の競技者、チーム役員、その他試合に立ち会っている人々に対する著しく乱暴な行為 (乱闘、喧嘩等)

- ① 罰則：最低6試合の出場停止、および罰金。
- ② 繰り返した場合：特定期間 (最低12ヶ月) の出場停止、および罰金。

2.―5. 主審は以下の場合、競技者に退場を命ずる。

- (1) 主審および副審に対する乱暴な行為

- ① 罰則：特定期間（最低 12 ヶ月）の出場停止，および罰金。
- ② 繰り返した場合：永久的な出場停止。

3. その他の違反行為

- 3.一1. その試合において主審が，既に何度か競技者に懲戒処分を課しているにもかかわらず，なおそのチームに違反行為があった場合。

チームに対する罰則：

- ①警告
- ②けん責
- ③罰金
- ④無効試合（場合によっては再戦の義務あり）
- ⑤減点もしくは得点の無効
- ⑥得点を 3 対 0 として試合を没収（ただし，すでに獲得された得点がこれよりかなりの差になっている場合，その得点は有効とする）
- ⑦退場
- ⑧観衆のいない試合の開催
- ⑨中立国における試合の開催
- ⑩現在，または今後の競技会への参加禁止

個人に対する罰則：

- ①警告
- ②けん責
- ③罰金
- ④特定数の試合の出場停止および特定期間の出場停止（またはいずれか）
- ⑤あらゆる公的職務の一時的もしくは永久停止

なお，これらの罰則は組み合わせることもできる。

- 3.一2. チーム，チーム役員，競技者が試合継続を拒否したり，試合を放棄するなどの違反行為があった場合。

罰則：3.一1.に準ずる

- 3.一3. 試合中または試合終了後の，競技場内外における騒乱（観衆による競技場乱入，爆竹，花火，ロケット花火等の投入，その他の事件。この問題については FIFA の指示を参照）。

罰則：3.―1.に準ずる。その試合開催の責任を負う、地域および都道府県サッカー協会もしくはリーグ・連盟に適用されるが、その際、事件の程度、およびそれが繰り返されたか否か等も考慮に入れるものとする。

4. 罰 金

4.―1. 罰金を課す場合は次の基準による。

1 試合の出場停止	10 万円以下の罰金
2 試合の出場停止	20 万円以下の罰金
4 試合の出場停止	40 万円以下の罰金
6 試合の出場停止	60 万円以下の罰金
12ヶ月の出場停止	120 万円以下の罰金

4.―2. アマチュア選手に対しては、罰金を課さないものとする。

II 国外で行われる競技会でのチーム、チーム役員、競技者の不祥事に対する懲罰については、原則としてIの懲罰基準による。

199 年 月 日

(選手名) _____ 殿

住 所 :

クラブ名 :

代表者名 :

(印)

契約更新に関する通知書

貴殿と当クラブとの間に199 年 月 日締結した『プロ選手統一契約』は、来年1月31日をもって契約期間が満了いたします。

イ. つきましては、当クラブは、来年2月1日以降下記の条件をもって貴殿との契約を更新いたしたく、この旨ご通知申し上げます。

なお、現在の契約に優先契約条項（オプション条項）がある場合には、本書が貴殿に到達した時に、下記の条件をもって契約更新の合意が成立したのものとして取り扱われます。

ロ. しかし、当クラブは、来年2月1日以降、貴殿との契約を更新する意思はありませんので、この旨ご通知申し上げます。

なお、上記にともない、貴殿の氏名等は『移籍リスト』に登録されることとなります。

記

※ 現在の契約における優先契約条項の有無： 有・無（いずれかを○で囲む）

		現在の契約の内容	新規の契約の内容
契約期間		199 年 月 日から 199 年 1月31日まで	199 年 2月 1日から 199 年 1月31日まで
報 酬	基本給	(年額) 金 _____ 円	(年額) 金 _____ 円
	出場給	(総額) 金 _____ 円	(総額) 金 _____ 円

[注] : ①上記イまたはロのいずれかを○で囲む。

②上記でロ（更新しない）を選択した場合は、新規契約の報酬欄にはいずれも0と記入する。

以上

(正本3部作成 ⇒ 選手、日本協会、クラブ)

〔書式B〕

199 年 月 日

移籍リスト登録申請書

財団法人 日本サッカー協会 御中

住所 _____
 (申請人) クラブ名 _____
 代表者 _____ (印)

移籍リストの登録に関し、下記のとおり申請いたします。
 記

1. 申請の対象となる選手

- (1) 氏 名 : _____
 (2) 生年月日 : 19__年__月__日 (満__歳)
 (3) 現(最終)所属クラブ : _____
 (4) 現(最終)契約の終了時期 : 19__年__月__日

2. 申請の目的

(□は、いずれかに 印をつける)

- 新規登録
 既登録事項の抹消
 (抹消の理由) : 引退 (引退日: 199__年__月__日)
 移籍 (移籍日: 199__年__月__日)
 (移籍先クラブ: _____)
 その他: _____

登録申請書受付日	年 月 日	受付番号	
----------	-------	------	--

- 〔注〕: (1) 本申請書は、『正本』および『写し』を各1通ずつ作成し、双方とも日本サッカー協会事務局に提出する。
 (2) 『正本』は日本サッカー協会事務局において保管し、『写し』は日本サッカー協会事務局の受付印を押捺後、申請元クラブに返還する。

199 年 月 日

(選手名) _____ 殿

住 所 :

クラブ名 :

代表者名 : (印)

最終提示額証明書

当クラブは、貴殿との次期（199 年2月1日以降）契約に関する交渉において、下記の報酬額を最終的に提示したことを証明いたします。

記

* 現在の契約の終了時期：199 年1月31日

	現在の契約の報酬額	最終提示額
基本給（年 額）	金 _____ 円	金 _____ 円
出場給（総 額）	金 _____ 円	金 _____ 円

以上

199 年 月 日

移籍承諾書発行依頼書

_____ 御中

住 所:

クラブ名:

代表者名: (印)

選 手 名		生年月日	19 年 月 日 (歳)
-------	--	------	---------------

貴クラブ所属の上記選手と、下記1の条件にて契約いたしたいと存じますので、当該選手の移籍承諾書を発行していただきたく、お願い申し上げます。

なお、移籍金につきましては下記2のとおり合意していることを確認いたします。

記

1. 選手との契約条件

契約期間 : 199 年 月 日から199 年 月 日まで

報 酬 : 1. 基本給 金 _____ 円 (年額)

2. 出場給 金 _____ 円 (総額)

2. 貴クラブへの移籍金

移籍金 : 1. 金 額 金 _____ 円

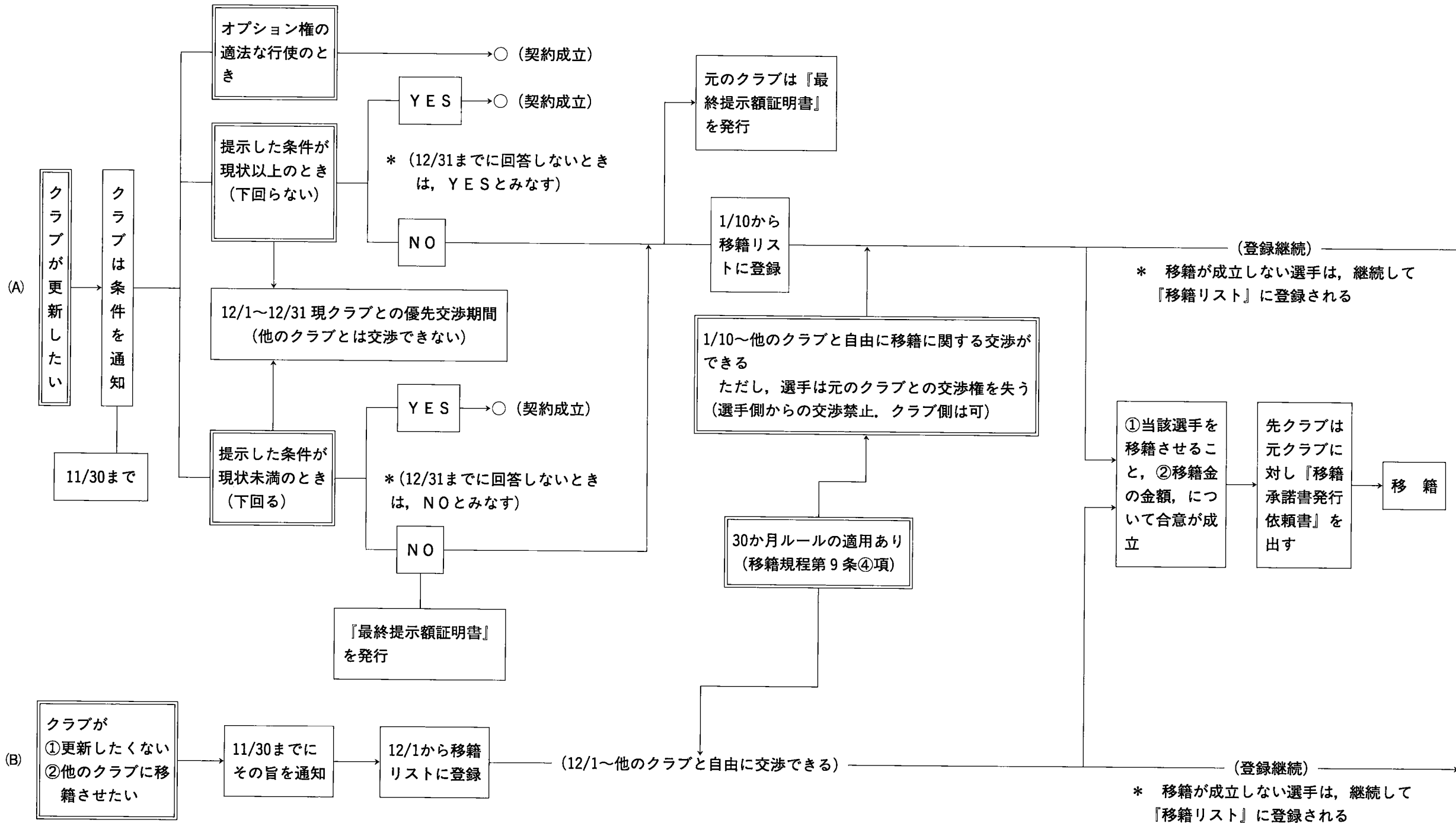
2. 支払い条件 _____

以 上

(正本⇒移籍元クラブ、写し⇒移籍先クラブ、選手)

契約更新と移籍交渉に関する手続き

移籍規程第16条第2項に基づく特則



© 1997 社団法人日本プロサッカーリーグ

〒105 東京都港区虎ノ門2-10-1 新日鉱ビル19階

TEL (03) 3505-5101

発行者／川淵三郎

印刷／株式会社精興社

社団法人日本プロサッカーリーグ